秋 田 市

大 又 Ⅱ 遺 跡

－農地集積加速化基盤整備事業に伴う発掘調査報告書－

2022. 3　秋田市教育委員会

秋田市

大又Ⅱ遺跡

－農地集積加速化基盤整備事業に伴う発掘調査報告書－

2022.３　秋田市教育委員会

例　言

1　本報告は、農地集積加速化基盤整備事業に伴う大又Ⅱ遺跡（秋田市雄和田草川字大又地内）の緊急発掘調査報告書である。

2　本事業は、事業主体者が秋田県秋田地域振興局、調査担当者が秋田市教育委員会（秋田市観光文化スポーツ部文化振興課）となり実施した。本発掘調査経費については、事業主体者である秋田県秋田地域振興局が90.4%を負担し、農家負担分の9.6%は国庫補助金および県費補助金の交付を受けた。秋田市は、発掘作業・整理作業について業務委託し、株式会社イビソク秋田営業所が秋田市の監理のもと業務を受託した。なお、令和２年度に実施した試掘調査は、秋田市教育委員会が調査主体となり、令和２年度国庫補助金ならびに県費補助金の交付を受けて行った。

3　本発掘調査は、調査区をＡ・Ｂ区に分けて実施した。

4　本報告のうち、第１・２章、第３章第１節および第４章第１・２節の執筆を眞井田宏彰が行い神田和彦が補佐した。第４章第３節の執筆を神田が行った。それ以外を秋田市の指示・監理のもと業務受託者（株式会社イビソク秋田営業所菅井一希・山﨑貴之・奥田弘和・佐々木和城）が行った。

5　発掘調査写真は、眞井田および業務受託者（株式会社イビソク秋田営業所菅井・山﨑・奥田・佐々木）が撮影した。遺物写真は、秋田市の指示のもと業務受託者（株式会社イビソク秋田営業所山﨑）が撮影した。

6　発掘調査で出土した炭化物および火山灰について、放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所に、テフラ分析を株式会社パレオ・ラボに依頼し、その結果を別編に掲載した。

7　出土遺物および記録類は、秋田市教育委員会が一括して保管する。遺物の注記は、遺跡略号の「ＯＭⅡ」と出土グリッド・遺構名・層位を併記した。

8　発掘調査、整理作業の過程で下記の各氏より指導、助言を賜った。（敬称略・順不同）
秋田県秋田地域振興局農林部農村整備課、河辺郡芝野堰土地改良区、文化庁、秋田県教育委員会文化財保護室、秋田県埋蔵文化財センター、小松正夫、高橋学、伊藤武士、利部修、安田忠市、谷地薫、小林克、袴田道郎

凡　例

1　図中には下記の略号を用いた。
ＳＡ：柱列塀・柱列跡、ＳＢ：掘立柱建物跡、ＳＤ：溝跡、ＳＩ：竪穴状遺構、ＳＫ：土坑、ＳＰ：ピット、ＳＸ：性格不明遺構

2　図中の方位は、各図面に示した。

3　図中の地図は、秋田市管内図１／50,000、同１／25,000、都市計画図１／2,500を使用した。

4　本文中の遺物については、土器、土製品、石製品、鉄製品の基礎分類ごとに記述した。

5　古代の土器の名称は、秋田城跡歴史資料館の分類に基づく。赤褐色土器は成形にロクロを使用し、酸化炎焼成、非内黒の土器を指す。

6　土器の断面を黒く塗りつぶしたものが須恵器である。

7　遺物実測図中で、内面黒色処理は［　　］、煤の付着は［　　］の網掛けで図示した。

8　遺物実測図の縮尺は１／３、一部は１／６とし、それぞれ各図面に縮尺を示した。

目　　次

例言・凡例

第１章　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　第１節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　第２節　発掘作業の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　第３節　整理作業の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第２章　遺跡の位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　第１節　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第３章　調査の方法と成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
　第１節　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
　第２節　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
　第３節　遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

第４章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
　第１節　各遺構の年代について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
　第２節　遺構の変遷と特徴について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
　第３節　古代地域社会における大又Ⅱ遺跡の位置づけについて・・・・・・・・・・・・・・・ 117

別編　自然科学分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
　第１節　放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
　第２節　テフラ分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130

写真図版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 133

報告書抄録

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

秋田県秋田地域振興局は、秋田市河辺畑谷および雄和田草川周辺で農地集積加速化基盤整備事業を計画していることから、埋蔵文化財保護の対応として秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行い、令和２年８月 31 日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。これを受けて秋田市教育委員会は、分布調査による現状確認と試掘調査を令和２年 11 月９～13 日、30 日に実施した。調査の結果、溝跡をはじめとする複数の遺構を確認した。そこで、新発見の遺跡「大又Ⅱ遺跡」として令和３年１月 25 日付けで秋田県教育委員会に届出をして登録した。

秋田県秋田地域振興局と秋田市教育委員会は遺跡の保護について協議した結果、事業予定地や設計等の変更は困難であることから発掘調査による記録保存を行うこととし、秋田市教育委員会はこの結果を秋田県教育委員会に報告した。秋田県秋田地域振興局は令和３年３月 10 日付けで秋田県教育委員会に土木工事等のための発掘に関する通知書（文化財保護法第 94 条）を提出した。これに対し秋田県教育委員会は、試掘調査の結果に基づき、令和３年３月 23 日付け教生－2300 で発掘調査条件（「工事による掘削が埋蔵文化財に及ぶ場合」に該当）の通知をした。

この通知を受けて、秋田県秋田地域振興局は工事着手前に発掘調査を実施することとし、令和３年３月 25 日付けで秋田市教育委員会に事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を依頼し、令和３年５月 24 日付けで秋田県秋田地域振興局と秋田市は県営農地集積加速化基盤整備業務委託 畑谷地区として埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。事業主体者が秋田県秋田地域振興局、調査担当者が秋田市教育委員会（担当課：秋田市観光文化スポーツ部文化振興課）となり、令和３年 10 月 31 日までに発掘調査を完了し、引き続き令和４年３月 22 日まで整理作業を行うこととした。なお、秋田市は発掘作業・整理作業については業務委託することとし、入札の結果、株式会社イビソク秋田営業所が秋田市の指示・監理のもと業務を受託することになり、事業を実施した。

第２節　発掘作業の経過

試掘調査（令和２年度）

令和２年８月 31 日付けの事前調査依頼に基づき試掘調査を行った。試掘調査については令和２年度国庫補助金および県費補助金を用いて実施し、詳細については秋田市教育委員会 2021『令和２年度 秋田市遺跡確認調査報告書』で報告を行っている。

試掘調査体制（令和２年度）

調査期間　令和２年 11 月９～13 日、30 日
調査面積　613 ㎡（調査対象面積　358,000 ㎡）
調査担当者　秋田市教育委員会
　調査体制　秋田市観光文化スポーツ部文化振興課
　　課　　長　納谷信広
　　文化財担当
　　副参事　岡部友明

主席主査　神　田　和　彦（調査担当）
主席主査　眞井田　宏　彰（調査担当）
主　　査　田　中　圭　紅
主　　査　斎　藤　和　敏
主　　任　堤　　絵莉子

試掘調査により、溝跡や複数のピット等を検出し、赤褐色土器・フイゴ羽口・鉄滓等が出土したことから、区画溝で囲まれた集落跡で鍛冶等を行っている可能性が高いという所見を得た。このことから、事業実施にあたっては発掘調査が必要となるため事業者と協議し、調査の計画・積算を行った。

発掘作業（令和３年度）

調査区を南北に縦断する排水路の東側をＡ区、西側をＢ区として調査を実施した。６月 17 日、重機を用いて表土および造成土である第Ⅰ・Ⅱ層の除去をＡ区から開始した。表土除去が終わった場所から、順次グリッド打設と人力による遺構の精査を行った。６月 30 日、Ａ区西端の排水路に並行する農道が近年の盛土造成によるものと判明し、区画溝の断面を確認するため盛土造成土を断ち割った。７月８日、Ｂ区での遺構精査を概ね終了し、調査区全体の遺構分布の概要を把握した。試掘調査では区画溝が調査区の縁辺を弧を描くように巡ると考えたが、遺構精査の結果、既に削平されているものの、調査区外に延びることが分かった。Ａ区の調査を先行し、遺構の一段下げに並行して各遺構の掘り下げを進めることとした。８月２日から、Ａ区に十字に設けた土層観察用ベルトを、小型重機で除去した。８月３日、Ａ区西端から区画溝の掘り下げに着手した。８月４日、区画溝から火山灰様の粒子を検出。共伴する赤褐色土器の年代等から、十和田ａ火山灰の可能性があると考えた。８月 20 日、Ａ区南側で検出した数基の方形プランが竪穴住居跡ではなく、現代の畝跡の集合体であることが判明した。８月 30 日、Ａ区西端の区画溝掘り方底部で、材木が当たっていたと考えられる円形の痕跡が一定の間隔で複数見つかった。９月９日、Ｂ区に十字に設けた土層観察用ベルトを人力で除去し、Ｂ区で検出した遺構の一段下げおよび掘り下げに着手した。10 月 16 日、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として定員を設けた形で現地説明会を開催し、36 名の参加があった。10 月 26 日、遺跡全景の空中写真撮影を行った。10 月 31 日までに検出遺構および土層断面の記録化を終え、現場での調査を完了した。11 月８日までにプレハブ・機材等を全て撤収し、全工程を終了した。

発掘作業体制（令和３年度）

調査期間　令和３年６月 17 日～10 月 31 日
調査面積　約 3，720 ㎡
事業主体者　秋田県秋田地域振興局
調査担当者　秋田市教育員会
調査体制　秋田市観光文化スポーツ部文化振興課
課　　長　畠　山　　健
文化財担当
副 参 事　岡　部　友　明（調査担当）
主席主査　神　田　和　彦（調査担当）
主席主査　眞井田　宏　彰（主務者：調査担当）

主　　査　田　中　圭　紅
主　　査　斎　藤　和　敏
主　　事　齊　藤　志帆子
業務受託者　株式会社イビソク秋田営業所
調査支援員　菅井一希
調査補助員　山崎貴之、佐々木和城
計　測　員　奥田弘和
調査作業員　相場武志、伊藤保一、大高晃悦、齊藤金広、斉藤康男、佐藤一夫、鈴木清隆、鈴木寿、鈴木浩慶、津島隆雄、中森一之、奈良孝二、長谷川秀樹、古戸由美、堀井健治、三浦アエ子、三浦正直、三浦喜男

第3節　整理作業の経過

整理作業（令和3年度）

発掘作業に引き続き、令和3年11月4日から、出土遺物等の室内整理作業を実施した。遺物洗浄（令和3年11月）、遺物接合（令和3年11月）、遺物注記（令和3年11月・令和4年2月）、遺構図面スキャニング（令和3年11月）、遺物実測（令和3年12月～令和4年1月）、遺構図面トレース（令和4年1月）、遺構図面レイアウト（令和4年1月）、遺物写真撮影（令和4年1月下旬）、遺物図面トレース（令和4年1月中旬～2月上旬）、遺物図面レイアウト（令和4年2月上旬）、編集作業（令和4年2月）を実施し、印刷所へ入稿した。令和4年3月22日までに校正・製本・印刷物の送付を行い、全工程を終了した。出土遺物はコンテナ（内寸54×34×15㎝）で15箱である。

整理作業体制（令和3年度）

作業期間　令和3年11月4日～令和4年3月22日
事業主体者　秋田県秋田地域振興局
調査担当者　秋田市教育員会
調査体制　秋田市観光文化スポーツ部文化振興課
課　　長　畠　山　　健
文化財担当
副参事　岡　部　友　明
主席主査　神　田　和　彦（整理担当）
主席主査　眞井田　宏　彰（主務者：整理担当）
主　　査　田　中　圭　紅
主　　査　斎　藤　和　敏
主　　事　齊　藤　志帆子
業務受託者　株式会社イビソク秋田営業所
調査支援員　菅井一希
調査補助員　山崎貴之、佐々木和城
計　測　員　奥田弘和
整理作業員　斉藤淑子、佐藤摩利、髙橋朋子、古戸由美、宮川さおり

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

大又Ⅱ遺跡は、ＪＲ奥羽本線四ツ小屋駅の南東約 2.6 ㎞、雄物川と岩見川の合流点からは東南東に約 3 ㎞の岩見川左岸に位置し、北緯 39° 38′ 31″、東経 140° 9′ 46″（世界測地系：Ｘ＝－39,530、Ｙ＝－57,540）、標高約 10.5ｍの秋田市雄和田草川字大又地内に所在する（第１図）。国道 13 号線から主要地方道秋田雄和本荘線を南下し、市道本田畑谷線を東へ約 800ｍ進んだ場所である。遺跡からは、岩見川を挟んだ北側に御所野台地がよく見え、雄物川河口の先には男鹿半島を遠望できる。なお、岩見川および雄物川を下った北西 13 ㎞先の高清水丘陵には、古代城柵官衙の秋田城跡がある。

大又Ⅱ遺跡の立地は、地形分類では岩見川低地に位置し、周辺は河川に隣接する低地、高位の台地・段丘地、さらに高い山地・丘陵地に分けられる（経済企画庁総合開発局国土調査課編 1966、第２図）。令和２年度に行った遺跡事前調査の結果から、当該地は周辺の水田との比高が約１ｍある島状の地形であり、岩見川沿いに形成された自然堤防が何らかの理由で分断された場所と考えられる。また、遺跡の中央やや西よりに、水田の排水路が南北に縦断する（第３図）。

第２節　歴史的環境

周辺の遺跡

大又Ⅱ遺跡の北約２㎞に御所野台地遺跡群が、東約 4.5 ㎞に七曲台遺跡群が位置するなど、周辺には数多くの遺跡が存在する。ここでは、秋田市教育委員会が昭和 61 年から 63 年に作成した『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書』（秋田市教育委員会 1989）および『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書－改訂版－』（秋田市教育委員会 2002）、秋田県教育委員会が平成 15 年に作成した『秋田県遺跡地図（秋田・河辺地区版）』（秋田県教育委員会 2004）などに基づいて、大又Ⅱ遺跡周辺の古代遺跡について概観する（第４図、第１・２表）。

岩見川を挟んで大又Ⅱ遺跡の北側（岩見川右岸）にある御所野台地は、秋田新都市開発関係事業に伴い台地の大部分を発掘調査した場所であり、発掘調査をした 31 遺跡のうち 10 箇所を超える遺跡で８世紀末から 10 世紀にかけての遺跡が見つかっている。坂ノ上Ｆ遺跡（７）と深田沢遺跡（22）では、それぞれ２軒と６軒の竪穴住居跡の他に掘立柱建物跡が見つかった。出土遺物は須恵器が多く、墨書土器も伴う。一般的な集落というよりは、秋田城と密接な関係を持った遺跡と考えられる。下堤Ｃ遺跡（30）は、31 軒の竪穴住居跡が見つかった特に大きな集落で、御所野台地の中心的なムラであったと考えられる。この遺跡の東西で竪穴住居跡の特徴が異なることは、時期差に加えて、外部から様々な文化が導入されたことや秋田城との関わりの結果とも考えられる。生産に関係する遺跡として、坂ノ上Ｅ遺跡（６）・下堤Ａ遺跡（28）・野形遺跡（21）がある。坂ノ上Ｅ遺跡では、製鉄関係遺構が見つかった。半地下式竪形製鉄炉で、東側にトンネル式の炭窯が隣接する。下堤Ａ遺跡では、竪穴住居跡４軒が見つかった他、フイゴ羽口が出土した。野形遺跡では、竪穴住居跡３軒の他に土器の焼成遺構が 12 基見つかった。土壙墓がまとまって確認された遺跡として、湯ノ沢Ｆ遺跡（17）がある。土壙墓は 40 基あり、平面形は多くが隅丸方形で、副葬品として鉄刀や銭貨・石帯・銅製帯金具などが出土した。秋田城に密接に関係した集団の墓地と考えられる。以上の他に、地蔵田Ａ遺跡（10）では竪穴住居跡５軒と掘立柱建物跡、湯ノ

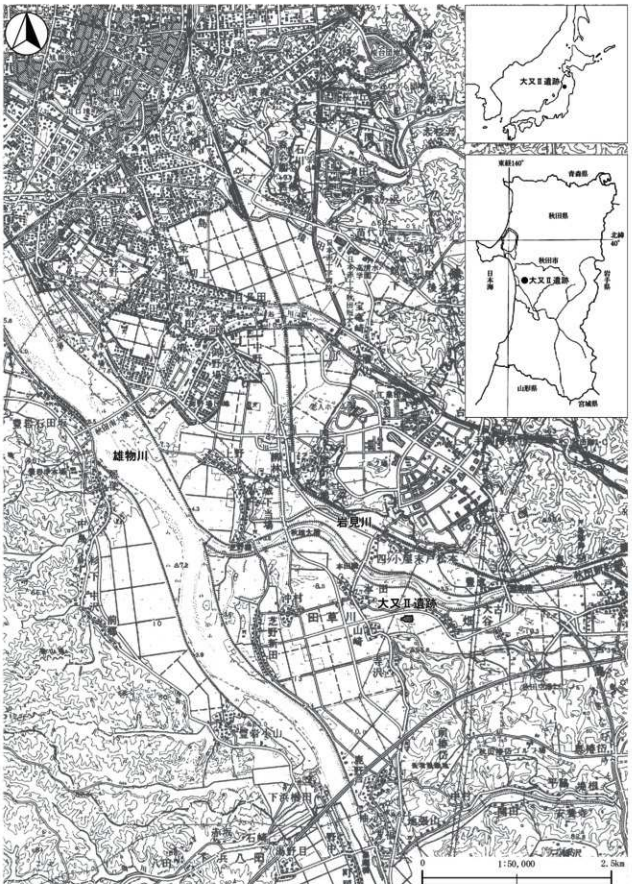
沢Ｂ遺跡（13）では竪穴住居跡１軒、秋大農場南遺跡（26）では竪穴住居跡１軒と土坑、下堤Ｂ遺跡（29）では竪穴住居跡３軒と土坑、下堤Ｄ遺跡（31）では竪穴住居跡３軒が見つかっている。また、湯ノ沢Ｉ遺跡（25）では、遺構は見つかっていないものの小型の土錘が67点出土している。

岩見川右岸では、上述の御所野台地遺跡群の他に、平安時代の遺跡として小阿地古墳（37）と虚空蔵大台滝遺跡（42）がある。小阿地古墳は、明治36年の奥羽本線鉄道敷地工事および大正６年の四ツ小屋駅停車場造成工事に伴う土取場の土砂採取の際に、竪穴遺構や花弁双蝶八花鏡・金銅装大刀・勾玉・管玉・須恵器などが見つかった。竪穴遺構は、奈良時代後期から平安時代初めに造られた古墳に伴う周堀（周溝）と考えられている。虚空蔵大台滝遺跡は、台地全域が平安時代後期の大規模な城館である。台地縁辺の平坦部で柵列、斜面で空堀や切岸が見つかり、灰釉陶器やかわらけなどが出土した。

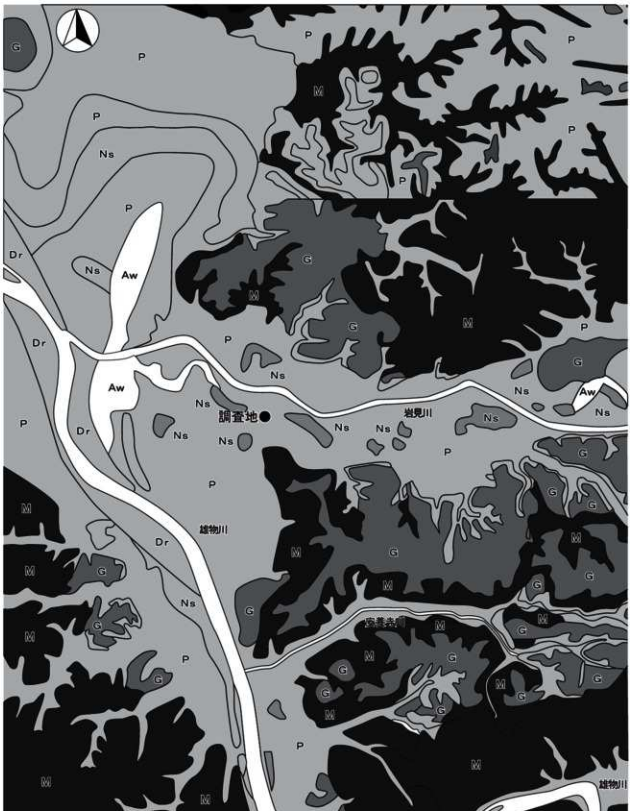
岩見川左岸は、右岸に比べて遺跡数が少ない。河辺松木台Ⅲ遺跡（松木台Ⅲ遺跡）（45）は、鍛冶を生業とした工人が住んだ小規模な集落と考えられる。竪穴住居跡４軒の他、焼土遺構や土坑などが見つかった。戸島上野Ⅰ遺跡（上野遺跡）（55）は、台地の縁辺部に柵列が巡る集落である。竪穴住居跡６軒と掘立柱建物跡11棟などが見つかった。住居床から焼土遺構が見つかったことや鉄滓の出土から、鍛冶遺構の存在が推測される。他に、河辺松木台Ⅱ遺跡（松木台Ⅱ遺跡）（44）では土坑１基、岱Ⅲ遺跡（61）では竪穴住居跡１軒が見つかっている。

【引用・参考文献】

秋田市教育委員会　1982『秋田市　下堤Ｄ遺跡発掘調査報告書』
秋田市教育委員会　1983『秋田市　秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書−下堤Ｇ遺跡・野畑遺跡・湯ノ沢Ｂ遺跡−』
秋田市教育委員会　1984『秋田市　秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書−坂ノ上Ｅ遺跡・湯ノ沢Ａ遺跡・湯ノ沢Ｃ遺跡・湯ノ沢Ｅ遺跡・湯ノ沢Ｆ遺跡・湯ノ沢Ｈ遺跡・野形遺跡−』
秋田県教育委員会　1985『七曲台遺跡群発掘調査報告書』
秋田市教育委員会　1985『秋田市　秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書−下堤Ｅ遺跡・下堤Ｆ遺跡・坂ノ上Ｆ遺跡・狸崎Ａ遺跡・湯ノ沢Ｄ遺跡・深田沢遺跡−』
秋田市教育委員会　1986『秋田市　秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書−地蔵田Ｂ遺跡・台Ａ遺跡・湯ノ沢Ｉ遺跡・湯ノ沢Ｆ遺跡−』
秋田市教育委員会　1987『秋田市　秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書−下堤Ｃ遺跡−』
秋田市教育委員会　1988『秋田市　秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書−下堤Ａ遺跡・下堤Ｂ遺跡−』
秋田市教育委員会　1989『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書』
秋田市教育委員会　1992『秋田市　秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書−狸崎Ｂ遺跡・秋大農場南遺跡−』
秋田市教育委員会　1993『秋田市　秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書−狸崎Ｂ遺跡・地蔵田Ａ遺跡−』
秋田市教育委員会　1994『秋田市　秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書−地蔵田Ａ遺跡−』
秋田県教育委員会　2000『上野遺跡−日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ−』

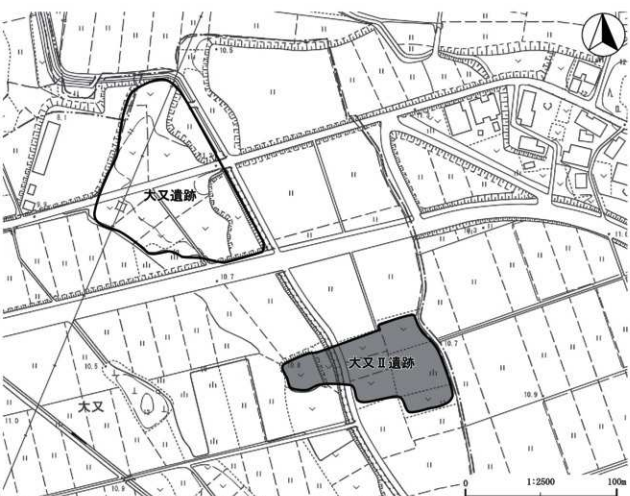

大又Ⅱ遺跡
東経140°
青森県
秋田県
北緯40°
秋田市
日本海
大又Ⅱ遺跡
岩手県
山形県
宮城県
雄物川
岩見川
大又Ⅱ遺跡
大又川
0
1:50,000
2.5km

第１図　遺跡位置図

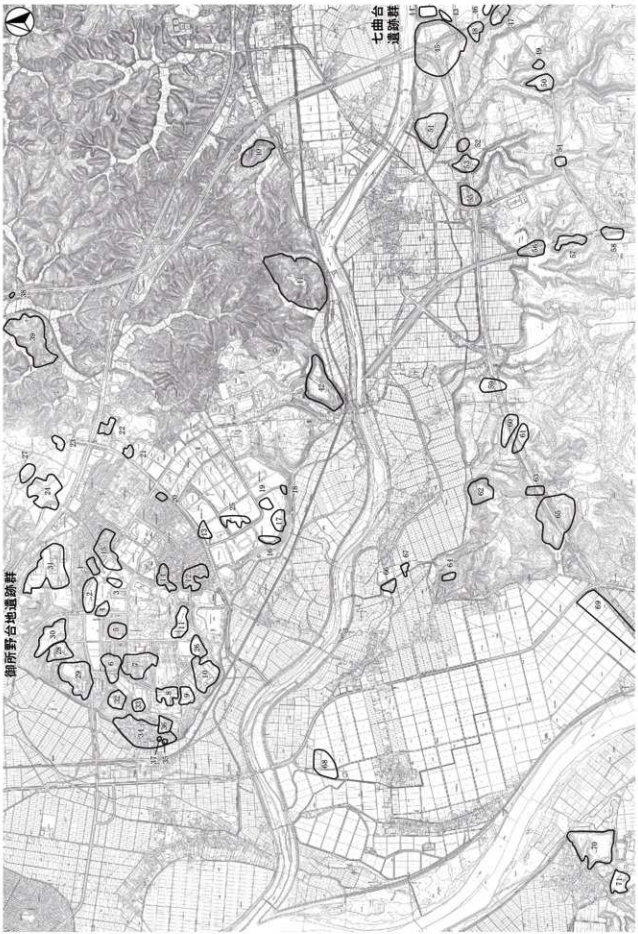


第２図　地形分類図（S=1/50，000）

秋田県教育委員会 2001『岱Ⅰ遺跡・岱Ⅱ遺跡・岱Ⅲ遺跡−日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅴ−』
秋田市教育委員会 2002『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書−改訂版−』
秋田県教育委員会 2004『秋田県遺跡地図（秋田・河辺地区版）』
秋田市 2004『秋田市史 第１巻 先史・古代通史編』
秋田県教育委員会 2007『虚空蔵大台滝遺跡−主要地方道秋田御所野雄和線秋田空港アクセス道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書−』
秋田市教育委員会 2011『秋田市 地蔵田遺跡−旧石器時代編−』



第３図　周辺の地形



第４図　遺跡周辺図

第１表　周辺の遺跡一覧（１）

番号	遺跡名	種別	所在地	時代	遺構／遺物
1	下堤E	集落跡	御所野下堤一丁目	縄文	竪穴住居跡・竪穴状遺構・土坑等／縄文土器・石器
2	下堤F	集落跡	御所野地蔵田一丁目、下堤一丁目	縄文	竪穴住居跡・土坑／縄文土器・土製品・石器等
3	下堤G	遺物包含地・集落跡	御所野地蔵田一丁目	旧石器・縄文	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構等／旧石器・縄文土器・石器
4	坂ノ上C	遺物包含地	御所野地蔵田一丁目	縄文	縄文土器・石器
5	坂ノ上D	遺物包含地	御所野地蔵田二丁目	縄文	縄文土器・石器・土製品
6	坂ノ上E	集落跡・製鉄炉跡	御所野地蔵田二丁目	縄文・平安	竪穴住居跡・製鉄炉跡・炭窯／縄文土器・土製品・石器・石製品・須恵器・鉄滓・炉壁
7	坂ノ上F	集落跡	御所野地蔵田四丁目	旧石器・縄文・弥生・平安	竪穴住居跡・竪穴状遺構・土坑・埋設土器遺構・炉・掘立柱建物跡・柱列／旧石器・縄文土器・石器・土製品・弥生土器・赤褐色土器・土師器・須恵器等
8	狸崎A	集落跡・土壙墓群	御所野地蔵田四丁目、五丁目	縄文・弥生	竪穴住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・土壙墓／縄文土器・土製品・石器・石製品・弥生土器
9	狸崎B	遺物包含地・集落跡	御所野地蔵田五丁目	旧石器・縄文・弥生	竪穴住居跡・竪穴遺構・溝跡・土坑・焼土遺構・掘立柱建物跡／旧石器・縄文土器・石器・土製品・弥生土器
10	地蔵田A	遺物包含地・集落跡	御所野地蔵田五丁目	旧石器・縄文・平安	掘立柱建物跡・竪穴住居跡・竪穴遺構・土坑・溝状土坑／旧石器・縄文土器・弥生土器・須恵器・赤褐色土器
11	地蔵田（地蔵田B）	遺物包含地・集落跡・墓跡	御所野地蔵田三丁目	旧石器・縄文・弥生	竪穴住居跡・土壙墓・土器棺墓・土坑・木柵跡・掘立柱建物跡／旧石器・縄文土器・石器・土製品・弥生土器等
12	湯ノ沢A	集落跡	御所野元町七丁目	縄文・弥生	竪穴住居跡・土坑・土器埋設遺構等／縄文土器・弥生土器・土製品・石器等
13	湯ノ沢B	集落跡	御所野湯本三丁目	縄文・平安	竪穴住居跡・土坑／縄文土器・石器・土師器・須恵器・赤褐色土器
14	湯ノ沢C	集落跡	御所野元町七丁目	縄文	竪穴住居跡・土坑／縄文土器・石器・石製品
15	湯ノ沢D	集落跡	御所野地蔵田一丁目他	縄文	竪穴住居跡・フラスコ状ピット・土坑・炭焼窯跡／縄文土器・石器・石製品等
16	湯ノ沢E	遺物包含地	御所野湯本六丁目	縄文	土坑・石組遺構／縄文土器・石器
17	湯ノ沢F	土坑・墓	御所野湯本六丁目	弥生・平安	土坑・土壙墓／弥生土器・土師器・須恵器・赤褐色土器・鉄製品（馬具・鉄鏃・刀）・帯金具・陸平永宝・漆皮箱
18	湯ノ沢G	遺物包含地	御所野湯本五丁目	縄文	縄文土器・石器
19	湯ノ沢H	集落跡・遺物包含地	御所野湯本六丁目	縄文・弥生	竪穴住居跡・竪穴状遺構・土坑／縄文土器・石器・弥生土器
20	野畑	集落跡	御所野下町五丁目	縄文	竪穴住居跡・土坑／縄文土器・石器
21	野形	集落跡・窯跡	御所野湯本一丁目	平安	竪穴住居跡・窯跡・土坑／土師器・須恵器・赤褐色土器・土錘
22	深田沢	遺物包含地・集落跡	御所野湯本一丁目	弥生・平安	掘立柱建物跡・竪穴住居跡・竪穴遺構・土坑／弥生土器・石器・土師器・須恵器・赤褐色土器
23	台A	集落跡	上北手古野宇台	縄文	竪穴住居跡・土坑等／縄文土器・石器・土製品
24	地方	集落跡・土壙墓群	上北手猿田宇堤ノ沢	縄文	竪穴住居跡・掘立柱建物跡　土壙墓・土坑／縄文土器・石器・土製品・石製品
25	湯ノ沢I	遺物包含地	御所野湯本四丁目	弥生・平安	土坑／弥生土器・土師器・土錘
26	秋大農場南	遺物包含地・集落跡	御所野地蔵田五丁目	旧石器・縄文・平安	竪穴住居跡・土坑・溝状土坑・土器埋設遺構・焼土遺構／旧石器・縄文土器・石器・赤褐色土器
27	台B	集落跡・遺物包含地	上北手猿田宇堤ノ沢	縄文	竪穴住居跡・土坑／縄文土器・石器
28	下堤A	集落跡	御所野下堤五丁目	縄文・平安	竪穴住居跡・フラスコ状ピット・土坑等／縄文土器・石器・土製品・土師器
29	下堤B	集落跡	御所野下堤五丁目	縄文・平安	竪穴住居跡・フラスコ状ピット・土坑／縄文土器・石器・赤褐色土器・須恵器
30	下堤C	集落跡・遺物包含地	御所野下堤五丁目	縄文・平安	竪穴住居跡・竪穴遺構・土坑／縄文土器・赤褐色土器・須恵器・土師器
31	下堤D	集落跡・遺物包含地	御所野下堤三丁目	旧石器・縄文・平安	竪穴住居跡・土坑・Tピット／旧石器・縄文土器・石器・土製品・赤褐色土器・土師器
32	坂ノ上A	集落跡	四ツ小屋小阿地字坂ノ上	縄文	竪穴住居跡・土坑・配石／縄文土器・石器・土製品
33	坂ノ上B	（祭祀跡）	四ツ小屋小阿地字坂ノ上	縄文	祭祀遺構／縄文土器・石棒・土製品・弥生土器棺
34	坂ノ下館	城館	四ツ小屋小阿地字坂ノ下	中世	
35	坂ノ下I	遺物包含地	四ツ小屋小阿地字坂ノ下23	縄文	縄文土器・石器

第２表　周辺の遺跡一覧（２）

番号	遺跡名	種別	所在地	時代	遺構／遺物
36	坂ノ下Ⅱ	遺物包含地	四ツ小屋小阿地字坂ノ下	縄文・平安	縄文土器・石器・土師器・須恵器
37	小阿地古墳	（古墳）	四ツ小屋小阿地字坂ノ下	奈良・平安	八花鏡・直刀・鍬手刀・鉄斧・轡・勾玉・須恵器等
38	古野館	城館	上北手古野字四枚田他	中世	主郭・郭・腰郭・帯郭・空堀
39	古野	集落跡・遺物包含地	上北手古野字向老方	旧石器・縄文・平安・中世・近世	竪穴住居跡・土坑・掘立柱建物跡等／旧石器・縄文土器・須恵器・土師器・中世陶器・近世陶磁器・石器
40	薬師沢	遺物包含地	河辺北野田高野字薬師沢39他	中世	中世陶器片
41	豊島館跡	館跡	河辺戸鳥字戸鳥館79-5	中世	空堀・帯郭・土塁／陶片・刀・人骨
42	虚空蔵大台滝	館跡	河辺豊成字虚空蔵大台滝48-23他	縄文・平安・中世	土塁・空堀・帯郭・土坑・柵跡・柱穴・堀跡・焼土遺構／珠洲系中世陶器・かわらけ・須恵器・土師器・鉄製品・鉄滓
43	河辺松木台Ⅰ（松木台Ⅰ）	遺物包含層	河辺松渕字松木台97	縄文・弥生	縄文土器片・弥生土器片
44	河辺松木台Ⅱ（松木台Ⅱ）	遺物包含層	河辺松渕字松木台81	旧石器・縄文・平安	土坑・石囲炉・埋設土器・配石／旧石器・縄文土器・須恵器・石鏃・石錘・石匙
45	河辺松木台Ⅲ（松木台Ⅲ）	集落跡	河辺松渕字松木台57他	旧石器・縄文・平安・近世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・柱列・Ｔピット・土坑・フラスコ状土坑・焼土遺構・配石遺構・ピット／旧石器・縄文土器・石器・須恵器・土師器
46	石坂台Ⅲ	遺物包含層	河辺戸鳥字石坂台232	縄文	土坑・Ｔピット・埋設土器／縄文土器・石鏃・石匙
47	石坂台Ⅷ	集落跡	河辺戸鳥字七曲石坂台168-3他	縄文・弥生・近代	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構／縄文土器・弥生土器・石器
48	石坂台Ⅸ	集落跡	河辺戸鳥字七曲285-1他	縄文	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構／縄文土器・石器
49	駒坂台Ⅰ	遺物包含地	河辺戸鳥字駒坂台83他	縄文	土坑／縄文土器・剥片・凹石
50	駒坂台Ⅱ	遺物包含地	河辺戸鳥字駒坂台80他	縄文	炉跡・組石遺構／縄文土器・石鏃・嘴状石器・楔形石器・錐状石器・スクレイパー
51	七曲台	遺物包含層	河辺戸鳥字七曲台2-2他	縄文・弥生	縄文土器片・弥生土器片
52	井戸尻台Ⅰ	集落跡	河辺戸鳥字井戸尻台49他	縄文・弥生	竪穴住居跡・竪穴状遺構・建物跡・土坑・土器埋設遺構・焼土遺構・柱穴用ピット／縄文土器・土偶・石器・石製品・弥生土器・陶器・寛永通貨
53	井戸尻台Ⅱ	遺物包含層	河辺戸鳥字井戸尻台5-24他	縄文	石匙
54	上祭沢	集落跡	河辺戸鳥字上祭沢38-4他	縄文・中世	竪穴住居跡・土坑・屋／縄文土器・中世陶器・石鏃・尖頭器・剥片・石核・凹石・磨石・石斧
55	戸鳥上野Ⅰ（上野）	集落跡	河辺戸鳥字上野119-3他	縄文・弥生・平安	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構・溝跡・掘立柱建物跡・性格不明遺構・柱穴状ピット／縄文土器・弥生土器・石器・土師器・須恵器・鉄製品・鉄滓・土製品
56	戸鳥上野Ⅱ	遺物包含層	河辺戸鳥字上野32-1他	縄文	土坑／縄文土器片
57	大堤山	遺物包含層	河辺戸鳥字大堤山27-2他	奈良・平安	溝跡／土師器片
58	奥椿岱	集落跡	雄和椿川字奥椿岱	縄文	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構・Ｔピット・集石遺構・柱穴
59	岱Ⅰ	遺物包含層	河辺畑谷字岱217-1他	縄文	陥し穴・土坑／縄文土器・石器
60	岱Ⅱ	集落跡	河辺畑谷字岱314他	縄文	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構／縄文土器・石器・土師器・須恵器
61	岱Ⅲ	集落跡	河辺畑谷字岱286他	縄文・弥生・平安	竪穴住居跡・土坑・土器埋設遺構／縄文土器・石器・石製品・土師器・土製支脚
62	畑谷館	館跡	河辺畑谷字蟹沢132	平安	空堀・土塁／土器片・石鏃
63	蟹沢Ⅰ	遺物包含層	河辺畑谷字蟹沢143-10他	縄文	土坑・焼土遺構／縄文土器・石鏃・スクレイパー・剥片
64	山崎山	遺物包含層	雄和田草川字山崎山	縄文・平安	縄文土器・剥片・スクレイパー・須恵器
65	山崎山Ⅱ	遺物包含層	雄和田草川字山崎山	縄文	縄文土器片・掻器・剥片
66	大又	遺物包含層	雄和田草川字大又	奈良・平安	土師器片
67	**大又Ⅱ**	**集落跡**	**雄和田草川字大又**	**平安**	**溝跡・ピット／赤褐色土器・フイゴ羽口・鉄滓**
68	船ヶ沢	遺物包含層	雄和田草川字船ヶ沢	奈良・平安・中世	土師器片・中世陶器片
69	鹿野戸谷地	遺物包含地	雄和椿川字鹿野戸谷地30他	縄文・奈良・平安	土師器片・石器片・陶器片
70	小山館	城館・遺物包含地	豊岩小山字袖ノ沢	縄文・中世	石鏃・剥片
71	狐森	遺物包含地	豊岩小山字狐森	縄文	縄文土器・石器

第３章 調査の方法と成果

第１節 調査の方法

調査対象地に一区画４ｍ×４ｍのグリッドを設定した。グリッドは世界測地系座標にあわせて設定し、グリッド南北軸に算用数字（…49、50、51…）、グリッド東西軸に２文字のアルファベット（…MB・MA・LT…）を付し、各グリッドの南東隅の交点で両者を組み合わせてグリッド名とした。グリッド東西軸・南北軸の世界測地系は、第３表のとおりとなる。便宜上、調査対象地を南北に縦断する排水路を境に、東側の調査区をＡ区、西側の調査地をＢ区と呼称した。（第５図）

表土および造成土は、層を確認しながらバックホーを利用して除去し、途中で作業員による手掘りに切り替え掘り下げた。

遺物の取り上げは、グリッド名・層位等を記録したグリッド上げを基本とし、適宜、出土地点を記録して取り上げた。また、比較的規模が大きい遺構（ＳＩ01、ＳＫ07～09、ＳＸ01など）については、遺構を４分割し、北東部分から時計回りにａ・ｂ・ｃ・ｄグリッドと呼称し、取り上げた。

平面図の作成は、トータルステーションによる測量、オルソ画像のデジタルトレースを中心に行い、縮尺は必要に応じて適宜変更した。土層断面図は、１／20の縮尺で作成し、必要に応じて適宜変更した。遺構写真は35 ㎜版のモノクロフィルムおよびデジタル一眼レフカメラでRAW形式およびJPEG形式で記録した。遺物は調査終了時で、内寸54×34×15 ㎝のコンテナで15 箱である。遺物は洗浄・接合・注記・復元作業を行い、実測図を１／１で作成した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラを使用し、RAW形式およびJPEG形式で記録した。

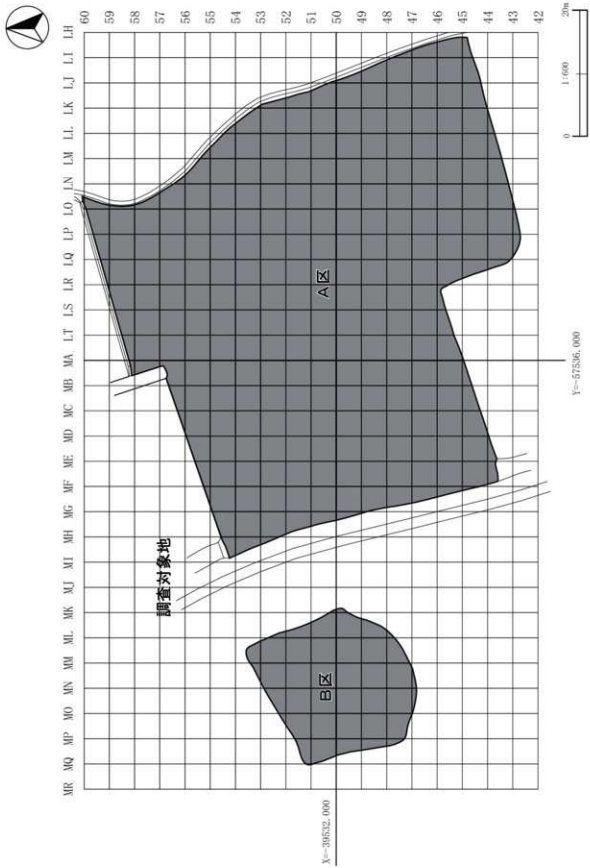
第３表　グリッド東西軸・南北軸の世界測地系座標

東西名	Y座標
MR	-57604.000
MQ	-57600.000
MP	-57596.000
MO	-57592.000
MN	-57588.000
MM	-57584.000
ML	-57580.000
MK	-57576.000
MJ	-57572.000
MI	-57568.000
MH	-57564.000
MG	-57560.000
MF	-57556.000
ME	-57552.000
MD	-57548.000
MC	-57544.000

東西名	Y座標
MB	-57540.000
MA	-57536.000
LT	-57532.000
LS	-57528.000
LR	-57524.000
LQ	-57520.000
LP	-57516.000
LO	-57512.000
LN	-57508.000
LM	-57504.000
LL	-57500.000
LK	-57496.000
LJ	-57492.000
LI	-57488.000
LH	-57484.000

南北名	X座標
42	-39564.000
43	-39560.000
44	-39556.000
45	-39552.000
46	-39548.000
47	-39544.000
48	-39540.000
49	-39536.000
50	-39532.000
51	-39528.000
52	-39524.000
53	-39520.000
54	-39516.000
55	-39512.000
56	-39508.000

南北名	X座標
57	-39504.000
58	-39500.000
59	-39496.000
60	-39492.000



第５図　調査対象地とグリッド配置図

第２節　基本層序

調査区の層序の詳細は第４表にまとめた。また、調査区の断面図は第 12・13 図に示した。土層の堆積はＡ区とＢ区で共通しているため、まとめて記載する。調査区で確認した土層の大まかな区分と概要を要約すると下記のとおりである。

第Ⅰ－１層：（農道の盛土）現在の農道である。直径２～３㎝の砕石やアスファルト片、ビニール片などが混じる。

第Ⅰ－２層：（調査区縁辺の盛土）調査区周辺が造成された際の盛土である。暗褐色土あるいは黒褐色土にガラス瓶・ビニール片などが混じる。Ｂ区では、同類の層として第Ⅰ－2’層・第Ⅰ－2”層がある。

第Ⅰ－３層：（耕作土）現在の耕作土である。暗褐色土にビニール片が混じる。

第Ⅱ－１層：（旧耕作土）暗褐色土に黄褐色粘土ブロックが混じる。

第Ⅱ－２層：（旧耕作土）黄褐色粘質土に暗褐色土ブロックが混じる。

第Ⅲ－１層：（地山）自然堤防の河川堆積土で、黄褐色を呈する粘質土である。調査区全面に広がる。

第Ⅲ－２層：（地山）自然堤防の河川堆積土で、褐色砂に暗褐色砂が若干混じる。直上に第Ⅲ－１層が堆積する。

第Ⅲ－３層：（地山）自然堤防の河川堆積土で、暗褐色砂に礫が混じる。直上に第Ⅲ－２層が堆積する。

第３節　遺構と遺物（第６～11・14～56 図、第５～24 表）

Ａ・Ｂ区を合わせた調査区全体で 370 基の遺構を検出した（第６～11 図）。遺構の検出面は、特記したもの以外はすべて第Ⅲ－１層面である。

（１）Ａ・Ｂ区に共通する検出遺構と出土遺物（第 14～20・46～51 図）

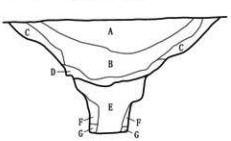
Ａ区とＢ区に共通する遺構は、柱列塀１条（ＳＡ01）、溝跡１条（ＳＤ01）である。ＳＡ01 とＳＤ01 は同じ場所に位置し、ＳＡ01 の上部を壊してＳＤ01 が作られている。以下で各遺構について述べるが、図面は一連で表現したものもある。なお、土層は埋土の性質によってＡ～Ｈに分類した。

ＳＤ01 埋土

Ａ：色調は黒色が主体の自然堆積層だが、炭化物や鉄滓等が混じるＡ②層より上の層は、堆積状況から人為的に埋められたと考えられる。

Ｂ：色調は褐色が主体の自然堆積層。十和田ａ火山灰が混じるＢ③層は、Ｂ層の中～下位にある。

Ｃ：掘り方の立ち上がりを整地した埋土。色調は暗褐色が主体で、主に黄褐色土がブロック状に混じる。



挿図　SA01・SD01 埋土模式図

Ｄ：掘り方の底面を整地した埋土。色調は褐灰色が主体で、主に黄褐色粘土がブロック状に混じる。

ＳＡ01 埋土

Ｅ：ＳＡ01 の材木を抜き取った埋土。色調は褐灰色が主体で、主に黄橙色粘土がブロック状に混じる。

Ｆ：掘り方埋土。粘土や砂が主体の層で、互層になることもある。

Ｇ：掘り方埋土のうち最下層。色調は黒褐色や褐灰色で、粘土に砂が混じる。

Ｈ：砂が主体の層で、粘土が混じることもある。グリッド軸のＬＳ列からＭＢ列の間で確認した。

溝跡

１号溝跡（ＳＤ01）（第 14～20 図、図版４～10）

ＳＡ01 を壊して、その上位に位置する遺構である。幅 1.6～2.4m、検出面からの深さは 48～82cm、検出面からＤ層上面までの深さは 40～69cm である。

壁は、垂直に立ち上がるＳＡ01 の壁に続いて、緩やかに立ち上がる。ＳＡ01 と一連の断面形状は、漏斗形を呈する。ＳＡ01 とＳＤ01 の掘り方の境界付近にはテラス状の平坦面があり、工具痕と考えられる痕跡が部分的に認められる（第 19 図、図版８）。土層の堆積状況および断面形状から、ＳＤ01 は、ＳＡ01 の材木を抜き取った凹みを利用して作られた溝跡と考えられる。埋土は、性質ごとにＡ～Ｄ層に分けられる（第５～９表）。Ｂ③層からは、十和田ａ火山灰が見つかった。

遺構上部の壁面で複数のピットを検出した（第 14～16 表「重複関係」に記載、第 19・20 図、図版７）。このうち、Ｃ層で検出したＳＰ065・074・075・094・097 はＳＤ01 に伴う可能性がある。

上記のピット以外では、ＳＢ07、ＳＡ01、ＳＫ02・08～11・50、ＳＸ01 と重複する。ＳＢ07、ＳＫ02・50、ＳＸ01 より古く、ＳＡ01、ＳＫ08・09・11 より新しい。ＳＫ10 との新旧関係は不明である。

１号溝跡（ＳＤ01）　Ａ層出土遺物（第 46～49 図、図版 21～23・31）

須恵器（第 46 図１～３）：１は短頸壺の口縁部から頸部にかけての破片である。頸部下端外面に平行叩き痕が認められる。内外面に自然釉が付着する。２は長頸壺の頸部の破片である。３は長頸壺の体部上半の破片である。外面に２条のリング状の沈線文を施す。

土師器（第 46 図４～９、第 47 図 10～12）：４～６は非ロクロ成形の甕の口縁部から体部にかけての破片である。４の体部外面はケズリ調整後、ミガキ調整を施す。内面はハケメ調整を施す。５は外面に指頭圧痕が認められる。６は内面に煤が付着する。内外面に指頭圧痕が認められる。７・８は非ロクロ成形の甕の口縁部から頸部にかけての破片で、口縁部が「く」の字状に外反する。７は内面にハケメ調整を施す。内面に煤が付着する。８は外面にケズリ調整を施す。内面はいぶし処理を施す。９は非ロクロ成形の壺の頸部から体部上半にかけての破片である。頸部外面にハケメ調整を施す。内面はハケメ調整をし、いぶし処理を施す。内面に煤が付着する。10 は甕の底部破片である。底部全面に砂粒が付着する。11・12 は非ロクロ成形の甕の底部破片で、外面にケズリ調整を施す。11 は底部全面に砂粒が付着する。12 は底部中央に粗い砂粒が付着する。

赤褐色土器（第 47 図 13～20）：13～20 は坏である。13・15～17・19・20 の底部切離しは、回転糸切り無調整である。14 は口縁部内面に煤が付着する。20 は高台部分が柱状高台を呈する。

土製品（第 47 図 21・22、第 48 図 23～26、第 49 図 27）：21～25 はフイゴ羽口の破片である。21 以外は先端が被熱し、ガラス質の溶解物が付着する。26 は埴状土製品である。欠損部以外に面取りを施す。二次的な被熱痕跡が認められる。27 は不明土製品である。面取りを施しており、部分的に煤が付着する。二次的な被熱痕跡が認められる。

礫（第 49 図 28）：表面に少量の鉄が付着する。欠損部以外の３面は平坦であり、金床石と考えられる。

鉄製品（第 49 図 29・30）：29 は刀子である。表面に木質が少量付着する。30 は棒状の鉄製品である。両端が欠損する。

鍛冶関連遺物（図版 31（１））：Ａ層の上層で鉄滓が出土した（第 23・24 表）。グリッド軸のＭＢ列からＭＦ列の間が特に顕著である。鍛冶滓、椀形鍛冶滓であるが、比較的大きなものも含まれる。

１号溝跡（ＳＤ01）　Ｂ層出土遺物（第 50 図、図版 24）

須恵器（第 50 図 31～33）：31 は坏である。器形は塊形で、口縁部は玉縁状を呈している。32 は短頸壺である。頸部は垂直に立ち上がり、肩部外面に２条のリング状の沈線文を施す。重ね焼痕が認められる。33 は甕の体部破片である。外面に平行叩き痕、内面に平行当て具痕が認められる。

土師器（第 50 図 34・35）：34・35 は坏である。34 は内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。底部切離しは、回転糸切り無調整である。35 は内面にミガキ調整をし、黒色処理を施す。

赤褐色土器（第 50 図 36～43）：36～42 は坏である。36 は口唇部を面取りしている。37～42 の底部切離しは、回転糸切り無調整である。43 は皿である。底部切離しは、摩耗のため不明である。

土製品（第 50 図 44）：土錘である。

１号溝跡（ＳＤ01）　Ｃ層出土遺物（第 50 図、図版 25）

須恵器（第 50 図 45）：甕の体部破片である。外面に平行叩き痕、内面に同心円当て具痕が認められる。外面に自然釉が付着する。

赤褐色土器（第 50 図 46・47）：46・47 は坏である。46 の底部切離しは、静止糸切り無調整である。47 の底部切離しは、静止糸切り後に軽いナデ調整を施す。体部下端外面に糊圧痕と思われる痕跡が認められる。

１号溝跡（ＳＤ01）　Ｄ層出土遺物（第 51 図、図版 25）

須恵器（第 51 図 48～50）：48 は坏である。器形は塊形で、口縁部は玉縁状を呈している。49・50 は壺の肩部破片である。外面に自然釉が認められる。49 は内外面をナデ調整後にハケメ調整を施す。

土師器（第 51 図 51）：坏である。内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。底部切離しは、回転糸切り無調整である。

赤褐色土器（第 51 図 52～59）：52～59 は坏である。52～54・57・58 の底部切離しは、回転糸切り無調整である。55・56 の底部切離しは、摩耗のため不明である。58・59 は体部下端外面にケズリ調整を施す。

柱列塀

１号柱列塀（ＳＡ01）（第 14～19 図、図版４～５・８～11）

調査区北寄りのＬＪ52、ＬＫ・ＬＬ52・53、ＬＭ・ＬＮ53・54、ＬＯ～ＭＣ54・55、ＭＤ～ＭＧ53・54、ＭＬ52，ＭＭ・ＭＮ51・52、ＭＯ50・51、ＭＰ50 で検出した。遺構の上部をＳＤ01 に壊されており、下部が残存する。Ａ区東端およびＢ区西端より先は調査区外に延びると推測されるが、過去の造成のため削平されている。また、Ａ区西端およびＢ区東端も過去の造成のため削平されている。幅 45～77 ㎝、第Ⅲ－１層面からの深さ 1.0～1.2ｍで、確認できた総延長は、既存の排水路の場所にも続くと推定すればＡ区東端からＢ区西端までで約 110ｍを測る。方向はＡ区東側が西で北に 24 度、Ａ区西側が東で北に 31 度、Ｂ区が東で北に 28 度振れる。また、ＬＴ55 およびＭＥ54 付近で蛇行する。

遺構の底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。一定の間隔で並ぶ柱痕跡を底面で確認した。柱痕跡の平面規模は直径 16～35 ㎝、平面形状は円形および楕円形である。このことから、ＳＡ01 は材木を並べた柱列塀と考えられる。掘り方埋土は、ほぼすべてに粘土・粘質土が認められるが（Ｆ・Ｇ層）、グリッド軸のＬＳ列からＭＢ列の間は砂が主体（Ｈ層）である（第５～９表）。

また、ＭＤ54、ＭＥ・ＭＥ53 の底面では、４箇所で掘り方を検出した。Ｐ１は、長軸 79 ㎝、短軸 32 ㎝の楕円形で、深さは 24 ㎝、底面に２箇所の落ち込みがある。Ｐ２は、長軸 63 ㎝、短軸 29 ㎝の楕円形

で、深さは37㎝、底面に３箇所の落ち込みがある。Ｐ３は、長軸61㎝、短軸33㎝の楕円形で、深さは32㎝、底面に複数の落ち込みがある。Ｐ４は、長軸1.2m、短軸46㎝の楕円形で、深さは30㎝である。

ＳＤ01と重複し、これより古い。

１号柱列塀（ＳＡ01）　Ｅ層出土遺物（第51図、図版26）

縄文土器（第51図60）：粗製深鉢である。外面に縄文原体ＬＲの単節縄文を施す。

土師器（第51図61）：塊である。外面の口縁部付近と内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。

（２）Ａ・Ｂ区の検出遺構と出土遺物（第21～45・51～56図）

ＳＡ01・ＳＤ01の他に検出した遺構は、Ａ・Ｂ区でそれぞれ以下のとおりである（第10～16表）。

Ａ区：掘立柱建物跡７棟（ＳＢ01～07）、柱列跡７条（ＳＡ02～08）、溝跡５条（ＳＤ02～06）、竪穴状遺構１基（ＳＩ01）、土坑49基（ＳＫ01～49）、ピット290基（ＳＰ001～290）、性格不明遺構１基（ＳＸ01）

Ｂ区：溝跡１条（ＳＤ07）、土坑１基（ＳＫ50）、ピット６基（ＳＰ291～296）

また、出土遺物は、須恵器、土師器、赤褐色土器、フイゴ羽口、鉄滓などである。

掘立柱建物跡

１号掘立柱建物跡（ＳＢ01）（第21図、図版12・13）

Ａ区東側のＬＮ・ＬＯ50～52グリッドで検出した。６基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間２間（西から2.0m＋2.0m）、桁行２間（北から2.3m＋2.3m）で、建物方向は桁行が北で西に15度振れる。建物の北西部は撹乱で削平されており、当該部分にはＰ５・Ｐ６と対になる柱掘り方があったと推測される。柱掘り方は長軸49～62㎝、短軸41～55㎝の隅丸方形で、検出面からの深さは10～32㎝である。Ｐ３の底面で15㎝×17㎝の円形を呈する柱痕跡を確認した。

１号掘立柱跡建物（ＳＢ01）出土遺物（第51図、図版26）

須恵器（第51図62）：Ｐ６から出土した、甕の体部破片である。

赤褐色土器（第51図63）：Ｐ１から出土した、坏の口縁部破片である。口唇部に面取りを施している。

２号掘立柱建物跡（ＳＢ02）（第22図、図版12・13）

Ａ区西側のＭＡ～ＭＣ48・49、ＭＢ・ＭＣ50、ＭＢ51グリッドで検出した。11基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間２間（西から2.65m＋2.65m）、桁行４間（北から3.2m＋1.5m＋1.5m＋3.2m）で、建物方向は桁行が北で西に22度振れる。柱掘り方は長軸47～67㎝、短軸35～62㎝の隅丸方形で、検出面からの深さは５～28㎝である。Ｐ１・３・４・７～11の底面で長軸９～21㎝、短軸８～16㎝の柱痕跡を確認した。

２号掘立柱跡建物（ＳＢ02）出土遺物（第51図、図版26）

土師器（第51図64）：Ｐ10から出土した、非ロクロ成形の甕の体部破片である。外面にケズリ調整を施す。内面に煤が付着する。

赤褐色土器（第51図65・66）：65はＰ４から出土した、坏の口縁部破片である。66はＰ11から出土した、坏の体部破片である。

３号掘立柱建物跡（ＳＢ03）（第 23 図）

Ａ区東側のＬＬ～ＬＭ48・49 グリッドで検出した。７基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間２間（北から 2.6m＋3.5m）、桁行２間（西から 3.15m＋3.15m）で、建物方向は桁行が東で北に 21 度振れる。北東隅の柱掘り方は確認できなかった。柱掘り方は長軸 28～35cm、短軸 26～29cm の円形および楕円形で、検出面からの深さは 21～31cm である。

４号掘立柱建物跡（ＳＢ04）（第 24 図、図版 13）

Ａ区東側のＬＪ47・ＬＫ～ＬＬ47・48 グリッドで検出した。12 基の柱掘り方からなる総柱の掘立柱建物跡である。梁間２間（北から 2.4m＋2.4m）、桁行３間（西から 2.2m＋2.4m＋2.2m）で、建物方向は桁行が東で北に９度振れる。柱掘り方は長軸 23～42cm、短軸 17～35cm の円形および楕円形で、検出面からの深さは９～47cm である。Ｐ１の底面で７cm×８cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

４号掘立柱跡建物（ＳＢ04）出土遺物（第 51 図、図版 26）

土師器（第 51 図 67）：Ｐ６から出土した、非ロクロ成形の甕の体部破片である。外面にケズリ調整を施す。

５号掘立柱建物跡（ＳＢ05）（第 25 図）

Ａ区中央南側のＬＮ45～47、ＬＯ45・46 グリッドで検出した。６基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間１間（3.4m）、桁行２間（北から 3.1m＋3.1m）で、建物方向は桁行が北で西に６度振れる。柱掘り方は長軸 36～48cm、短軸 32～39cm の円形および楕円形で、検出面からの深さは 27～57cm である。

６号掘立柱建物跡（ＳＢ06）（第 26 図）

Ａ区西側のＬＴ～ＭＢ48、ＬＴ・ＭＡ49 グリッドで検出した。６基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間１間（2.9m）、桁行２間（西から 2.6m＋2.6m）で、建物方向は桁行が東で北に４度振れる。柱掘り方は長軸 32～47cm、短軸 26～37cm の楕円形で、検出面からの深さは 16～36cm である。Ｐ４の底面で 10cm×11cm、Ｐ５の底面で 12cm×17cm の円形および楕円形を呈する柱痕跡を確認した。

７号掘立柱建物跡（ＳＢ07）（第 27 図、図版 14）

Ａ区中央北側のＬＴ・ＭＡ54・55 グリッドで検出した。６基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間１間（2.3m）、桁行２間（西から 1.5m＋1.7m）で、建物方向は桁行が西で北に 15 度振れる。柱掘り方は長軸 25～37cm、短軸 23～37cm の円形で、検出面からの深さは 12～28cm である。

ＳＤ01 と重複し、これより新しい。

柱列跡

２号柱列跡（ＳＡ02）（第 28 図、図版 14）

Ａ区中央北寄りのＬＱ54 グリッドで検出した。３基の柱掘り方からなる「Ｌ」字状の柱列跡である。柱間間隔は東西１間（1.2m）、南北１間（0.3m）で、方向は東で北に５度振れる。柱掘り方は長軸 18

～27cm、短軸 18～24cm の円形で、検出面からの深さは 15～28cm である。Ｐ２とＰ３の間にある浅い撹乱は掘り込みが浅いが、上部の削平を受けたとすればＳＡ02 を構成する柱掘り方の可能性もある。

３号柱列跡（ＳＡ03）（第 28 図、図版 14）

Ａ区中央北寄りのＬＲ54 グリッドで検出した。４基の柱掘り方からなる「Ｌ」字状の柱列跡である。柱間間隔は東西２間（西から 0.6m＋0.6m）、南北１間（0.4m）で、方向は東で北に 10 度振れる。柱掘り方は、長軸 17～28cm、短軸 12～23cm の円形および楕円形で、検出面からの深さは８～32cm である。

４号柱列跡（ＳＡ04）（第 28 図）

Ａ区東側のＬＭ・ＬＮ52 グリッドで検出した。３基の柱掘り方からなる柱列跡である。柱間間隔は東西２間（西から 1.65m＋1.65m）で、方向は東で北に６度振れる。柱掘り方は長軸 20～32cm、短軸 14～23cm の円形および楕円形で、検出面からの深さは 17～18cm である。

５号柱列跡（ＳＡ05）（第 28 図）

Ａ区東側のＬＬ・ＬＭ51 グリッドで検出した。３基の柱掘り方からなる柱列跡である。柱間間隔は東西２間（西から 1.9m＋1.9m）で、方向は東で北に５度振れる。柱掘り方は長軸 21～25cm、短軸 18～20cm の円形および楕円形で、検出面からの深さは 18～22cm である。

６号柱列跡（ＳＡ06）（第 29 図）

Ａ区中央南寄りのＬＰ・ＬＱ49、ＬＱ・ＬＲ48 グリッドで検出した。３基の柱掘り方からなる柱列跡である。柱間間隔は東西２間（西から 2.1m＋2.1m）で、方向は東で北に 10 度振れる。柱掘り方は長軸 35～50cm、短軸 30～36cm の楕円形で、検出面からの深さは 34～42cm である。Ｐ３の底面で 14cm×14cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

７号柱列跡（ＳＡ07）（第 29 図、図版 14）

Ａ区南西側のＭＢ44・45 グリッドで検出した。３基の柱掘り方からなる柱列跡である。柱間間隔は南北２間（南から 1.5m＋2.0m）で、方向は北で西に７度振れる。柱掘り方は長軸 36～41cm、短軸 35～37cm の円形で、検出面からの深さは 16～30cm である。Ｐ１の底面で 10cm×12cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

８号柱列跡（ＳＡ08）（第 29 図）

Ａ区南西側のＭＣ44、ＭＤ44・45 グリッドで検出した。３基の柱掘り方からなる柱列跡である。柱間間隔は南北２間（南から 1.2m＋2.5m）で、方向は北で西に７度振れる。柱掘り方は長軸 28～49cm、短軸 25～38cm の円形および楕円形で、検出面からの深さは 13～40cm である。

溝跡

２号溝跡（ＳＤ02）（第 30 図、図版 15）

Ａ区東側のＬＫ・ＬＬ51 グリッドで検出した。幅 42cm、長さ 1.7m以上、検出面からの深さは 19cm

である。断面形は逆台形状を呈する。溝の方向は北で東に35度振れる。
ＳＫ19・ＳＰ173～175・ＳＸ01と重複し、これより古い。

３号溝跡（ＳＤ03）（第30図）

Ａ区東側のＬＭ・ＬＮ50・51グリッドで検出した。幅72～96cm、長さ4.5m、検出面からの深さは６～10cmである。断面形は皿状を呈する。溝の方向は東で北に17度振れる。

４号溝跡（ＳＤ04）（第30図）

Ａ区東側のＬＪ48～50グリッドで検出した。幅1.1～1.5m、長さ9.0m以上、検出面からの深さは10cmである。断面形は皿状を呈する。溝の方向は北で東に６度振れる。北東側は調査区外に延びると推測されるが、過去の造成により削平されている。
ＳＰ210と重複し、これより古い。

５号溝跡（ＳＤ05）（第30図）

Ａ区西側のＭＡ・ＭＢ49グリッドで検出した。幅35cm、長さ2.6m、検出面からの深さは６cmである。断面形は皿状を呈する。溝の方向は東で北に６度振れる。

６号溝跡（ＳＤ06）（第31図）

Ａ区南東側のＬＩ・ＬＪ44～46グリッドで検出した。幅1.2～1.7m、長さ9.3m以上、検出面からの深さは10cmである。断面形は皿状を呈する。溝の方向は北で東に４度振れる。南側は調査区外に延びると推測されるが、過去の造成により削平されている。
ＳＫ39・ＳＰ264・279・280と重複し、ＳＫ39・ＳＰ279・280より古く、ＳＰ264より新しい。

７号溝跡（ＳＤ07）（第31図）

Ｂ区南東側のＭＬ49グリッドで検出した。幅35cm、長さ1.2m、検出面からの深さは３cmである。断面形は皿状を呈する。溝の方向は東で北に21度振れる。

竪穴状遺構

１号竪穴状遺構（ＳＩ01）（第32～34図、図版15・16）

Ａ区東側のＬＫ・ＬＬ49～51グリッドで検出した。長軸6.3m、短軸5.6mの不整形で、検出面から６・７層面までの深さは22cm、第Ⅲ－１層面までの深さは25～32cmである。概ね平坦な６・７層面の北辺と東辺で周溝を検出した。周溝の深さは、検出面から５cmである。また、同じ面でピットを18基（Ｐ１～18）、西辺中央付近で粘土が多く混じる範囲を検出した。硬化していないものの、この面が床面と考えられる。遺構の掘り方は、北東側でやや深く、７層が厚く堆積する。第Ⅲ－１層面でピットを７基（Ｐ19～25）検出した。
ＳＰ193・211と重複し、これより古い。

１号竪穴状遺構（ＳＩ01）埋土出土遺物（第52図、図版26・27・31）

土師器（第52図68・69）：68は塊である。内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。69は

非ロクロ成形の甕の口縁部から体部にかけての破片である。口縁部が「く」の字状に外反する。内面は、口縁部から頸部にかけてを横方向のミガキ調整、その下の体部をハケメ調整し、いぶし処理を施す。外面は、頸部から体部にかけてケズリ調整後にミガキ調整を施す。ＳＤ01のＡ層出土土師器と接合する。

赤褐色土器（第52図70）：甕の体部破片である。外面はケズリ調整後に平行叩き痕、内面はハケメ調整後に同心当て具痕が認められる。

土製品（第52図71）：フイゴ羽口の破片である。ガラス質の溶解物が付着する。

石製品（第52図72）：石錘である。隆帯状の凸部が全周する。

鍛冶関連遺物（図版31（２））：鉄滓が出土した（第24表）。鍛冶滓および椀形鍛冶滓である。

１号竪穴状遺構（ＳＩ01）粘土範囲出土遺物（第52図、図版27）

土師器（第52図73・74）：73・74は非ロクロ成形の甕である。73は口縁部から体部にかけての破片である。74は底部の破片で、外面にケズリ調整を施す。底部中央に砂粒が付着する。

赤褐色土器（第52図75）：甕である。体部下端にヘラケズリ調整を施す。底部切離しは、回転糸切り無調整である。

土坑

直径が概ね50cm以上で、断面形が皿状を呈するものを土坑とした。遺物が出土した土坑のうち主なものについて記述し、他の土坑については、図面のみ掲載した（第35～43図）。

７号土坑（ＳＫ07）（第36図、図版17・18）

Ａ区北西側のMC53・54グリッドで検出した。長軸1.5m、短軸1.1mの楕円形で、検出面からの深さは24cmである。底面でピットを４基検出した。

ＳＫ10・ＳＰ129と重複し、ＳＰ129より新しい。ＳＫ10との新旧関係は不明である。

７号土坑（ＳＫ07）出土遺物（第53図、図版27）

須恵器（第53図76）：甕の体部破片である。外面に格子目叩き痕、内面に平行当て具痕が認められる。

８号土坑（ＳＫ08）（第36図、図版17・18）

Ａ区北西側のMC・MD53、MD54グリッドで検出した。長軸2.2m、短軸2.0mの円形で、検出面からの深さは76cmである。底面でピットを２基検出した。

ＳＤ01・ＳＫ11・ＳＰ130と重複し、ＳＤ01より古く、ＳＫ11より新しい。ＳＰ130との新旧関係は不明である。

８号土坑（ＳＫ08）出土遺物（第53・54図、図版27～29）

須恵器（第53図77～79）：77～79は坏である。77・78の底部切離しは、回転糸切り無調整、79は底部切離し後ナデ調整を施す。

土師器（第53図80～82）：80～82は埦である。80・81は内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。82は内面にミガキ調整をし、黒色処理を施す。底部切離し後ナデ調整を施す。高台が剥がれた痕跡が認められる。

赤褐色土器（第53図83～90、第54図91～94）：83～94は坏である。83・84・86～93の底部切離しは、回転糸切り無調整である。86は体部下端外面にケズリ調整を施す。85・94の底部切離しは、摩耗のため不明である。

土製品（第54図95）：不明土製品である。面取りを施している。二次的な被熱痕跡が認められる。

9号土坑（ＳＫ09）（第37図、図版18）

A区北西側のMC・MD53グリッドで検出した。長軸1.8m、短軸1.3mの楕円形で、検出面からの深さは45cmである。

ＳＤ01と重複し、これより古い。

9号土坑（ＳＫ09）出土遺物（第54図、図版29）

土師器（第54図96・97）：96は塊である。内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。97は非ロクロ成形の甕の体部破片である。外面にケズリ調整を施す。

赤褐色土器（第54図98・99）：坏である。底部切離しは、回転糸切り無調整である。

16号土坑（ＳＫ16）（第38図、図版19）

A区西側のMD・ME52グリッドで検出した。長軸2.1m、短軸1.7mの楕円形で、北東側へ向かって徐々に深くなる。検出面からの深さは南西で約10cm、北東で約1.1mで、壁は北東側で急に立ち上がる。壁の途中には厚さ22～29cm、奥行18～33cmの規模でオーバーハングする部分が全周する。底部は複雑に掘り込まれている。

ＳＰ169と重複し、これより新しい。

16号土坑（ＳＫ16）出土遺物（第54図、図版29）

須恵器（第54図100）：甕の体部破片である。外面に格子目叩き痕、内面に平行当て具痕が認められる。

土製品（第54図101）：不明土製品である。面取りを施している。

20号土坑（ＳＫ20）（第39図）

A区東側のＬＪ50グリッドで検出した。長軸1.8m、短軸1.0m以上の円形を呈すると考えられ、検出面からの深さは30cmである。東側を過去の造成により削平されている。

20号土坑（ＳＫ20）出土遺物（第54図、図版29）

赤褐色土器（第54図102）：坏である。

24号土坑（ＳＫ24）（第39図、図版19）

A区西側のＬＴ49、MA48・49グリッドで検出した。長軸93cm、短軸82cmの円形で、検出面からの深さは64cmである。壁は垂直に立ち上がり、壁の途中には厚さ14～24cm、奥行20～23cmの規模でオーバーハングする部分が全周する。

ＳＰ225・226と重複し、これより新しい。

24号土坑（ＳＫ24）出土遺物（第54図、図版29）

須恵器（第54図103）：坏である。底部切離し後、ナデ調整を施す。

土師器（第54図104）：非ロクロ成形の甕の体部破片である。外面に幅の広いケズリ調整を施す。

32 号土坑（ＳＫ32）（第 41 図）

Ａ区西側のＭＢ47・48 グリッドで検出した。長軸 2.5m、短軸 2.0mの不整楕円形で、検出面からの深さは 19～28cm である。

ＳＫ33 と重複し、これより新しい。

32 号土坑（ＳＫ32）出土遺物（第 55 図、図版 30）

土師器（第 55 図 105・106）：105・106 は非ロクロ成形の甕の口縁部から体部にかけての破片である。口縁部が「く」の字状に外反する。105 は外面に指頭圧痕が認められる。106 は体部外面にケズリ調整を施す。

赤褐色土器（第 55 図 107・108）：107・108 は坏である。底部切離しは、回転糸切り無調整である。108 は胎土中に海綿骨針が含まれる。

34 号土坑（ＳＫ34）（第 41 図）

Ａ区西側のＭＢ・ＭＣ47 グリッドで検出した。長軸 73cm、短軸 70cm の円形で、検出面からの深さは 42cm である。

ＳＫ33 と重複し、これより新しい。

34 号土坑（ＳＫ34）出土遺物（第 55 図、図版 30）

土師器（第 55 図 109）：非ロクロ成形の甕の体部破片である。外面にハケメ調整を施す。

土製品（第 55 図 110）：不明土製品である。面取りを施している。

45 号土坑（ＳＫ45）（第 43 図）

Ａ区南西側のＭＡ・ＭＢ45・46 グリッドで検出した。長軸 2.5m、短軸 2.3mの不整円形で、検出面からの深さは 20cm である。

45 号土坑（ＳＫ45）出土遺物（第 55 図、図版 30）

土師器（第 55 図 111）：非ロクロ成形の甕の体部破片である。内外面にハケメ調整を施す。

49 号土坑（ＳＫ49）（第 43 図、図版 19）

Ａ区南東側のＬＬ・ＬＭ44 グリッドで検出した。長軸 1.5m、短軸 1.4mの円形で、検出面からの深さは 29cm である。

49 号土坑（ＳＫ49）出土遺物（第 55 図、図版 30）

須恵器（第 55 図 112）：壺の体部上半から底部である。体部上半外面に並行叩き痕、下半にケズリ調整、体部上半内面にカキ目調整を施す。底部内面および体部外面に自然釉が付着する。体部上半外面に靱圧痕と思われる痕跡が認められる。

土師器（第 55 図 113）：非ロクロ成形の甕の頸部から体部上半にかけての破片である。頸部外面にナデ調整、それ以外の内外面はハケメ調整を施す。

性格不明遺構

1 号性格不明遺構（ＳＸ01）（第 44・45 図、図版 20）

Ａ区東側のＬＪ51・52、ＬＫ51～53 グリッドで検出した。長軸 5.1m以上、短軸 4.7mの不整形で、

検出面からの深さは58cmである。東側は、過去の造成により削平されている。壁は緩やかに立ち上がり、底面は概ね平坦である。底面でピットを３基検出した。また、南側の底面で溝状の落ち込みを３箇所、不整形の落ち込みを１箇所検出した。

ＳＤ01・02、ＳＫ13・19、ＳＰ135・173と重複し、ＳＫ13・19、ＳＰ135より古く、ＳＤ01・02、ＳＰ173より新しい。

１号性格不明遺構（ＳＸ01）出土遺物（第56図、図版31）

須恵器（第56図114～116）：114は坏である。底部切離しは、回転糸切り無調整である。115は甕の口縁部の破片である。116は甕の体部破片である。外面にケズリ調整を施す。

土師器（第56図117）：台付埦である。内外面に黒色処理を施す。

赤褐色土器（第56図118）：坏である。

土製品（第56図119）：不明土製品である。面取りを施している。

ピット

直径が概ね50cm未満で、壁が垂直ぎみに立ち上がるものをピットとした（第14～16表）。

遺構外出土遺物（第56図、図版31）

石製品（第56図120）：第Ⅰ層で出土した。４面を使用している砥石である。

第４表　基本土層注記一覧

層名	性質	色調	しまり	粘性	備考
Ⅰ-1	農道の盛土	灰黄褐色土(10YR4/2)に砕石(φ2～3cm)、アスファルト片、ビニール等が混じる。	非常にあり	なし	
Ⅰ-2	調査区縁辺の盛土	黒褐色土(10YR2/3)・暗褐色土(10YR3/3)にガラス瓶、ビニール等が混じる。	あり	なし	
Ⅰ-2'		暗褐色土(10YR3/4)。	あり	ややあり	
Ⅰ-2''		褐灰色土(10YR4/1)。	あり	ややあり	B区で確認
Ⅰ-3	耕作土	暗褐色土(10YR3/3)に明黄褐色土ブロック(2.5YR6/6、φ1cm)、ビニール片が混じる。	あり	なし	
Ⅱ-1	旧耕作土	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色粘土ブロック(2.5YR5/6、φ2～3cm)が多量に混じる。	あり	ややあり	
Ⅱ-2	旧耕作土	黄褐色粘質土(2.5YR5/6)に暗褐色土ブロック(10YR3/4、φ1～5cm)が少量混じる。	あり	あり	一部で薄く確認
Ⅲ-1	地山	黄褐色粘質土(10YR5/8)。	あり	なし	
Ⅲ-2		褐色砂(10YR4/6)に暗褐色砂(10YR3/3)が少量混じる。	あり	なし	
Ⅲ-3		暗褐色砂(10YR3/3)に礫(φ1～7cm)が混じる。	あり	なし	

第５表　ＳＡ01・ＳＤ01土層注記一覧（１）

3箇所以上の断面で確認した共通の層

層名	色調	しまり	粘性	備考
A①	黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色砂質土粒(10YR5/6)が混じる。炭化物(φ0.5cm)が少量混じる。	あり	ややあり	
A②	黒褐色土(10YR2/2)に炭化物(φ0.5～1cm)、焼土ブロック(10YR5/8、φ0.5～1cm)が非常に多く混じる。	あり	ややあり	
A②'	黒褐色土(10YR2/2)に炭化物(φ0.5～1cm)、焼土ブロック(10YR5/8、φ0.5～1cm)が非常に多く混じる。	あり	なし	A②と同じだが、炭化物が集中する
A②''	黒褐色土(10YR2/3)に炭化物(φ0.5cm)少量混じる。	あり	あり	A②と同じだが、炭化物がほとんどない
A③	黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色砂粒(10YR6/6)が少量混じる。	あり	あり	
A④	黒褐色土(10YR2/1)。	あり	あり	
A⑤	にぶい黄橙色土(10YR4/3)に明黄褐色土粒(10YR6/6)、褐灰色土(10YR4/1)が混じる。	あり	あり	
B⓪	黒色土(10YR2/1)に黄褐色砂質土ブロック(10YR5/6、φ1cm)、炭化物(φ0.5cm)が少量混じる。	ややあり	あり	
B①	暗褐色土(10YR3/3)に明黄褐色土粒(10YR7/6)が混じる。	あり	ややあり	
B②	暗褐色土(10YR3/4)に明黄褐色土粒(10YR6/6)、炭化物(φ0.5cm)が少量混じる。	あり	あり	
B③	にぶい黄褐色土(10YR4/3)に黄褐色砂質土(10YR5/6)、炭化物(φ0.5cm)、褐灰色粘土(10YR4/1)が混じる。	あり	あり	十和田ａ火山灰が混じる
B④	暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土粒(10YR5/6)が混じる。	あり	あり	
C①	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6、φ2～3cm)が多量に混じる。	あり	ややあり	
D①	褐灰色土(10YR4/1)ににぶい黄褐色砂(10YR7/4)が混じる。にぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4、φ1cm程度)が多量に混じる。	あり	あり	
D②	褐灰色土(10YR5/1)ににぶい黄褐色砂(10YR7/4)が混じる。黄褐色土ブロック(2.5Y5/3、φ1cm程度)が多量に混じる。	あり	あり	
E①	褐灰色土(10YR4/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。にぶい黄橙色粘土ブロック(10YR6/4、φ1～2cm)が多量に混じる。	あり	あり	
E②	褐灰色粘土(10YR4/1)に黄褐色砂(10YR5/6)、にぶい黄橙色粘土ブロック(10YR6/4、φ0.5～3cm)が多量に混じる。	あり	あり	
F①	黒褐色粘土(10YR3/2)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/3、φ1～3cm)が混じる。	あり	あり	
F②	明黄褐色砂(10YR7/6)。	あり	なし	
F③	にぶい黄褐色砂(10YR4/3)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)、褐灰色粘質土(10YR4/1)が混じる。	ややあり	ややあり	
G①	黒褐色粘土(10YR2/2)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR7/4、φ0.5cm)、褐灰色砂(10YR4/1)が少量混じる。	あり	あり	
G②	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄橙色粘土ブロック(10YR6/3、φ1.8cm)、黄褐色砂(10YR5/6)が少量混じる。	あり	あり	

第６表　ＳＡ01・ＳＤ01土層注記一覧（２）

a-a'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
E-a1	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄褐色砂ブロック(10YR6/4, φ1～2cm)が混じる。しまりあり。粘性あり。	あり	あり	
F-a1	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄橙色砂ブロック(10YR6/4, φ1～2cm)が混じる。	あり	あり	「F-c1」と同一
F-a2	にぶい黄橙色砂(10YR6/4)に黒褐色粘土(10YR3/1)が少量混じる。	あり	なし	「F-c2」と同一

b-b'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
A-b1	暗褐色土(10YR3/3)に褐色土粒(10YR4/4)が混じる。	あり	なし	
A-b2	黒褐色土(10YR3/1)に褐色砂(7.5YR4/4)が混じる。	あり	なし	

c-c'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
F-c1	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄橙色砂ブロック(10YR6/4, φ1～2cm)が混じる。	あり	あり	「F-a1」と同一
F-c2	にぶい黄橙色砂(10YR6/4)に黒褐色粘土(10YR3/1)が少量混じる。	あり	なし	「F-a2」と同一

d-d'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
B-d1	黒褐色土(10YR2/3)。	あり	あり	
B-d2	黒褐色土(10YR2/2)。	あり	あり	「B-f2」と同一
B-d3	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色砂質土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が混じる。	あり	ややあり	

e-e'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
E-e1	にぶい黄褐色砂(10YR5/4)に黒褐色ブロック(10YR2/3, φ0.5cm以下)が混じる。	あり	なし	
E-e2	黒褐色粘土(10YR3/2)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/3, φ1～3cm)が混じる。	あり	あり	
E-e3	にぶい黄褐色砂(10YR7/4)。	あり	なし	
E-e4	明黄褐色砂(10YR7/6)に黒褐色ブロック(10YR2/3, φ0.5cm, 鉄分か)が混じる。	あり	なし	
E-e5	褐灰色粘土(10YR4/1)に黒褐色粘土(10YR3/1)、明黄褐色砂ブロック(10YR7/6, φ1～2cm)が混じる。	あり	あり	
G-e1	明黄褐色砂(10YR7/6)。	あり	なし	

f-f'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
A-f1	黒褐色土(10YR2/3)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～3cm)が多量に混じる。	あり	あり	「A-g1」と同一
A-f2	黒褐色土(10YR2/3)ににぶい黄褐色粘質土粒(10YR5/4)が少量混じる。	あり	あり	
B-f1	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土粒(10YR5/6)が多量に混じる。	ややあり	あり	
B-f2	黒褐色土(10YR2/2)。	あり	あり	「B-d2」と同一
B-f3	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が混じる。	ややあり	あり	

第７表　ＳＡ01・ＳＤ01土層注記一覧（３）

g-g'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
A-g1	黒褐色土(10YR2/3)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～3cm)が多量に混じる。	あり	あり	「A-f1」と同一
B-g1	黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色砂質土粒(10YR5/6)が混じる。	あり	あり	
B-g2	暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色砂質土粒(10YR5/6)が混じる。	あり	あり	
C-g1	暗褐色土(10YR3/4)に褐色粘質土ブロック(10YR4/6, φ2～3cm)が多量に混じる。	あり	ややあり	「C-p1」と同一
E-g1	褐灰色土(10YR4/1)にぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。にぶい黄褐色粘土ブロック(10YR6/4, φ1～2cm)が多量に混じる。	あり	あり	E①より粘性強く、色調はやや暗い
F-g1	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄橙色粘土(10YR6/3)が混じる。	あり	あり	
F-g2	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄橙色粘土(10YR6/3)が少量混じる。	ややあり	あり	
F-g3	にぶい黄褐色粘土(10YR6/3)。	あり	あり	
F-g4	暗褐色粘土(10YR3/4)に同色の砂が混じる。	ややあり	あり	

h-h'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
F-h1	にぶい黄褐色砂(10YR5/4)。	あり	なし	

i-i'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
E-i1	にぶい黄橙色砂質土(10YR6/4)に褐色土(10YR4/6)、暗褐色粒子(10YR3/4, φ～0.5cm, 鉄分か)が混じる。	あり	なし	
E-i2	暗褐色砂(7.5YR5/8)。	あり	なし	
H-i1	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。	ややあり	あり	
H-i2	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が多量に混じる。	ややあり	あり	
H-i3	にぶい黄橙色砂(10YR6/4)に黄褐色砂(10YR5/6)、暗褐色粒子(10YR3/4, φ～0.5cm, 鉄分か)が少量混じる。	あり	あり	
H-i4	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。	あり	あり	
H-i5	にぶい黄橙色砂(10YR7/4)に黄褐色砂(10YR5/6)、褐灰色粘土(10YR4/1)が少量混じる。	あり	なし	
H-i6	明褐色砂(7.5YR5/8)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)、暗褐色粒子(10YR3/4, φ～0.5cm, 鉄分か)が混じる。	あり	あり	

j-j'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
A-j1	黒色土(10YR2/1)に暗褐色土粒(10YR3/3)が混じる。	あり	あり	
B-j1	黒褐色土(10YR3/2)ににぶい黄橙色土粒(10YR6/4)が混じる。	あり	あり	
B-j2	暗褐色土(10YR3/4)。	ややあり	あり	
B-j3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)がブロック状(φ2～3cm)に混じる。	ややあり	ややあり	
F-j1	にぶい黄橙色砂(10YR6/3)に褐灰色土(10YR5/1)が混じる。	あり	なし	
F-j2	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄褐色砂(10YR6/3)が混じる。	あり	あり	
F-j3	褐灰色粘土(10YR5/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/3)が混じる。	ややあり	あり	
F-j4	にぶい黄橙色砂(10YR6/3)に褐灰色土(10YR5/1)が混じる。	ややあり	あり	「F-k1」と同一
F-j5	褐灰色粘質土(10YR4/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。	ややあり	あり	「F-k2」と同一

第８表　ＳＡ01・ＳＤ01土層注記一覧（４）

k-k'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
C-k1	黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色土粒(10YR5/6)が多量に混じる。	あり	あり	
C-k2	黒褐色土(10YR2/2)ににぶい黄褐色シルト粒(10YR5/4)がブロック状(φ2～3cm)に混じる。	あり	あり	
F-k1	にぶい黄橙色砂(10YR6/3)に褐灰色土(10YR5/1)が混じる。	ややあり	あり	「F-j4」と同一
F-k2	褐灰色粘質土(10YR4/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。	ややあり	あり	「F-j5」と同一

ℓ-ℓ'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
B-ℓ1	褐灰色土(10YR4/1)に明黄褐色土粒(10YR6/6)が多量に混じる。	あり	あり	
B-ℓ2	暗褐色土(10YR3/3)に褐灰色土(10YR4/1)、明黄褐色砂質土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が混じる。	あり	あり	「B-m1」と同一
B-ℓ3	暗褐色土(10YR3/3)に褐灰色土(10YR4/1)、明黄褐色砂質土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が混じる。炭化物が非常に多く混じる。	あり	あり	

m-m'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
A-m1	暗褐色土(10YR3/3)に明黄褐色砂質土ブロック(φ0.5cm, 10YR6/6)が混じる。	あり	ややあり	
B-m1	暗褐色土(10YR3/3)に褐灰色土(10YR4/1)、明黄褐色砂質土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が混じる。	あり	あり	「B-ℓ2」と同一
F-m1	にぶい黄褐色砂(10YR5/4)。	あり	なし	
F-m2	褐灰色粘土(10YR4/1)に黄褐色砂(10YR5/6)、にぶい黄橙色粘土ブロック(10YR6/4, φ0.5～3cm)が多量に混じる。	あり	あり	

n-n'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
B-n1	暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土粒(10YR5/8)が混じる。	あり	あり	「B-p2」と同一
E-n1	褐灰色粘土(10YR4/1)に黄褐色砂(10YR5/6)が混じる。	ややあり	あり	
E-n2	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄褐色土ブロック(10YR6/3, φ0.5cm)が混じる。	ややあり	あり	「E-o3」と同一

o-o'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
B-o1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)に黄褐色土粒(10YR5/6)が少量混じる。	あり	なし	
B-o2	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が少量混じる。	あり	あり	
B-o3	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が混じる。	ややあり	あり	
E-o1	にぶい黄褐色砂(10YR5/3)、灰黄褐色砂(10YR5/2)ににぶい黄褐色土ブロック(10YR6/3, φ1～3cm)が混じる。	あり	なし	
E-o2	黒褐色粘土(10YR3/1)に浅黄橙色粘土ブロック(10YR8/3, φ1cm)が混じる。	あり	あり	
E-o3	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄褐色土ブロック(10YR6/3, φ0.5cm)が混じる。	あり	あり	「E-n2」と同一

第９表　ＳＡ01・ＳＤ01土層注記一覧（５）

p-p'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
B-p1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)。	あり	あり	
B-p2	暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土粒(10YR5/8)が混じる。	あり	あり	「B-n1」と同一
C-p1	暗褐色土(10YR3/4)に褐色粘質土ブロック(10YR4/6, φ2～3cm)が多量に混じる。	あり	ややあり	「C-g1」と同一
C-p2	褐色土(10YR4/4)ににぶい黄褐色粘質土ブロック(10YR6/4, φ3～5cm)が多量に混じる。	非常にあり	あり	

q-q'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
A-q1	黒褐色土(10YR2/3)。	あり	あり	
E-q1	黒褐色粘質土(10YR3/2)に砂が多量に混じる。鉄分が沈着する。	あり	あり	
E-q2	黒褐色粘質土(10YR2/3)に砂が多量、にぶい黄橙色粘土ブロック(10YR5/4, φ0.5cm)が少量混じる。	あり	あり	
G-q1	黒褐色粘質土(10YR2/2)ににぶい黄橙色粘土ブロック(10YR5/4, φ1～5cm)が中量、層の両側端に直角三角形状の粘土塊が混じる。	あり	あり	
G-q2	にぶい黄橙色粘質土(10YR5/3)。	ややあり	あり	

r-r'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
A-r1	黒褐色土(10YR3/3)。	あり	あり	
F-r1	黒褐色粘質土(10YR3/2)ににぶい黄橙色粘土ブロック(10YR5/4, φ0.1～1cm)が多量に混じる。粘土塊(5～10cm)がF-r1層堆土と交互に堆積する。鉄分が沈着する。	あり	あり	
G-r1	にぶい黄橙色粘土塊(10YR5/4)。	あり	あり	

s-s'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
E-s1	暗褐色粘質土(10YR3/3)ににぶい黄橙色粘土ブロック(10YR5/4, φ0.5～1cm)が少量、粘土塊(3cm)、砂が混じる。鉄分が沈着する。	ややあり	あり	
G-s1	黒褐色粘質土(10YR2/2)ににぶい黄橙色粘土ブロック(10YR5/4, φ1～3cm)が少量、層の両側端に直角三角形状のにぶい黄橙色粘土ブロック(10YR5/4)が混じる。	あり	あり	

t-t'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
A-t1	黒褐色土(10YR2/3)。	あり	あり	
C-t1	黒褐色土(10YR2/3)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が多量に混じる。	あり	あり	
E-t1	暗褐色粘質土(10YR3/3)ににぶい黄橙色粘土ブロック(10YR5/4, φ0.1～1cm)が多量に、粘土塊(3～10cm)、砂が混じる。	あり	あり	
G-t1	にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)。	あり	あり	

※「層名」は以下の基準で付した。
- 先頭のアルファベット(大文字)は、層の性質別にＡ～Ｈとした(第３節(１)参照)。
- ３箇所以上の断面で確認した共通の層に丸数字を付した。
- ２箇所以下の断面で確認した層には、ハイフン以下に各断面のアルファベット(小文字)を付し、堆積順を算用数字で表した。

第10表　検出遺構一覧（１）

遺構名	図番号	調査区	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	重複関係	備考	現場名
SB01	第21図	A区						2間×2間	
−P1			LO50	56	52	24			S014
−P2			LO50	54	50	32			S013
−P3			LO52	49	41	25			S157
−P4			LN50・51	61	54	13			S012
−P5			LN51	54	53	15			S011
−P6			LN・LO52	62	55	10			S010
SB02	第22図	A区						2間×４間	
−P1			MB・MC48	50	35	5			S051
−P2			MC49	59	51	9			S050
−P3			MC49	47	41	12			S049
−P4			MC49	52	51	18			S048
−P5			MC50	65	62	20			S025
−P6			MC50	63	52	23			S026
−P7			MA48	50	47	21			S054
−P8			MA・MB49	56	53	28			S053
−P9			MB49・50	67	55	20			S052
−P10			MB50	55	55	22			S028
−P11			MB51	58	58	21			S027
SB03	第23図	A区						2間×2間	
−P1			LM48	35	29	25			S556
−P2			LN48	32	27	31			S562
−P3			LN49	28	28	31			S558
−P4			LL・LM48	29	27	24			S541
−P5			LM49	32	27	23			S557
−P6			LL48	32	27	30			S536
−P7			LL49	30	26	21			S534
SB04	第24図	A区						2間×3間	
−P1			LL47	23	21	9			S546
−P2			LL47	37	31	40			S544
−P3			LL48	25	24	26			S539
−P4			LL47	26	23	26			S547
−P5			LL47	34	25	47			S545
−P6			LL48	24	23	33			S537
−P7			LK47	26	19	23			S526
−P8			LK47	38	35	39			S528
−P9			LK48	23	17	30			S530
−P10			LJ・LK47	28	23	25			S491
−P11			LK47	32	25	33			S527
−P12			LK48	42	24	28			S531
SB05	第25図	A区						1間×2間	
−P1			LO45	45	36	43			S583
−P2			LO46	39	35	27			S846
−P3			LO46	37	35	57			S585
−P4			LN45	36	32	43			S576
−P5			LN46	48	39	43			S573
−P6			LN46・47	45	39	47			S570
SB06	第26図	A区						1間×2間	
−P1			MA・MB48	37	30	21			S663
−P2			MA・MB48・49	47	37	23			S664
−P3			MA48	32	27	23			S657
−P4			MA48・49	35	30	16			ST10
−P5			LT48	38	35	36			S642
−P6			LT48・49	35	26	32			S709
SB07	第27図	A区					SD01→	1間×2間	
−P1			MA54	27	24	19			S400
−P2			MA55	37	37	28			S762
−P3			MA54	31	30	23			S760

第11表　検出遺構一覧（２）

遺構名	図番号	調査区	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	重複関係	備考	現場名
-P4			MA55	25	(24)	14	→SP070		S401
-P5			LT54	36	32	12			S761
-P6			LT55	25	23	27			S370
SA01	第14図～第20図	A・B区	LJ52、LK・LL52・53、LM・LN53・54、LO～MC54・55、MD～MG53・54、ML52、MM・MN51・52、MO50・51、MP50	9125	45～77	100～120	→SD01		S001
-P1			MC・MD54	79	32	24			S843
-P2			MD54	63	29	37			S844
-P3			ME53	61	33	32			S845
-P4			MF53	120	46	30			－
SA02	第28図	A区						1間×1間　「L」字状	
-P1			LQ54	21	21	15			S254
-P2			LQ54	18	18	18			S251
-P3			LQ54	27	24	28			S253
SA03	第28図	A区						1間×2間　「L」字状	
-P1			LR54	18	17	13			S317
-P2			LR54	17	12	8			S316
-P3			LR54	22	19	32			S318
-P4			LR54	28	23	17			S319
SA04	第28図	A区						2間	
-P1			LN52	25	23	18			S151
-P2			LN52	32	17	18			S153
-P3			LM52	20	14	17			S144
SA05	第28図	A区						2間	
-P1			LM51	23	19	19			S178
-P2			LM51	25	18	22			S174
-P3			LL51	21	20	18			S171
SA06	第29図	A区						2間	
-P1			LR48	50	30	42			S621
-P2			LQ48・49	35	30	40			S620
-P3			LP・LQ49	42	36	34			S622
SA07	第29図	A区						2間	
-P1			MB45	36	35	18			S676
-P2			MB45	37	36	30			S678
-P3			MB44・45	41	37	16			S681
SA08	第29図	A区						2間	
-P1			MD44・45	28	25	39			S698
-P2			MC・MD44	32	31	40			S059
-P3			MD44	49	38	13			S060
SD01	第14図～第20図	A・B区	LJ52、LK・LL52・53、LM・LN53・54、LO～MC54・55、MD～MG53・54、ML52、MM・MN51・52、MO50・51、MP50	9125	166～241	48～82	SA01、SK08・09・11→ →SB07、SK02・50、SP060・061・064～066・069・072～076・081・083・088・094～097、SX01 ≠SK10、SP071・078～080・082・093・098・099・136・137	D層面までの深さは40～69cm	S001
SD02	第30図	A区	LK・LL51	170以上	42	19	→SK19、SP173～175、SX01		S824
SD03	第30図	A区	LM・LN50・51	452	72～96	6～12			S735

第12表　検出遺構一覧（３）

遺構名	図番号	調査区	グリッド	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	重複関係	備考	現場名
SD04	第30図	A区	LJ48～50	902以上	114～154	12	→SP210		S486
SD05	第30図	A区	MA・MB49	262	35	6			S653
SD06	第31図	A区	LI44～46・LJ44	931以上	126～173	8	SP264→ →SK39、SP279・280		S078
SD07	第31図	B区	ML49	120	35	3			S809
SI01	第32図	A区					→SP193・211		S015
-P1	～		LK51	27	21	20	SI01-P2→		S743
-P2	第34図		LK51	58	49	12	SI01周溝→ →SI01-P1		S744
-P3			LK51	28	27	24			S727
-P4			LL50・51	22	19	17			S782
-P5			LK50	39	26	5	SI01周溝→		S742
-P6			LK・LJ50	27	23	7			S740
-P7			LK50	38	36	15	SI01周溝→		S741
-P8			LK50	24	17	残存27			S748
-P9			LK50	22	17	16	SI01周溝→		S738
-P10			LK50	30	23	17	SI01周溝→		S736
-P11			LK50	24	18	10			S737
-P12			LK50	30	25	15			S756
-P13			LK50	21	16	11			S728
-P14			LK49	20	17	9			S729
-P15			LK49	22	21	17			S730
-P16			LK49	22	21	30			S731
-P17			LK49	16	13	17			S781
-P18			LK51	48	32	5	SI01周溝→		S796
-P19			LK50	35	25	4			S797
-P20			LL50	34	23	13			S792
-P21			LL50	22	20	18			S783
-P22			LK50	15	11	18			S779
-P23			LK50	20	17	22			S780
-P24			LK50	18	16	8			S755
-P25			LK・LL49・50	37	35	3			S791
周溝			LK・LL50・51	4.11＋3.40以上	22～41	4			S739
SK01	第35図	A区	LP・LQ58・59	230	(164)	33			S016
SK02	第35図	A区	LP55	175	77	23	SD01→ →SP059～061・064		S018
SK03	第35図	A区	LR54	(50)	45	20	→SK04		S310
SK04	第35図	A区	LR54	67	51	20	SK03→		S311
SK05	第35図	A区	LS54	86	78	39			S023
SK06	第35図	A区	LT54	52	44	57			S371
SK07	第36図	A区	MC53・54	156	(117)	24	SP129→ ≠SK10		S002
-P1			MC54	19	14	11			S819
-P2			MC54	20	17	8			S820
-P3			MC54	23	18	16			S821
-P4			MC54	16	15	18			S822
SK08	第36図	A区	MC・D53、MD54	227	202	76	→SD01 SK11→ ≠SP130		S003
-P1			MD53	19	18	7		検出面：SK08-5層	S799
-P2			MD53	20	15	17		検出面：SK08-5層	S800
SK09	第37図	A区	MD・ME53	183	137	45	→SD01		S004

第13表　検出遺構一覧（４）

遺構名	図番号	調査区	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	重複関係	備考	現場名
SK10	第36図	A区	MC54	73	(48)	29	→SP093、≠SD01		S794
SK11	第36図	A区	MD54	63	(44)	31	→SD01、SK08		S840
SK12	第37図	A区	LK53	75以上	74	8			S808
SK13	第37図	A区	LK52・53	54	42	7	SX01→		S807
SK14	第37図	A区	LQ・LR53	61	49	17			S275
SK15	第37図	A区	LR53	81	37	25			S047
SK16	第38図	A区	MD・ME52	215	171	118	SP169→		S029
SK17	第38図	A区	LJ51	113	(114)	22			S019
SK18	第38図	A区	LJ51	88	86	26			S020
SK19	第38図	A区	LK51	62	51	6	SD02、SX01→		S826
SK20	第39図	A区	LJ50	(216)	189	31			S022
SK21	第39図	A区	LJ50	80	67	9			S021
SK22	第39図	A区	L1・LJ49	34以上	－	38			S076
SK23	第39図	A区	LN49	53	32	25	SP216→		S561
SK24	第39図	A区	LT・MA49	93	82	64	SP225・226→		S063
SK25	第40図	A区	L1 48	(112)	93	10			S075
SK26	第40図	A区	L147・48	136	124	24			S069
SK27	第40図	A区	L1・LJ47・48	94	67	18			S068
SK28	第40図	A区	LP・L047・48	117	(122)	17	→SK29		S609
SK29	第40図	A区	LP・L048	79	72	22	SK28→		S608
SK30	第40図	A区	LR47	56	55	29			S634
SK31	第41図	A区	MB48	74	47	30			S669
SK32	第41図	A区	MB47・48	251	204	19～28	SK33→		S056
SK33	第41図	A区	MB・MC47・48	(142)	94	26	→SK32・34		S055
SK34	第41図	A区	MB・MC47	73	70	42	SK33→		S753
SK35	第41図	A区	ME48	72	65	12			S749
SK36	第41図	A区	ME48	150	147	11			S750
SK37	第41図	A区	L147	174	(166)	32			S077
SK38	第42図	A区	L147	92	74	10			S072
SK39	第42図	A区	L1・LJ46・47	165	126	29	SD06→ →SP261・262		S071
SK40	第42図	A区	L046・47	98	61	12			S586
SK41	第42図	A区	L047	90	57	19			S587
SK42	第42図	A区	MD 47	55	41	11	SK43→		S062
SK43	第42図	A区	MD47	(86)	72	23	→SK42		S704
SK44	第42図	A区	LJ46	81	48	16			S498
SK45	第43図	A区	MA・MB45・46	253	238	20			S057
SK46	第43図	A区	LH44・45	60	41	27			S074
SK47	第43図	A区	L145	95	75	25			S073
SK48	第43図	A区	MB45	99	63	22			S679
SK49	第43図	A区	LL・LM44	154	140	29			S058
SK50	第43図	B区	MM52	55	44	38	SD01→		S772
SX01	第44図	A区	LJ・LK51・52・LK53	512以上	471	58	SD01・02、SP173→ →SK13・19		S816
-P1			LK52	23	22	17			S817
-P2			LK52	21	18	6			S828
-P3			LJ52	17	12	9			S829

※重複関係を以下の記号であらわした。
例　→　SK00　：　当該遺構がSK00よりも古い。
　　SK00　→　：　当該遺構がSK00よりも新しい。
　　≠ SK00　：　当該遺構とSK00の新旧関係は不明。

第14表　検出遺構（ピット）一覧（１）

遺構名	グリッド	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	重複関係	現場名
SP001	L058	29	27	18		S089
SP002	L057・58	27	25	12		S090
SP003	LP58	16	15	14		S085
SP004	LP58	20	20	14		S086
SP005	LP58	21	20	20		S088
SP006	L057	22	22	26		S091
SP007	L057	15	14	14		S092
SP008	L057	19	19	12		S098
SP009	LN・L057	23	18	10		S101
SP010	L057	21	18	19		S097
SP011	L057	23	23	21		S102
SP012	L057	23	21	17		S094
SP013	L057	21	17	20		S095
SP014	L057	19	17	15		S096
SP015	LP57	10	10	11		S233
SP016	LP57	37	33	12		S231
SP017	LP57	21	21	19		S232
SP018	LP57	25	23	20		S230
SP019	LP57	19	12	10		S226
SP020	LP57	36	26	22		S229
SP021	LP57	22	18	13		S228
SP022	LQ57	16	15	11		S235
SP023	LQ57	23	20	12		S236
SP024	LQ57	25	22	14		S239
SP025	LQ57	21	21	25		S240
SP026	LR57	25	21	20		S296
SP027	LR57	24	20	22		S299
SP028	LR57	22	20	18		S294
SP029	LN56	32	18	11		S116
SP030	L056	21	18	25		S112
SP031	L056	19	14	15		S113
SP032	L056	27	26	31		S811
SP033	L056	19	16	15		S103
SP034	L056	23	19	14		S812
SP035	L056	28	23	31		S813
SP036	L056	27	21	344		S814
SP037	L056	28	23	32		S107
SP038	L056	23	19	14		S108
SP039	L056	19	16	11		S111
SP040	L056	20	20	19		S114
SP041	LO・LP56	23	21	18		S105
SP042	L056	13	13	10		S110
SP043	L055・56	19	15	14		S115
SP044	LP56	16	16	37		S106
SP045	LP56	25	24	31		S815
SP046	LP56	20	15	9		S222
SP047	LP56	22	19	22		S223
SP048	LP56	17	16	16		S224
SP049	LP56	24	21	9		S225
SP050	LQ56	21	20	25		S241
SP051	LQ56	18	17	16		S242
SP052	LQ56	21	20	18		S243
SP053	LR56	15	15	18		S305
SP054	LS56	17	16	16		S362
SP055	L055	16	15	11		S118
SP056	LP55	27	24	23		S219
SP057	LP55	22	20	14		S218
SP058	LP55	19	16	13		S217

遺構名	グリッド	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	重複関係	現場名
SP059	LP55	34	26	10	SK02→	S765
SP060	LP55	37	25	20	SD01・SK02→、A	S036
SP061	LP55	36	33	34	SD01・SK02→、A	S038
SP062	LP55	24	23	24		S221
SP063	LP55	24	23	20		S220
SP064	LP55	21	19	9	SD01・SK02→、A	S035
SP065	LP55	15	12	6	SD01→、C	S789
SP066	LP・LQ55	46	40	23	SD01→、A	S034
SP067	LQ55	30	29	22		S842
SP068	LQ55	31	26	26		S246
SP069	LQ55	27	20	20	SD01→、A	S042
SP070	MA55	24	20	12	→SB07 P4	S763
SP071	LM54	35	31	31	≠SD01、Ⅲ	S803
SP072	LO54	28	23	13	SD01→、A	S040
SP073	LO54	16	15	17	SD01→、B	S795
SP074	LO54	34	22	21	SD01→、C	S788
SP075	LO54	21	19	57	SD01→、C	S849
SP076	LO54	45	43	12	SD01→、A	S039
SP077	LO・LP53・54	22	20	25		S270
SP078	LP54	27	22	12	≠SD01、Ⅲ	S786
SP079	LP54	29以上	23	10	≠SD01、Ⅲ	S785
SP080	LP54	16	14	17	≠SD01、Ⅲ	S787
SP081	LP54	27	26	18	SD01→、A	S216
SP082	LP54	27	23	残存6	≠SD01、Ⅲ	S790
SP083	LQ54	44	38	11	SD01→、A	S764
SP084	LR54	22	18	11		S248
SP085	LR54	22	15	16		S314
SP086	LR54	36	28	19		S313
SP087	LR54	17	15	7		S312
SP088	LT54	31	20	残存14	SD01→、B	S766
SP089	MA54	22	21	25		S396
SP090	MA54	25	25	18		S397
SP091	MA54	31	23	26		S398
SP092	MB54	21	19	15		S412
SP093	MC54	25	21	6	SK10→≠SD01	S793
SP094	ME54	20	18	17	SD01→、C	S818

第15表　検出遺構（ピット）一覧（２）

遺構名	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	重複関係	現場名
SP095	LK53	18	18	22	SD01→、A	S838
SP096	LK53	33	28	23	SD01→、A	S830
SP097	LM53	20	17	18	SD01→、C	S801
SP098	LM53	34	27	44	≠SD01、Ⅲ	S802
SP099	LN53	28	16	7	≠SD01、Ⅲ	S798
SP100	LO53	19	18	22		S130
SP101	LP53	45	43	14		S214
SP102	LQ53・54	33	32	12		S263
SP103	LQ53	32	24	31		S264
SP104	LQ53	20	14	11		S268
SP105	LQ53	25	20	21		S269
SP106	LQ53	27	20	14		S267
SP107	LQ53	26	25	11		S265
SP108	LQ53	41	37	27		S266
SP109	LQ53	21	17	18		S271
SP110	LQ52・53	32	20	11		S282
SP111	LQ53	28	22	19		S262
SP112	LQ53	22	16	25		S272
SP113	LQ53	36	33	32		S279
SP114	LQ53	26	18	8		S280
SP115	LQ53	20	20	19		S281
SP116	LQ53	39	32	15		S259
SP117	LQ53	48	45	12		S278
SP118	LQ53	21	20	20		S274
SP119	LR53	21	18	20		S323
SP120	LR53	31	25	22		S714
SP121	LR53	21	20	12		S715
SP122	LR53	21	16	16		S321
SP123	LR53	21	20	13		S322
SP124	LR53	27	24	17		S324
SP125	LS53	14	14	14		S337
SP126	MA53	25	22	17		S393
SP127	MA53	22	20	24		S394
SP128	MC53	36	21	31		S446
SP129	MC53・54	53	37	36	→SK07	S033
SP130	MC・MD53	(22)	19	－	≠SK08	S810
SP131	MC・MD53	11以上	－	19		S032
SP132	MD53	25	22	19		S454
SP133	ME53	23	19以上	18	→SP134	S474
SP134	ME53	28	26	22	SP133→	S473
SP135	LJ・LK52	20	19	37	SX01→	S823
SP136	LK52	23	17	21	≠SD01、Ⅲ	S827
SP137	LK・LL52	21	17	28	≠SD01、Ⅲ	S835
SP138	LM52	14	11	8		S143
SP139	LM52	24	22	21		S145
SP140	LP52	30	29	15		S213
SP141	LQ52	31	31	23		S286
SP142	LQ・LR52	28	27	18		S287
SP143	LR52	21	15	14		S328
SP144	LR52	25	23	10		S327
SP145	LR52	26	23	15		S329

遺構名	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	重複関係	現場名
SP146	LS52	19	19	8		S338
SP147	LS52	19	15	10		S339
SP148	LS52	26	25	13		S340
SP149	LS52	17	15	16		S345
SP150	LS52	22	21	12		S350
SP151	LS52	32	23	23		S349
SP152	LS52	37	30	33		S348
SP153	LS52	44	29	26		S344
SP154	LS52	22以上	20	15	→SP155	S343
SP155	LS52	16	15	23	SP154→	S342
SP156	LS52	30	23	9		S341
SP157	MA52	21	21	15		S389
SP158	MB52	27	27	14		S417
SP159	MB52	26	24	21		S419
SP160	MC52	25	22	37		S444
SP161	MC52	27	25	28		S441
SP162	MC52	29	24	19		S442
SP163	MD52	26	25	11		S458
SP164	MD52	42	26	19		S461
SP165	MD51・52	31	29	40		S462
SP166	MD52	20	19	17		S457
SP167	MD52	40	24	36		S456
SP168	MD51・52	28	24	31		S463
SP169	ME52	47	18	10	→SK16	S030
SP170	LK51	26	20	24		S159
SP171	LK51	26	22	24		S161
SP172	LK51	26	26	16		S164
SP173	LK51	24	23	10	SD02→→SX01	S825
SP174	LK51	22	19	19	SD02→	S805
SP175	LL51	44	37	9	SD02→	S804
SP176	LL51	32	28	8		S168
SP177	LL51	32	29	23		S165
SP178	LL51	21	21	21		S167
SP179	LM51	25	23	18		S172
SP180	LM51	28	25	21		S175
SP181	LN51	18	14	14		S180
SP182	LO51	20	18	16		S187
SP183	LQ51	39	24	24		S292
SP184	LQ51	36	28	35		S288
SP185	LQ51	49	42	12		S290
SP186	LR51	21	20	22		S332
SP187	LR51	21	17	15		S331
SP188	MA51	33	28	15		S378
SP189	MA50・51	36	35	27		S376
SP190	MB51	17	14	20		S425
SP191	MC51	26	25	22		S436
SP192	MD51	31	22	21		S467
SP193	LL50	23	17	29	S101→	S716
SP194	LM50	22	22	30		S717
SP195	LQ50	25	24	28		S720
SP196	LR50	28	26	27		S721
SP197	LR50	21	20	13		S333
SP198	LR50	29	25	10		S334
SP199	LR50	30	30	23		S335
SP200	LR50	18	16	17		S722
SP201	LS50	27	24	14		S354
SP202	LS50	24	20	15		S353

第16表　検出遺構（ピット）一覧（３）

遺構名	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	重複関係	現場名
SP203	LS50	25	22	16		S352
SP204	LS50	28	18	10		S356
SP205	MB50	26	16	34		S431
SP206	MB50	26	24	17		S433
SP207	MB50	20	16	20		S432
SP208	MB50	33	14	18		S434
SP209	LJ49	24	23	24		S482
SP210	LJ49	33	29	26	SD04→	S485
SP211	LK49	29	29	7	S101→	S732
SP212	LL49	29	29	19		S733
SP213	LL49	32	26	37		S533
SP214	LL49	(62)	52	20		S532
SP215	LN49	27	23	15		S559
SP216	LN49	32	(24)	12	→SK23	S560
SP217	LP・LQ49	19	18	27		S625
SP218	LP・LQ49	27	15	14		S623
SP219	LQ49	37	28	29		S624
SP220	LQ・LR49	17	15	16		S626
SP221	LR49	17	15	9		S627
SP222	LR49	33	32	22		S628
SP223	LR49	21	19	8		S629
SP224	LT49	21	19	16		S640
SP225	LT49	(22)	17	13	→SK24	S769
SP226	MA49	26	(26)	12	→SK24	S768
SP227	MF49	34	33	27		S708
SP228	LJ47・48	25	20	21		S487
SP229	LO48	28	19	26		S593
SP230	LP48	35	30	39		S597
SP231	LP48	12	11	18		S599
SP232	LQ48	34	24	34		S617
SP233	LR48	24	22	16		S630
SP234	LR48	25	24	18		S836
SP235	LR48	41	40	20		S632
SP236	LR47・48	29	21	20		S633
SP237	MB48	50	49	14		S670
SP238	MB48	41	40	34		S668
SP239	MB48	28	28	25		S671
SP240	MB・MC48	34	31	27		S688
SP241	MC48	22	21	14		S689
SP242	ME48	24	24	28		S706
SP243	LJ47	49	48	15		S726
SP244	LJ47	25	24	35		S489
SP245	LL47	26	22	26		S542
SP246	LM47	47	41	11		S554
SP247	LN47	34	26	19		S563
SP248	LN47	20	17	19		S568
SP249	LO47	26	25	18		S588
SP250	LO47	30	26	13		S589
SP251	LP47	20	18	22	SP252→	S606
SP252	LP47	29	27	33	→SP251	S605
SP253	LP47	19	18	16		S607
SP254	LP47	39	27	27		S083
SP255	LQ47	22	17	26		S616
SP256	LR47	23	21	31		S636
SP257	LR47	21	20	20		S635
SP258	MA47	40	37	25		S659
SP259	MA47	33	28	8		S660
SP260	MA・MB47	35	34	19		S662
SP261	LJ46	28	26	11	SK39→	S079
SP262	LJ46	26	21	20	SK39→	S070
SP263	MC46	31	26	18		S685
SP264	LJ45・46	53	51	30	→SD06	S751
SP265	LJ45	29	25	62		S503
SP266	LJ45	29	23	43		S509
SP267	LJ45	27	24	54		S505
SP268	LJ45	26	24	53		S510
SP269	LJ45	27	25	50		S508
SP270	LJ45	25	24	18		S506
SP271	LJ45	23	18	26		S507
SP272	LK45・46	26	24	23		S524
SP273	LK45	28	25	44		S521
SP274	LM45	27	26	25		S550
SP275	LN45	28	24	24		S575
SP276	LO45	64	50	47		S582
SP277	MD45	21	20	17		S700
SP278	LI44	29	22	31		S513
SP279	LJ44	41	34	12	SD06→	S514
SP280	LJ44	32	29	36	SD06→	S847
SP281	LJ44	28	25	19		S515
SP282	LJ44	33	27	31		S516
SP283	LK44	25	24	16		S518
SP284	LK44	23	23	14		S520
SP285	LN44	20	19	19		S577
SP286	MD44・45	42	37	10		S061
SP287	LO43	27	22	14		S578
SP288	LP43	35	24	32		S613
SP289	LP43	29	23	37		S614
SP290	LP43	26	25	36		S615
SP291	MP51	35	35	15		S773
SP292	MP50	19	19	10		S774
SP293	MP50	24	23	20		S806
SP294	MN49	19	16	56		S776
SP295	MM48	28	27	14		S778
SP296	MM48	36	35	65		S777

※重複関係を以下の記号であらわした。
例　→　SK00　：当該遺構がSK00よりも古い。
　　SK00　→　：当該遺構がSK00よりも新しい。
　　≠　SK00　：当該遺構とSK00の新旧関係は不明。

※SD01と重複するピットは、重複関係に続けて検出面の層の名称を記載した。
例　A：SD01−A層
　　B：SD01−B層
　　C：SD01−C層
　　Ⅲ：第Ⅲ−１層
したがって、SD01内のC層面で検出したピットは「重複関係」欄に「SD01→、C」と表記している。

第17表　遺物属性表（１）

遺物No.	図番号	出土地点層位	グリッド	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	取上No.
1	第46図	SD01-A層	M050	須恵器	短頸壺	(17.0)			頸部下端外面に平行叩き痕、内外面自然釉付着	033
2	第46図	SD01-A層	MG53-54	須恵器	長頸壺					693
3	第46図	SD01-A層	MD53	須恵器	長頸壺				外面に２条のリング状沈線文、内面指頭圧痕	061
4	第46図	SD01-A層	MB54-55	土師器	甕	(14.6)			非ロクロ成形、外面ケズリ調整後ミガキ調整、内面ナデ・ハケメ調整	269
5	第46図	SD01-A層	MB54-55	土師器	甕	(22.6)			非ロクロ成形、内外面ナデ調整、口縁部外面に指頭圧痕	249
6	第46図	SD01-A層	MB54-55	土師器	甕	(11.0)			非ロクロ成形、内外面ナデ調整・指頭圧痕、口縁部内面煤付着	269
7	第46図	SD01-A層	MB54-55	土師器	甕	(15.8)			非ロクロ成形、内外面ナデ調整、頸部内面ハケメ調整、内面煤付着	353
8	第46図	SD01-A層	MA54-55	土師器	甕	(16.0)			非ロクロ成形、内面いぶし処理・ナデ調整、外面ケズリ調整の後ナデ調整、	353
9	第46図	SD01-A層	MD54	土師器	壺				非ロクロ成形、内面いぶし処理・ハケメ調整・煤付着、外面摩耗・ハケメ調整	367
10	第47図	SD01-A層	MB54-55	土師器	甕		(16.4)		内外面ナデ調整、底部全面に砂粒が付着	249
11	第47図	SD01-A層	LS55	土師器	甕				非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整、底部全面に砂粒が付着	535
12	第47図	SD01-A層	MP50	土師器	甕		8.0		非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整、底部中央に粗い砂粒が付着	032
13	第47図	SD01-A層	MD53-54	赤褐色土器	坏		5.6		底部回転糸切り無調整	081
14	第47図	SD01-A層	ME53-54・MF53-54	赤褐色土器	坏	(13.6)			口縁部内面に煤付着	689
15	第47図	SD01-A層	LS54	赤褐色土器	坏	(12.2)		4.4	底部回転糸切り無調整	525
16	第47図	SD01-A層	LN54	赤褐色土器	坏	12.6	4.4	4.0	底部回転糸切り無調整	459
17	第47図	SD01-A層	LN54	赤褐色土器	坏	(12.0)	4.7	4.2	底部回転糸切り無調整	459
18	第47図	SD01-A層	LP54-55	赤褐色土器	坏	(13.0)				397
19	第47図	SD01-A層	LK52	赤褐色土器	坏		4.4		底部回転糸切り無調整	631
20	第47図	SD01-A層	ME53	赤褐色土器	坏		6.3		底部回転糸切り無調整、柱状高台	052
21	第47図	SD01-A層	MB54-55	土製品	羽口	(13.6)	(7.4)			246
22	第47図	SD01-A層	MB54-55	土製品	羽口	(12.3)	(8.6)		先端被熱、ガラス質の溶解物が付着	245
23	第48図	SD01-A層	MC54-55	土製品	羽口	(13.4)	(5.5)		先端被熱、ガラス質の溶解物が付着	280
24	第48図	SD01-A層	MD54	土製品	羽口	(15.7)	(8.2)	(4.7)	先端被熱、ガラス質の溶解物が付着	581
25	第48図	SD01-A層	ME53	土製品	羽口	(12.1)	(7.7)	(3.6)	先端被熱、ガラス質の溶解物が付着	146
26	第48図	SD01-A層	MC54-55	土製品	棒状土製品	(12.4)	10.0	(5.5)	面取り、全面に二次的な被熱痕跡	247
27	第49図	SD01-A層	MB54-55	土製品	不明土製品	(9.5)	(8.7)	(3.7)	面取り、全面に二次的な被熱痕跡、煤付着	694
28	第49図	SD01-A層	MB・MD間	礫	金床石ヵ	(21.1)	(21.5)	(18.7)	欠損部以外の３面が平坦、少量の鉄が付着、金床石ヵ	－
29	第49図	SD01-A層	MC54-55	鉄製品	刀子	(8.5)		(2.1)	表面に木質が少量付着	290
30	第49図	SD01-A層	LP54	鉄製品	棒状鉄製品	(14.2)	(2.0)		両端欠損、棒状の鉄製品	378
31	第50図	SD01-B層	ME54	須恵器	坏		(13.0)		塊形、口縁部は玉縁状を呈する、谷地Ⅱ遺跡３号窯ヵ	594

第18表　遺物属性表（２）

遺物No.	図番号	出土地点層位	グリッド	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	取上No.
32	第50図	SD01-B層	ME53・54	須恵器	短頸壺	(11.0)			肩部外面に２条のリング状の沈線文、重焼痕あり	673
33	第50図	SD01-B層	LP54・55	須恵器	甕				外面に平行叩き痕、内面に平行当て具痕	431
34	第50図	SD01-B層	ME54	土師器	坏	(12.8)	5.4	5.2	内面黒色処理・横方向のミガキ調整、底部回転糸切り無調整	594
35	第50図	SD01-B層	MC53・MD53	土師器	坏		(6.0)		内面黒色処理・ミガキ調整	388
36	第50図	SD01-B層	ME53	赤褐色土器	坏	(14.0)			口唇部を面取り	152
37	第50図	SD01-B層	LN54	赤褐色土器	坏	13.9	5.8	5.2	底部回転糸切り無調整	463
38	第50図	SD01-B層	ME54	赤褐色土器	坏	(13.6)	5.4	5.3	底部回転糸切り無調整	590
39	第50図	SD01-B層	MD54	赤褐色土器	坏		5.2		底部回転糸切り無調整	369
40	第50図	SD01-B層	MD54	赤褐色土器	坏		5.0		底部回転糸切り無調整	369
41	第50図	SD01-B層	ME54・55	赤褐色土器	坏	(14.2)	(6.0)	4.2	底部回転糸切り無調整	294
42	第50図	SD01-B層	LM53	赤褐色土器	坏	12.3	5.4	3.8	底部回転糸切り無調整	487
43	第50図	SD01-B層	ME53・54	赤褐色土器	皿	13.0	6.0	2.9	底部摩耗	672
44	第50図	SD01-B層	MC54・MD54	土製品	土錘					368
45	第50図	SD01-C層	MM52	須恵器	甕				外面に平行叩き痕・自然釉付着、内面同心円当て具痕	513
46	第50図	SD01-C層	ME53	赤褐色土器	坏		(5.6)	(2.9)	底部静止糸切り無調整	168
47	第50図	SD01-C層	MD53・MD54	赤褐色土器	坏	(13.5)	(6.6)	4.9	底部静止糸切り後軽いナデ調整、体部下端外面に稈圧痕ヵ	394
48	第51図	SD01-D層	ME54	須恵器	坏	(11.8)			塊形、口縁部は玉縁状を呈する、谷地Ⅱ遺跡３号窯ヵ	598
49	第51図	SD01-D層	LR54・55	須恵器	壺				内外面ナデ調整の後ハケメ調整、外面自然釉付着	557
50	第51図	SD01-D層	MA54・55	須恵器	壺				内外面ナデ調整、外面自然釉付着	381
51	第51図	SD01-D層	MC54・55	土師器	坏		(5.4)		内面黒色処理・ミガキ調整、底部回転糸切り無調整	309
52	第51図	SD01-D層	MD54	赤褐色土器	坏	13.0	6.3	4.9	底部回転糸切り無調整	377
53	第51図	SD01-D層	MD54	赤褐色土器	坏		6.0		底部回転糸切り無調整	589
54	第51図	SD01-D層	ME54	赤褐色土器	坏		(6.2)		底部回転糸切り無調整	596
55	第51図	SD01-D層	ME53	赤褐色土器	坏	(11.6)	6.6	4.4	底部摩耗	171
56	第51図	SD01-D層	MF53	赤褐色土器	坏		6.2		全面摩耗	193
57	第51図	SD01-D層	MC54	赤褐色土器	坏		(5.4)		底部回転糸切り無調整	677
58	第51図	SD01-D層	MC54	赤褐色土器	坏	(11.0)	(5.2)	4.1	体部下端外面ケズリ調整、底部回転糸切り無調整	404
59	第51図	SD01-D層	MC54・MD54	赤褐色土器	坏	(10.0)	(4.8)		体部下端外面ケズリ調整	461
60	第51図	SA01-E層	MM52	縄文土器	粗製深鉢		8.0		外面LR単節縄文、底面ナデ調整	539
61	第51図	SA01-E層	LP54・55	土師器	塊	(18.0)			口縁部付近の外面と内面黒色処理、口縁部外面ミガキ調整、内面横方向のミガキ調整	465
62	第51図	SB01-P6	LO52	須恵器	甕					080
63	第51図	SB01-P1	LO50	赤褐色土器	坏				口唇部を面取り	087

第19表　遺物属性表（３）

遺物No.	図番号	出土地点層位	グリッド	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	取上No.
64	第51図	SB02-P10（掘り方）	MB50	土師器	甕				非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整・煤付着	504
65	第51図	SB02-P4（掘り方）	MC49	赤褐色土器	坏					510
66	第51図	SB02-P11（抜取り）	MB51	赤褐色土器	坏					509
67	第51図	SB04-P6（抜取り）	LL48	土師器	甕				非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整	399
68	第52図	S101-埋土	LK50	土師器	塊				内面黒色処理・横方向のミガキ調整	346
69	第52図	S101-埋土	LK50-51・LL50-51	土師器	甕	(17.2)			外面頸部から体部にかけてケズリ後ミガキ調整、内面いぶし処理・口縁部から頸部にかけて横方向のミガキ調整・体部ハケメ調整	261
70	第52図	S101-埋土	LK50	赤褐色土器	甕				外面ケズリ調整・平行叩き痕、内面ハケメ調整・同心円当て具痕	268
71	第52図	S101-埋土	LK50	土製品	羽口	(6.6)	(7.0)		ガラス質の溶解物が付着	248
72	第52図	S101-埋土	LK50	石製品	石錘	8.4	6.2	2.6	隆帯状に凸部が全周	348
73	第52図	S101-粘土範囲	LL50	土師器	甕	(13.8)			非ロクロ成形	412
74	第52図	S101-粘土範囲	LL50	土師器	甕		(10.6)		非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整、底部中央に砂粒が付着	411
75	第52図	S101-粘土範囲	LK50	赤褐色土器	甕		6.5		底部下端にヘラケズリ調整、底部回転糸切り無調整	395
76	第53図	SK07	MC54	須恵器	甕				外面に格子目叩き痕、内面に平行当て具痕	058
77	第53図	SK08-1層	MD53	須恵器	坏		5.8		底部回転糸切り無調整、谷地Ⅱ遺跡３号窯ヵ	445
78	第53図	SK08-3層	MD53	赤褐色土器	坏	(12.9)	(5.7)	4.9	底部回転糸切り無調整	437
79	第53図	SK08-3層	MD53	赤褐色土器	坏		(6.2)		底部切離し後ナデ調整	443
80	第53図	SK08-中層	MD53	土師器	塊	(20.0)			内面黒色処理・横方向のミガキ調整	452
81	第53図	SK08-3層	MD53	土師器	塊	(18.0)	(5.0)		内面黒色処理・横方向のミガキ調整	515
82	第53図	SK08-1層	MD53	土師器	塊				内面黒色処理・ミガキ調整、底部切り離し後ナデ調整、高台貼付痕あり	607
83	第53図	SK08-1層	MD53	赤褐色土器	坏	(14.0)	6.6	6.2	底部回転糸切り無調整	602
84	第53図	SK08-1層	MD53	赤褐色土器	坏	12.6	5.8	4.9	底部回転糸切り無調整	601
85	第53図	SK08-上層	MD53	赤褐色土器	坏	(11.6)	(6.6)	4.2	底部摩耗	088
86	第53図	SK08-上層	MD53	赤褐色土器	坏	(10.8)	(6.0)	4.6	体部下端外面ケズリ調整、底部回転糸切り無調整	059
87	第53図	SK08-3層	MD53	赤褐色土器	坏	(13.8)	5.8		底部回転糸切り無調整	442
88	第53図	SK08-3層	MD53	赤褐色土器	坏	(12.6)	6.0	4.6	底部回転糸切り無調整	621
89	第53図	SK08-3層	MD53	赤褐色土器	坏	(13.8)	5.8	4.7	底部回転糸切り無調整	619
90	第53図	SK08-3層	MD53	赤褐色土器	坏		6.0		底部回転糸切り無調整	516
91	第54図	SK08-4層	MD53	赤褐色土器	坏	13.0	5.8	5.1	底部回転糸切り無調整	623
92	第54図	SK08-4層	MD53	赤褐色土器	坏	(13.8)	6.2	4.5	底部回転糸切り無調整	622
93	第54図	SK08-5層	MD53	赤褐色土器	坏	13.3	5.8	4.6	底部回転糸切り無調整	460
94	第54図	SK08-5層	MD53	赤褐色土器	坏	(12.6)	(6.4)	(5.2)	全面摩耗	641

第20表　遺物属性表（４）

遺物No.	図番号	出土地点層位	グリッド	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	取上No.
95	第54図	SK08-4層	MD53	土製品	不明土製品	(8.3)	(4.4)	(5.7)	面取り、全面に二次的な被熱痕跡	629
96	第54図	SK09	MD53・ME53	土師器	壺	(18.0)			内面黒色処理・横方向のミガキ調整	076
97	第54図	SK09	MD53・ME53	土師器	甕				非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ケズリ調整ヵ	076
98	第54図	SK09	MD53・ME53	赤褐色土器	坏		(6.0)		底部回転糸切り無調整	076
99	第54図	SK09	MD53	赤褐色土器	坏		(6.2)		底部回転糸切り無調整	506
100	第54図	SK16	MD52・ME52	須恵器	甕				外面に格子目叩き痕、内面に平行当て具痕	323
101	第54図	SK16	ME52	土製品	不明土製品	(9.4)	(6.4)	(4.4)	面取り	376
102	第54図	SK20	LJ50・51	赤褐色土器	坏	(12.4)				223
103	第54図	SK24	LT49・MA49	須恵器	坏		(7.0)		底部切離し後ナデ調整	319
104	第54図	SK24	LT49・MA49	土師器	甕				非ロクロ成形、外面幅の広いケズリ調整、内面ナデ調整・指頭圧痕	318
105	第55図	SK32	MB47・48	土師器	甕	(22.0)			非ロクロ成形、内外面ナデ調整、外面指頭圧痕	299
106	第55図	SK32	MB47・48	土師器	甕	(24.0)			非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整	312
107	第55図	SK32	MB47	赤褐色土器	坏	(10.6)	(5.2)	4.3	底部回転糸切り無調整	129
108	第55図	SK32	MB47・48	赤褐色土器	坏	(11.6)	(4.8)	4.7	底部回転糸切り無調整、胎土に海面骨針を含む	329
109	第55図	SK34	MB47・48・MC47・48	土師器	甕				非ロクロ成形、外面ハケメ調整、内面ナデ調整	314
110	第55図	SK34	MB47・48	土製品	不明土製品				面取り	314
111	第55図	SK45	MA45・46	土師器	甕				非ロクロ成形、内外面ハケメ調整	288
112	第55図	SK49	LL44・44	須恵器	壺		10.0		体部上半外面に並行叩き痕・下半にケズリ調整、体部上半内面カキ目調整・ナデ調整、底部内面および体部外面に自然釉付着、体部外面上半に輪圧痕ヵ	127
113	第55図	SK49	LL44・44	土師器	甕				非ロクロ成形、内外面ハケメ調整、頸部外面ナデ調整	127
114	第56図	SX01	LK52・53	須恵器	坏	(12.4)	(6.0)	3.9	底部回転糸切り無調整、谷地Ⅱ遺跡３号窯ヵ	584
115	第56図	SX01	LK52・53	須恵器	甕	(21.2)			内外面ナデ調整	612
116	第56図	SX01	LK52・53	須恵器	甕				外面ケズリ調整、内面ナデ調整	584
117	第56図	SX01	LJ52・52	土師器	台付埦		(6.0)		内外面黒色処理	583
118	第56図	SX01	LK52	赤褐色土器	坏	(13.0)				610
119	第56図	SX01	LK51・52	土製品	不明土製品	(6.5)	(4.4)	(3.6)	面取り	519
120	第56図	第１層	LK52	石製品	砥石	12.2	7.7	4.0	４面使用	117

第21表　ＳＤ01出土赤褐色土器（坏）法量一覧（１）

No.	出土層位	グリッド	口径(cm)	底径(cm)	個体数	遺物No.	取上No.
1	A層	LK52・53	10.0	－	0.08	－	614-1
2	A層	LK52・53	11.0	－	0.08	－	614-2
3	A層	LL53	－	6.0	－	－	484
4	A層	LM53・54	－	6.0	－	－	483-2
5	A層	LN54	13.0	－	0.46	－	459-1
6	A層	LN54	13.0	－	0.16	－	459-2
7	A層	LN54	13.0	－	0.09	－	459-3
8	A層	LN54	13.0	－	0.07	－	459-4
9	A層	LN54	14.0	－	0.08	－	459-5
10	A層	LN54	14.0	－	0.06	－	459-6
11	A層	LN54	13.0	－	0.04	－	459-7
12	A層	LN54	14.0	－	0.05	－	459-8
13	A層	LN54	13.0	4.5	0.08	－	459-15
14	A層	LN54	－	5.0	－	－	459-16
15	A層	LP54・55	11.0	－	0.08	－	380-1
16	A層	LP54・55	－	7.0	－	－	380-2
17	A層	LP54・55	14.0	－	0.13	－	396-1
18	A層	LP54・55	14.0	－	0.13	－	396-2
19	A層	LP54・55	11.0	－	0.07	－	396-3
20	A層	LP54・55	－	7.0	－	－	396-4
21	A層	LP54・55	－	7.0	－	－	396-5
22	A層	LR54	10.0	－	0.17	－	529
23	A層	LT54・55	12.0	－	0.08	－	355
24	A層	MC54・55	10.0	－	0.08	－	250
25	A層	MC54・55	13.0	－	0.13	－	292
26	A層	MD53	12.0	－	0.13	－	061-1
27	A層	MD53・54	－	7.0	－	－	351
28	A層	MD53・54	12.0	－	0.15	－	081-1
29	A層	MD53・54	－	4.4	－	－	081-3
30	A層	MD53・54	－	5.0	－	－	081-4
31	A層	MD53・54	－	5.0	－	－	081-5
32	A層	MD53・54	－	6.0	－	－	081-6
33	A層	MD54・55	－	6.0	－	－	333-1
34	A層	MD54・55	11.0	－	0.08	－	333-2
35	A層	MD54・55	10.0	－	0.04	－	333-4
36	A層	ME53	－	6.0	－	－	052
37	A層	ME53・54	－	5.0	－	－	593-1
38	A層	ME53・54	－	6.0	－	－	593-2
39	A層	ME53・54	－	6.0	－	－	593-3
40	A層	ME53・54	9.0	－	0.17	－	593-4
41	A層	ME53・54	－	7.0	－	－	082
42	A層	ME54	15.0	7.0	0.03	－	017
43	A層	MF・MG55	－	7.0	－	－	089
44	A層	MF53	12.0	－	0.04	－	144
45	A層	LK52	－	4.4	－	19	631
46	A層	LN54	12.6	4.4	0.83	16	459
47	A層	LN54	12.0	4.7	0.50	17	459
48	A層	LP54・55	13.0	－	0.29	18	397
49	A層	LP54・55	－	5.0	－	－	396
50	A層	LS54	12.2	－	0.33	15	525
51	A層	MD53・54	－	5.6	－	13	081
52	A層	ME53	－	6.3	－	20	052
53	A層	ME53・54・MF53・54	13.6	－	0.38	14	689
54	B層	LL53	13.0	－	0.09	－	493
55	A層	LN53	14.0	－	0.08	－	424-1
56	A層	LN53	14.0	－	0.05	－	424-5
57	B層	LP54・55	14.0	－	0.42	－	416
58	B層	LP54・55	12.0	－	0.08	－	431
59	B層	LQ54・55	14.0	－	0.08	－	430-1
60	B層	LQ54・55	12.0	－	0.08	－	430-2
61	B層	LQ54・55	14.0	－	0.04	－	430-3
62	B層	LS54	－	6.0	－	－	550
63	B層	MB54・55	14.0	－	0.09	－	294-1
64	B層	MC・MD53	13.0	－	0.08	－	388-1
65	B層	MC・MD53	12.0	－	0.08	－	388-2
66	B層	MC・MD53	14.0	－	0.08	－	388-3
67	B層	MC・MD53	13.0	－	0.08	－	388-4
68	B層	MC・MD53	12.0	6.0	0.13	－	388-9
69	B層	MC・MD53	13.0	6.0	0.13	－	388-10
70	B層	MC・MD54	－	6.0	－	－	370
71	B層	MC・MD54	13.0	－	0.06	－	368
72	B層	MC54・55	16.0	－	0.04	－	699-1
73	B層	MD54	16.0	－	0.13	－	582-1
74	B層	MD54	14.0	－	0.06	－	582-2
75	B層	MD54	13.0	－	0.09	－	369-1
76	B層	MD54	13.0	－	0.06	－	369-2
77	B層	MD54	14.0	－	0.03	－	369-3
78	B層	MD54	12.0	－	0.07	－	369-4
79	B層	MD54	14.0	－	0.03	－	369-5
80	B層	MD54	13.0	－	0.03	－	369-6
81	B層	MD54	14.0	－	0.04	－	369-7
82	B層	ME53	15.0	7.0	0.13	－	161-1
83	B層	ME53	16.0	－	0.13	－	161-2
84	B層	ME53	17.0	－	0.07	－	161-3
85	B層	ME53	－	7.6	－	－	161-4
86	B層	ME53	16.0	－	0.03	－	176
87	B層	ME53	13.0	－	0.08	－	180
88	B層	ME53	13.0	－	0.04	－	150
89	B層	ME53	12.0	－	0.13	－	175
90	B層	ME53・54	11.0	－	0.08	－	674
91	B層	ME53・54	14.0	－	0.14	－	691-1
92	B層	ME53・54	16.0	－	0.08	－	691-2
93	B層	ME53・54	16.0	－	0.04	－	691-3
94	B層	ME53・54	15.0	－	0.05	－	691-4
95	B層	ME53・54	－	8.0	－	－	691-7
96	B層	ME54	13.0	－	0.13	－	591
97	B層	ME54	12.0	－	0.13	－	594
98	B層	ME54	－	6.0	－	－	596
99	B層	LM53	12.3	5.4	0.54	42	487
100	B層	LN54	13.9	5.8	0.83	37	463
101	B層	MB54・55	14.2	6.0	0.13	41	294
102	B層	MC・MD53	－	5.6	－	－	388
103	B層	MD54	－	5.2	－	39	369
104	B層	MD54	－	5.0	－	40	369
105	B層	ME53	14.0	－	0.67	36	152
106	B層	ME54	13.6	5.4	0.58	38	590
107	B層	MM51	－	5.6	－	－	488
108	C層	MD53	16.0	－	0.04	－	475
109	C層	MD53・54	13.0	－	0.21	－	402
110	C層	MD53・54	16.0	－	0.175	－	403-1
111	C層	MD53・54	14.0	－	0.1	－	403-2
112	C層	MD53・54	13.0	－	0.1	－	403-3
113	C層	MD53・54	14.0	－	0.1	－	403-4
114	C層	MD53・54	13.0	－	0.1	－	403-5
115	C層	MD53・54	14.0	－	0.1	－	403-6
116	C層	MD53・54	13.0	－	0.0	－	403-7
117	C層	MD53・54	13.0	－	0.1	－	403-9
118	C層	MD53・54	－	6.0	－	－	403-10
119	C層	MD53・54	－	6.0	－	－	403-11
120	C層	MD53・54	13.5	6.6	0.3	47	394

第22表　ＳＤ01出土赤褐色土器（坏）法量一覧（２）

No.	出土層位	グリッド	口径(cm)	底径(cm)	個体数	遺物No.	取上No.
121	C層	ME53	－	5.6	－	46	168
122	D層	LK52	12.0	－	0.08	－	633
123	D層	LK52	14.0	－	0.10	－	666
124	D層	LP54・55	13.0	－	0.09	－	450
125	D層	LK54・55・LL54・55	12.0	－	0.19	－	557-1
126	D層	LK54・55・LL54・55	13.0	－	0.05	－	557-2
127	D層	MC・MD54	12.0	－	0.17	－	373-1
128	D層	MC・MD54	12.0	－	0.16	－	373-2
129	D層	MC・MD54	14.0	－	0.04	－	373-3
130	D層	MC・MD54	12.0	－	0.10	－	372
131	D層	MC・MD54	10.0	－	0.10	－	461
132	D層	MC54	13.0	－	0.13	－	404
133	D層	MD53	14.0	－	0.29	－	419-1
134	D層	MD53	14.0	－	0.10	－	419-2
135	D層	MD53	14.0	－	0.18	－	419-3
136	D層	MD53	11.0	－	0.08	－	419-4
137	D層	MD53	11.0	－	0.07	－	419-5
138	D層	MD53	12.0	－	0.24	－	418-1
139	D層	MD53	14.0	－	0.11	－	418-2
140	D層	MD53	12.0	－	0.10	－	418-3
141	D層	MD53・54	12.0	－	0.05	－	609
142	D層	MD54	13.0	－	0.13	－	427-1
143	D層	MD54	14.0	－	0.13	－	427-2
144	D層	MD54	14.0	－	0.05	－	427-3
145	D層	MD54	14.0	－	0.04	－	427-4
146	D層	MD54	13.0	－	0.16	－	427-5
147	D層	MD54	14.0	－	0.05	－	427-6
148	D層	MD54	－	6.4	－	－	427-8
149	D層	MD54	－	6.0	－	－	480
150	D層	MD54	13.0	－	0.11	－	597-2
151	D層	MD54	12.0	－	0.06	－	597-3
152	D層	MD54	12.0	－	0.13	－	462
153	D層	MD54	－	6.0	－	－	421
154	D層	MD54	14.0	－	0.13	－	589-1
155	D層	MD54	14.0	－	0.11	－	589-2
156	D層	MD54	13.0	－	0.13	－	589-3
157	D層	MD54	13.0	－	0.07	－	589-4
158	D層	MD54	13.0	－	0.04	－	589-5
159	D層	MD54	14.0	－	0.03	－	589-6
160	D層	MD54	－	6.0	－	－	589-8
161	D層	MD54	－	6.0	－	－	377-2
162	D層	MD54	14.0	－	0.09	－	598-1
163	D層	MD54	14.0	－	0.08	－	598-2
164	D層	MD54	14.0	－	0.10	－	598-3
165	D層	MD54	13.0	－	0.08	－	598-4
166	D層	MD54	14.0	－	0.07	－	598-5
167	D層	MD54	12.0	－	0.10	－	598-6
168	D層	MD54	13.0	－	0.08	－	598-7
169	D層	MD54	12.0	－	0.08	－	598-8
170	D層	MD54	14.0	－	0.04	－	598-9
171	D層	MD54	－	6.0	－	－	598-11
172	D層	ME53	16.0	－	0.13	－	211-1
173	D層	ME53	16.0	－	0.08	－	211-2
174	D層	ME53	15.6	－	0.04	－	211-3
175	D層	ME53	－	6.0	－	－	211-4
176	D層	ME53	11.0	－	0.07	－	195-1
177	D層	ME53	14.0	－	0.08	－	230-1
178	D層	ME53	12.0	－	0.13	－	230-2
179	D層	ME53	－	5.6	－	－	230-3
180	D層	ME53	14.0	－	0.15	－	170
181	D層	ME53	－	6.0	－	－	166
182	D層	ME53・54	12.0	－	0.08	－	692-1
183	D層	ME53・54	－	6.0	－	－	692-2
184	D層	ME53・54	13.0	－	0.16	－	630-1
185	D層	ME53・54	13.0	－	0.17	－	630-2
186	D層	ME53・54	13.0	－	0.16	－	630-3
187	D層	ME53・54	12.0	－	0.06	－	630-4
188	D層	ME53・54	13.0	－	0.09	－	630-5
189	D層	ME53・54	12.0	－	0.04	－	630-6
190	D層	ME53・54	12.0	－	0.08	－	630-7
191	D層	ME53・54	13.0	－	0.07	－	630-8
192	D層	ME53・54	13.0	－	0.08	－	630-9
193	D層	ME53・54	12.0	－	0.08	－	630-10
194	D層	ME53・54	12.0	－	0.08	－	630-11
195	D層	ME53・54	－	7.0	－	－	630-13
196	D層	ME53・54	－	6.0	－	－	630-14
197	D層	ME53・54	－	6.0	－	－	630-15
198	D層	ME54	13.0	－	0.05	－	592
199	D層	ME54	14.0	－	0.23	－	596-1
200	D層	ME54	12.0	－	0.13	－	596-2
201	D層	ME54	12.0	－	0.16	－	596-3
202	D層	ME54	15.0	－	0.08	－	596-4
203	D層	ME54	13.0	－	0.08	－	596-5
204	D層	ME54	12.0	－	0.13	－	596-6
205	D層	ME54	12.0	－	0.09	－	596-8
206	D層	ME54	14.0	－	0.07	－	596-9
207	D層	ME54	－	5.8	－	－	596-12
208	D層	MF53	13.0	－	0.16	－	167
209	D層	MF53	16.0	－	0.11	－	194-1
210	D層	MF53	14.0	－	0.13	－	194-2
211	D層	MF53	12.0	－	0.09	－	194-3
212	D層	MF53	14.0	－	0.09	－	194-4
213	D層	MC54	－	5.4	－	57	677
214	D層	MC54	11.0	5.2	0.33	58	404
215	D層	MC54・54	10.0	4.8	0.63	59	461
216	D層	MD54	13.0	6.3	0.50	52	377
217	D層	MD54	－	6.0	－	53	589
218	D層	ME53	11.6	6.6	0.08	55	171
219	D層	ME54	－	6.2	－	54	596
220	D層	MF53	－	6.2	－	56	193

※　口縁部・底部が残存する赤褐色土器（坏）の法量一覧である。
※　計測不能の小片は集計の対象外とした。
※　口縁部計測法（宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集）により個体数を算出した。

第23表　ＳＤ01Ａ層・Ｓ１01出土鉄滓法量一覧（１）

No.	遺構名	グリッド	長辺(cm)	短辺(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	磁着	備考	取上No.
1	SD01	LQ54-55	3.3	2.2	2.1	11	△		379
2	SD01	LQ54-55	3.3	2.3	2.0	16	○		400
3	SD01	LR54	2.3	1.6	1.3	2	×		527
4	SD01	LR54	2.0	0.9	0.4	2	△		528
5	SD01	LR54	2.6	2.0	1.3	8	×		530
6	SD01	LS54-55	5.0	3.9	1.4	22	×		518
7	SD01	LS54-55	1.8	1.3	1.0	2	○		533
8	SD01	LT54-55	7.3	4.2	3.3	116	×		355-1
9	SD01	LT54-55	6.4	5.2	2.0	65	×		355-2
10	SD01	LT54-55	5.3	4.2	1.5	35	×		355-3
11	SD01	MA54-55	2.4	1.8	1.0	4	○		353
12	SD01	MA54-55	14.2	6.2	5.5	674	×		354-1
13	SD01	MA54-55	6.4	5.1	3.0	115	×		354-2
14	SD01	MA54-55	4.8	3.6	3.1	104	×		354-3
15	SD01	MA54-55	6.7	5.0	2.9	139	×		354-4
16	SD01	MA54-55	4.7	3.0	2.2	25	×		354-5
17	SD01	MA54-55	5.3	3.4	2.3	46	×		354-6
18	SD01	MA54-55	2.9	2.7	2.5	17	×		354-7
19	SD01	MA54-55	4.1	4.0	2.5	41	×		354-8
20	SD01	MA54-55	4.1	2.2	2.0	22	×		354-9
21	SD01	MA54-55	3.6	2.8	1.6	26	×		354-10
22	SD01	MA54-55	4.6	3.9	2.1	39	△		354-11
23	SD01	MA54-55	7.0	4.3	2.6	93	△		354-12
24	SD01	MA54-55	9.2	9.0	4.8	472	△	椀形鍛冶滓	354-13
25	SD01	MA54-55	9.5	5.0	1.4	100	△		354-14
26	SD01	MB54-55	1.8	1.2	1.2	2	○		245-2
27	SD01	MB54-55	5.0	4.6	2.3	89	○		679
28	SD01	MB54-55	3.4	2.6	1.5	26	○		249-2
29	SD01	MB54-55	3.2	2.0	1.6	27	○		249-3
30	SD01	MB54-55	3.0	2.3	1.6	17	○		249-4
31	SD01	MB54-55	9.2	5.9	1.6	27	○		249-5
32	SD01	MB54-55	2.7	2.0	1.7	9	△		249-6
33	SD01	MB54-55	2.6	2.0	1.5	11	△		249-7
34	SD01	MB54-55	8.3	5.2	1.7	92	△		249-8
35	SD01	MB54-55	6.8	6.0	3.5	213	△		249-9
36	SD01	MB54-55	7.0	5.3	1.7	94	×		249-10
37	SD01	MB54-55	8.3	5.9	1.7	88	×		249-11
38	SD01	MB54-55	5.2	3.2	1.7	28	×		249-12
39	SD01	MB54-55	5.2	2.2	1.1	21	×		249-13
40	SD01	MB54-55	2.9	2.1	1.9	15	○		269-2
41	SD01	MB54-55	3.4	1.9	1.8	18	○		269-3
42	SD01	MB54-55	4.3	2.7	1.4	116	△		269-4
43	SD01	MB54-55	6.3	6.2	1.8	149	×		269-5
44	SD01	MB54-55	4.6	4.1	1.1	24	×		269-6
45	SD01	MB54-55	11.3	7.1	1.7	132	×		269-7
46	SD01	MB54-55	6.0	4.9	1.2	38	×		269-8
47	SD01	MB54-55	3.0	3.0	2.2	35	×		269-9
48	SD01	MB54-55	5.0	2.8	1.6	26	×		269-10
49	SD01	MB54-55	5.4	2.8	1.2	29	×		269-11
50	SD01	MB54-55	3.4	2.8	0.9	21	×		269-12
51	SD01	MB54-55	3.1	2.7	1.2	16	×		269-13
52	SD01	MB54-55	4.0	2.2	1.7	19	×		269-14
53	SD01	MB54-55	3.5	2.1	0.8	10	×		269-15
54	SD01	MB54-55	3.6	2.0	1.6	23	○		253-1
55	SD01	MB54-55	5.5	2.0	1.3	24	○		253-2
56	SD01	MB54-55	3.0	2.9	1.7	13	○		253-3
57	SD01	MB54-55	3.2	2.0	1.7	14	○		253-4
58	SD01	MB54-55	3.9	2.3	1.5	18	○		253-5
59	SD01	MB54-55	7.1	5.3	3.4	189	△		253-7
60	SD01	MB54-55	4.6	4.4	3.3	103	△		253-8
61	SD01	MB54-55	5.6	4.1	2.4	78	△		253-9
62	SD01	MB54-55	4.8	4.6	3.4	95	△		253-10
63	SD01	MB54-55	4.5	2.8	1.2	26	△		253-11
64	SD01	MB54-55	9.1	6.4	3.6	185	×	椀形鍛冶滓	253-13
65	SD01	MB54-55	6.2	2.7	4.0	123	×		253-14
66	SD01	MB54-55	7.0	4.6	1.6	65	×		253-15
67	SD01	MB54-55	5.6	3.2	1.6	35	×		253-16
68	SD01	MB54-55	4.2	3.2	3.2	54	×		253-17
69	SD01	MB54-55	3.1	2.3	1.0	12	×		253-18
70	SD01	MB54-55	3.8	2.2	1.5	14	×		281-1
71	SD01	MB54-55	4.7	2.7	1.5	46	×		281-2
72	SD01	MB54-55	4.0	2.0	1.0	15	×		281-3
73	SD01	MB54-55	4.0	2.0	1.6	21	△		281-4
74	SD01	MB54-55	6.8	5.7	2.2	146	○		281-5
75	SD01	MB54-55	6.0	3.3	1.0	23	×		282-1
76	SD01	MB54-55	3.3	1.3	2.2	11	×		282-2
77	SD01	MB54-55	4.7	2.7	0.8	22	×		282-3
78	SD01	MB54-55	5.2	4.2	2.5	82	×		282-4
79	SD01	MB54-55	4.6	4.0	1.3	47	×		282-5
80	SD01	MB54-55	4.4	3.3	2.0	32	×		282-6
81	SD01	MB54-55	3.3	2.8	2.4	28	×		282-7
82	SD01	MB54-55	5.3	3.2	1.3	45	×		282-8
83	SD01	MB54-55	7.5	5.5	1.8	107	△		282-10
84	SD01	MB54-55	5.0	3.2	3.0	94	△		282-11
85	SD01	MB54-55	5.0	3.5	2.0	55	△		282-12
86	SD01	MB54-55	4.0	2.3	1.6	16	○		282-15
87	SD01	MB54-55	3.7	2.4	1.5	12	○		282-16
88	SD01	MB54-55	4.0	3.0	1.8	23	×		305
89	SD01	MB54-55	7.5	5.3	3.0	186	×	椀形鍛冶滓	306-1
90	SD01	MB54-55	7.0	4.0	2.7	68	×		306-2
91	SD01	MB54-55	3.3	2.4	2.0	15	×		306-3
92	SD01	MB54-55	8.4	6.0	2.5	179	△		306-4
93	SD01	MB54-55	3.5	2.5	1.5	14	△		306-5
94	SD01	MB54-55	2.7	2.0	1.5	12	×		306-7
95	SD01	MB54-55	2.5	1.8	1.5	5	×		290-2
96	SD01	MB54-55	4.7	4.0	2.0	52	△		290-3
97	SD01	MB54-55	3.2	2.3	1.1	8	○		291-3
98	SD01	MB54-55	10.0	7.7	3.7	277	×	椀形鍛冶滓	593-1
99	SD01	MB54-55	8.4	7.3	2.3	161	×	椀形鍛冶滓	593-2
100	SD01	MB54-55	8.6	4.3	1.7	77	×		593-3
101	SD01	MB54-55	6.0	4.0	1.6	40	×		678
102	SD01	MB55	2.1	1.6	0.6	2	△		042
103	SD01	MC・MD54	5.5	4.0	3.8	80	×		334-1
104	SD01	MC・MD54	5.3	2.6	2.0	16	×		334-2
105	SD01	MC・MD54	3.5	2.0	1.0	11	×		334-3
106	SD01	MC・MD54	4.3	2.6	1.4	16	△		334-5
107	SD01	MC・MD64	3.3	2.2	1.2	4	×		368-1
108	SD01	MC・MD64	2.1	1.7	1.1	3	△		368-2
109	SD01	MC53-54	8.5	6.3	2.7	245	×	椀形鍛冶滓	356-1
110	SD01	MC53-54	4.9	2.9	2.3	21	×		356-2
111	SD01	MC53-54	2.8	2.4	1.4	14	×		356-3
112	SD01	MC53-54	6.4	3.2	2.4	57	×		356-4
113	SD01	MC53-54	3.7	2.6	1.4	21	×		356-5
114	SD01	MC53-54	3.3	2.4	0.6	19	×		356-6
115	SD01	MC53-54	2.7	1.7	1.5	11	×		356-7
116	SD01	MC53-54	3.2	2.7	1.6	17	×		356-8
117	SD01	MC53-54	11.5	7.1	4.6	453	△	椀形鍛冶滓	356-10
118	SD01	MC53-54	5.7	3.6	3.7	126	△		356-11
119	SD01	MC53-54	5.8	3.5	1.7	42	△		356-12
120	SD01	MC53-54	3.3	2.6	1.7	26	△		356-13
121	SD01	MC53-54	3.0	2.0	1.4	12	△		356-14
122	SD01	MC53-54	3.6	2.0	1.2	15	○		356-15
123	SD01	MC54	6.8	5.8	2.2	122	×		065
124	SD01	MC54	5.8	4.8	2.5	83	○		044-1
125	SD01	MC54	3.3	2.1	1.9	16	○		044-2
126	SD01	MC54	3.6	1.9	1.3	12	○		044-3
127	SD01	MC54	3.4	1.4	1.2	11	△		044-5
128	SD01	MC54	7.8	5.2	3.4	193	×		044-6
129	SD01	MC54	5.7	4.5	2.9	86	×		044-7
130	SD01	MC54	4.6	4.3	2.5	49	×		044-8
131	SD01	MC54	3.3	2.8	1.7	22	×		044-10
132	SD01	MC54	5.3	4.0	1.7	48	×		682
133	SD01	MC54-55	6.2	4.4	1.5	77	○		250-1
134	SD01	MC54-55	4.8	2.7	2.2	38	○		250-2
135	SD01	MC54-55	3.2	2.6	1.6	14	○		250-3
136	SD01	MC54-55	3.0	1.9	1.9	13	○		250-4
137	SD01	MC54-55	2.4	2.0	1.3	10	○		250-5
138	SD01	MC54-55	2.5	1.9	1.4	11	○		250-6
139	SD01	MC54-55	7.0	3.9	2.0	72	△		250-8
140	SD01	MC54-55	3.0	2.1	0.8	8	△		250-9

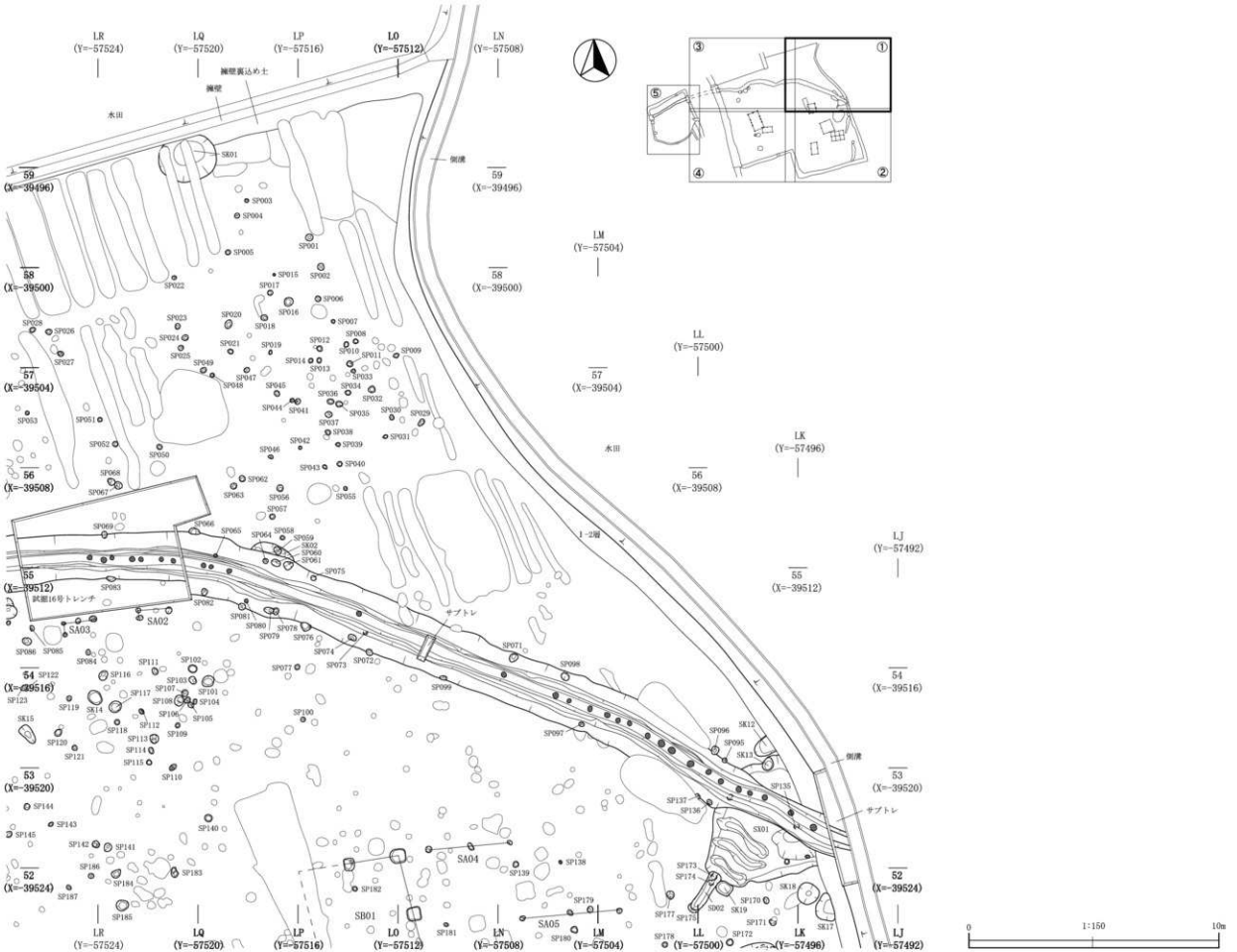
第24表　ＳＤ01Ａ層・ＳＩ01出土鉄滓法量一覧（２）

No.	遺構名	グリッド	長辺(cm)	短辺(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	磁着	備考	取上No.
141	SD01	WC54・55	3.7	3.0	1.4	22	×		259-11
142	SD01	WC54・55	6.2	4.7	1.6	78	×		259-12
143	SD01	WC54・55	6.2	2.5	1.8	41	×		259-13
144	SD01	WC54・55	2.6	1.7	1.4	10	○		254-2
145	SD01	WC54・55	3.2	1.7	1.7	10	○		254-3
146	SD01	WC54・55	2.3	2.3	0.9	10	○		254-4
147	SD01	WC54・55	4.0	3.4	1.1	26	○		254-5
148	SD01	WC54・55	3.7	3.0	2.3	41	○		254-6
149	SD01	WC54・55	4.7	3.3	1.9	47	○		254-7
150	SD01	WC54・55	4.6	4.4	2.1	60	○		254-8
151	SD01	WC54・55	3.0	2.5	1.8	15	△		254-9
152	SD01	WC54・55	2.8	2.5	1.7	23	△		254-10
153	SD01	WC54・55	4.3	2.1	1.1	16	△		254-11
154	SD01	WC54・55	9.3	3.0	1.0	50	△		254-12
155	SD01	WC54・55	7.2	3.0	2.0	68	△		254-13
156	SD01	WC54・55	5.8	3.0	2.6	69	△		254-14
157	SD01	WC54・55	4.2	3.5	1.5	39	×		254-16
158	SD01	WC54・55	5.0	2.7	1.7	44	×		254-17
159	SD01	WC54・55	4.2	3.0	1.0	17	×		254-18
160	SD01	WC54・55	4.0	2.2	1.5	21	×		254-19
161	SD01	WC54・55	3.3	2.0	1.2	12	×		254-20
162	SD01	WC54・55	3.0	2.8	2.3	16	×		254-21
163	SD01	WC54・55	3.1	2.7	1.2	17	×		254-22
164	SD01	WC54・55	4.2	2.3	1.3	14	×		254-23
165	SD01	WC54・55	2.8	2.5	1.5	14	×		254-24
166	SD01	WC54・55	3.0	2.7	1.2	15	×		254-25
167	SD01	WC54・55	2.8	2.2	1.0	10	×		254-26
168	SD01	WC54・55	7.5	7.0	1.8	100	×		283-1
169	SD01	WC54・55	6.8	4.5	3.0	44	×		283-2
170	SD01	WC54・55	6.0	4.5	2.2	60	×		283-3
171	SD01	WC54・55	4.6	3.2	2.0	29	×		283-4
172	SD01	WC54・55	2.5	2.5	2.0	13	×		283-5
173	SD01	WC54・55	3.0	2.5	1.4	20	×		283-6
174	SD01	WC54・55	5.0	2.0	1.0	12	×		283-7
175	SD01	WC54・55	3.4	2.5	1.8	13	△		283-9
176	SD01	WC54・55	5.5	3.0	1.2	28	△		283-10
177	SD01	WC54・55	3.5	3.5	1.8	24	△		283-11
178	SD01	WC54・55	4.5	2.5	2.0	27	△		283-12
179	SD01	WC54・55	4.5	3.5	2.9	19	△		283-13
180	SD01	WC54・55	3.3	2.3	1.4	8	△		283-14
181	SD01	WC54・55	5.6	3.2	2.0	102	○		283-15
182	SD01	WC54・55	4.0	3.0	3.0	25	○		283-16
183	SD01	WC54・55	3.3	2.6	2.0	17	○		283-17
184	SD01	WC54・55	4.0	2.3	1.7	14	○		283-18
185	SD01	WC54・55	7.0	4.5	2.5	39	×		698-1
186	SD01	WC54・55	3.5	2.7	1.9	9	×		698-2
187	SD01	WC54・55	7.5	3.8	2.0	93	○		698-3
188	SD01	WC54・55	1.8	1.5	1.0	4	○		698-4
189	SD01	WC54・55	9.3	5.0	2.2	120	×		694-1
190	SD01	WC54・55	12.5	6.3	2.3	203	△		694-2
191	SD01	WC54・55	5.0	3.0	1.8	64	△		694-3
192	SD01	WD53	2.2	1.8	1.3	8	○		061-1
193	SD01	WD53	3.0	2.2	1.4	12	○		061-2
194	SD01	WD53・54	6.8	3.5	3.4	140	×		081-1
195	SD01	WD53・54	5.2	2.5	1.6	13	×		081-2
196	SD01	WD53・54	6.5	5.0	2.3	87	×		351-1
197	SD01	WD53・54	6.0	3.0	2.0	45	×		351-2
198	SD01	WD53・54	5.5	3.2	2.3	57	△		351-3
199	SD01	WD53・54	8.5	5.0	3.7	214	△		351-4
200	SD01	WD54	11.0	7.5	2.4	210	×	椀形鍛冶滓	338-1
201	SD01	WD54	3.0	2.3	1.4	8	○		338-2
202	SD01	WD54	11.5	6.8	3.5	325	△	椀形鍛冶滓	339
203	SD01	WD54	11.8	6.5	3.5	260	△		340
204	SD01	WD54	8.2	5.8	5.5	296	△		341
205	SD01	WD54	9.2	7.4	2.1	144	×		581-1
206	SD01	WD54	6.6	5.7	3.3	136	△		581-2
207	SD01	WD54	8.5	6.5	3.4	182	△	椀形鍛冶滓	581-3
208	SD01	WD54	5.4	3.9	1.9	67	○		581-4
209	SD01	WD54・55	3.0	2.0	1.2	6	×		333
210	SD01	WD53	10.5	7.0	1.8	207	△		124
211	SD01	WD53・54	8.4	6.8	2.7	214	×	椀形鍛冶滓	082-1
212	SD01	WD53・54	7.3	3.5	2.8	69	×		082-2
213	SD01	WD53・54	4.8	3.5	2.0	47	×		587-1
214	SD01	WD53・54	4.7	4.1	2.1	48	×		587-2
215	SD01	WF・WG55	4.7	3.4	1.8	31	×		089-2
216	SD01	WF53	2.4	2.0	1.2	11	○		194
217	SD01	WF53	3.8	2.3	1.2	14	○		053-1
218	SD01	WF53	7.0	5.7	1.7	105	○		053-2
219	SD01	WF53	7.0	5.1	2.7	112	△		053-3
220	SD01	WF53	4.8	3.1	2.1	18	×		053-4
221	SD01	WF53	5.6	3.5	2.7	56	×		144-2
222	SD01	WF53	4.1	3.3	2.1	43	×		144-3
223	SD01	WF53	2.1	1.5	1.3	4	×		144-4
224	SD01	WG53	3.3	2.0	1.9	15	○		145-1
225	SD01	WG53	1.9	1.2	0.8	2	○		145-2
226	SD01	WG53	4.3	3.7	2.4	49	△		146-2
227	SD01	WG53	1.7	1.3	0.8	4	△		146-3
228	SD01	WG53	10.6	7.1	4.3	308	×	椀形鍛冶滓	146-4
229	SD01	WG53	10.0	7.0	2.2	196	×	椀形鍛冶滓	146-5
230	SD01	WG53	5.4	4.0	1.5	63	×		146-7
231	SD01	WG53	3.9	2.6	1.6	12	×		146-8
232	SD01	WG53	3.0	2.6	2.0	6	×		146-9
233	SD01	WG53	3.0	2.0	1.6	11	×		146-10
234	SD01	WG53	4.8	2.9	1.3	35	×		146-11
235	SD01	WG53	4.2	3.4	1.0	18	×		146-12
236	SD01	WG53	4.0	1.8	1.8	13	×		146-13
237	SD01	WG53・54	9.0	6.3	0.6	80	△		693-1
238	SD01	WG53・54	4.0	2.5	0.9	12	○		693-2
239	SD01	WG53・54	3.0	2.5	1.1	12	○		693-3
240	SD01	WN51	2.3	1.6	1.0	3	×		027
241	SD01	WP50	4.8	3.0	1.1	22	△		302
242	S101	LK50・51・LL50・51	5.5	4.0	1.4	40	○	1層	227-2
243	S101	LK50・51・LL50・51	1.6	1.1	1.5	2	○	1層	238
244	S101	LK50・51・LL50・51	4.0	3.8	2.1	27	×	1層	093
245	S101	LK50・51・LL50・51	3.1	2.8	1.4	7	×	1層	225
246	S101	LK50・51・LL50・51	4.4	3.2	1.2	10	×	1層	226
247	S101	LK50・51・LL50・51	8.4	6.7	2.1	140	×	1層 椀形鍛冶滓	228
248	S101	LK50・51・LL50・51	5.1	4.7	3.7	78	×	1層	237
249	S101	LK50・51・LL50・51	2.5	1.4	0.8	3	×	1層	259
250	S101	LK50・51・LL50・51	4.5	3.2	2.6	50	×	1層	260
251	S101	LK50・51・LL50・51	3.3	2.2	1.4	11	×	1層	272-1
252	S101	LL50	4.1	2.9	2.3	24	×	1層	236-1
253	S101	LL50	3.1	2.5	1.9	22	○	1層	236-3
254	S101	LK・LL50	6.1	4.4	3.0	85	×	2層	391-1
255	S101	LK・LL50	3.4	2.1	1.0	13	×	2層	391-2
256	S101	LK・LL50	3.6	1.7	1.0	12	×	2層	391-3
257	S101	LK・LL50	2.2	2.2	0.4	2	×	2層	391-4
258	S101	LK50	4.3	3.0	1.7	22	×	2層	392
259	S101	LK50・51・LL50・51	2.7	2.6	1.7	15	×	2層	344-1
260	S101	LL50	1.6	1.5	0.9	2	△	P21	472

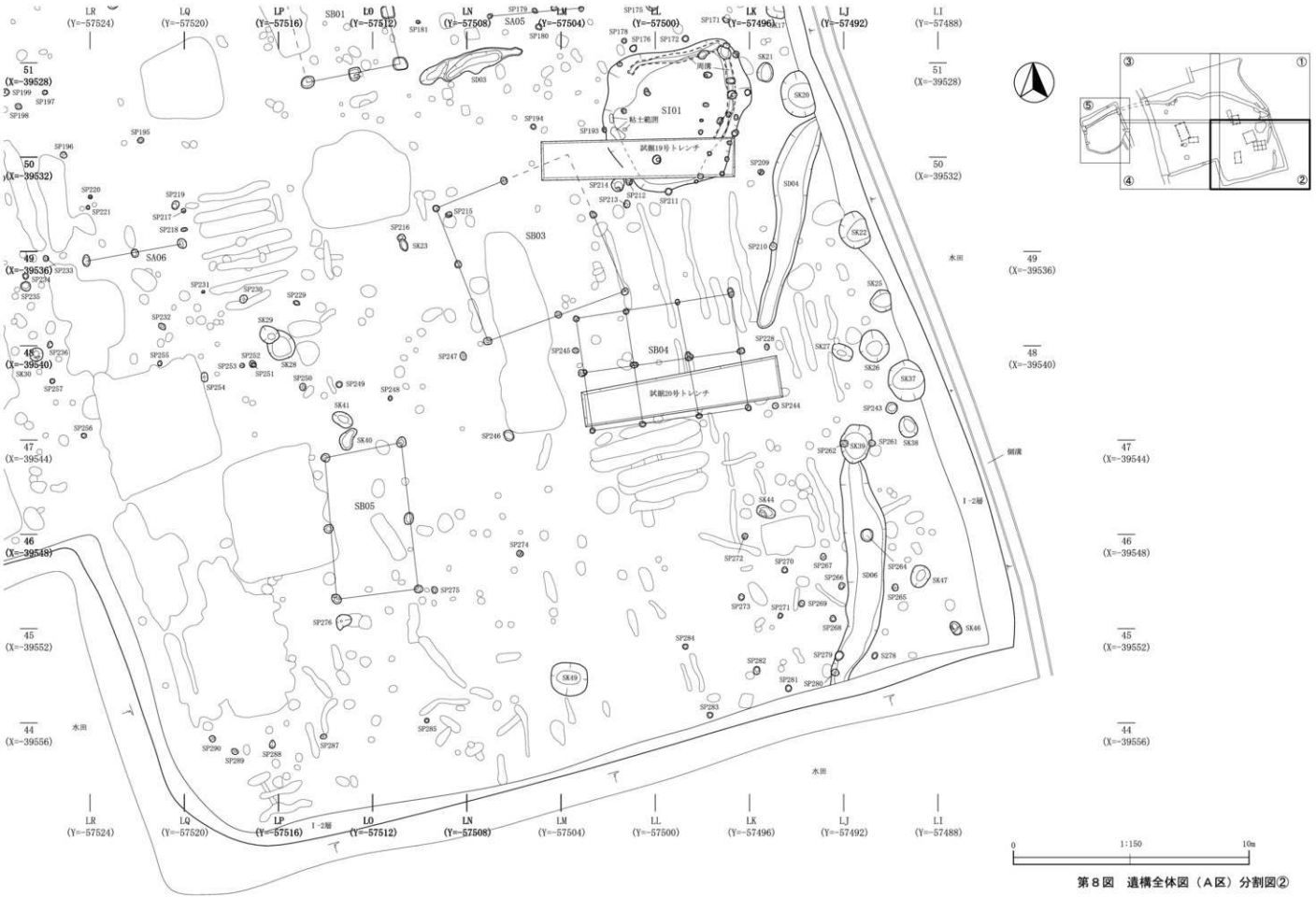
※　1ｇ未満の小片は計測対象外とした。
※　「磁着」は、以下の記号であらわした。
　○：あり
　△：ややあり
　×：なし

SA01・SD01
SK07
SK08
SK09
SB07
SA03
SA02
SA04
SA05
SX01
SD02
SB01
SD03
SI01
SD04
SB02
SD05
SB06
SA06
SB03
SB04
SB05
SD06
SA07
SA08
SD07
0
1:300
10m

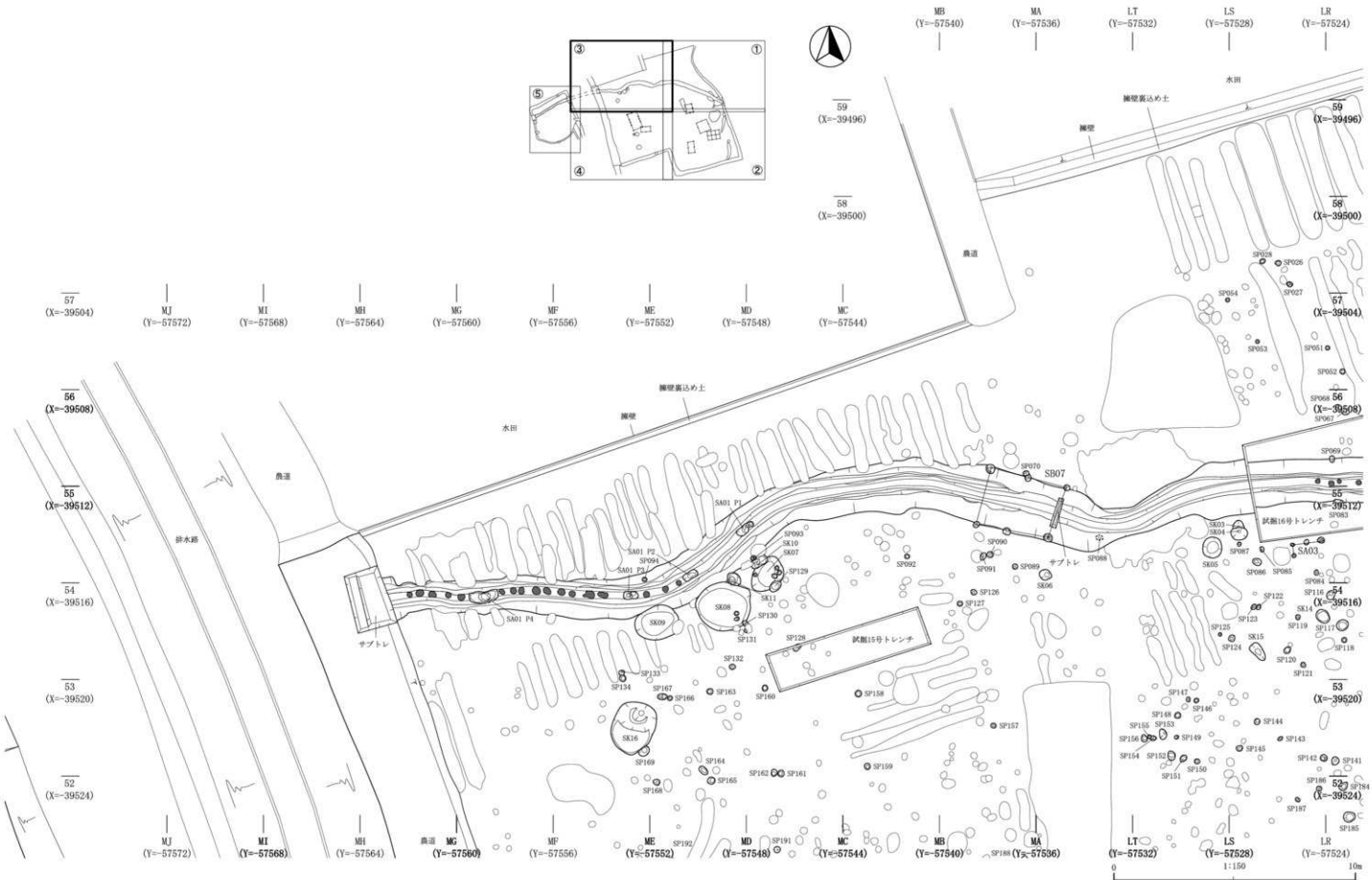
第６図　調査区全体図



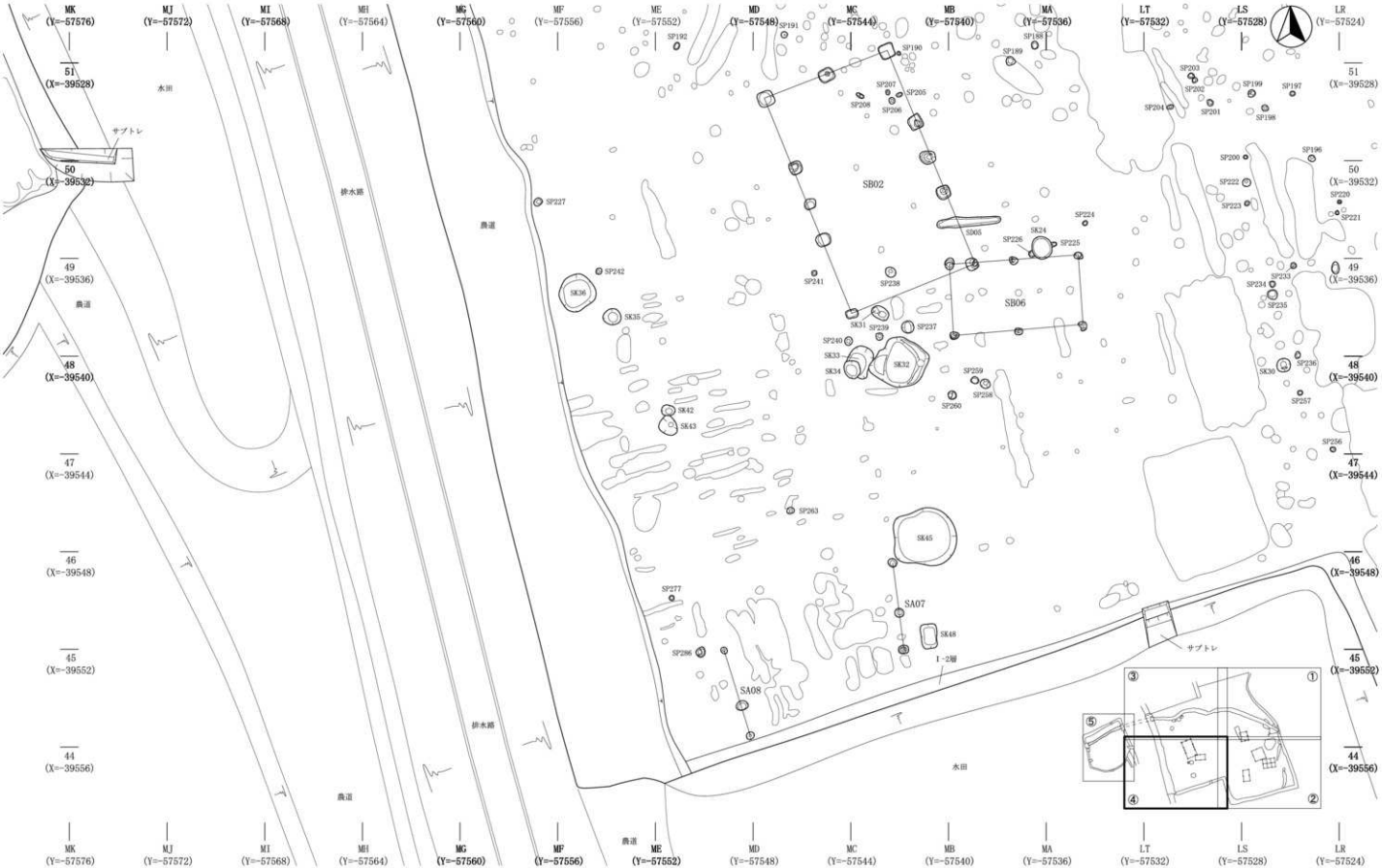
第７図　遺構全体図（Ａ区）分割図①



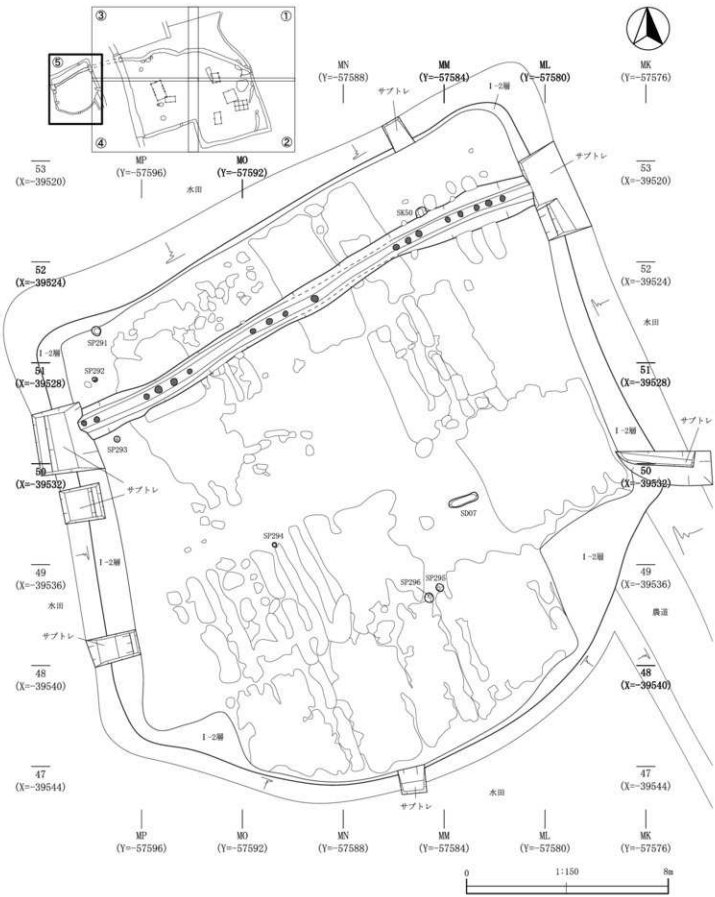
第８図　遺構全体図（Ａ区）分割図②



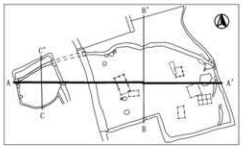
第９図　遺構全体図（Ａ区）分割図③



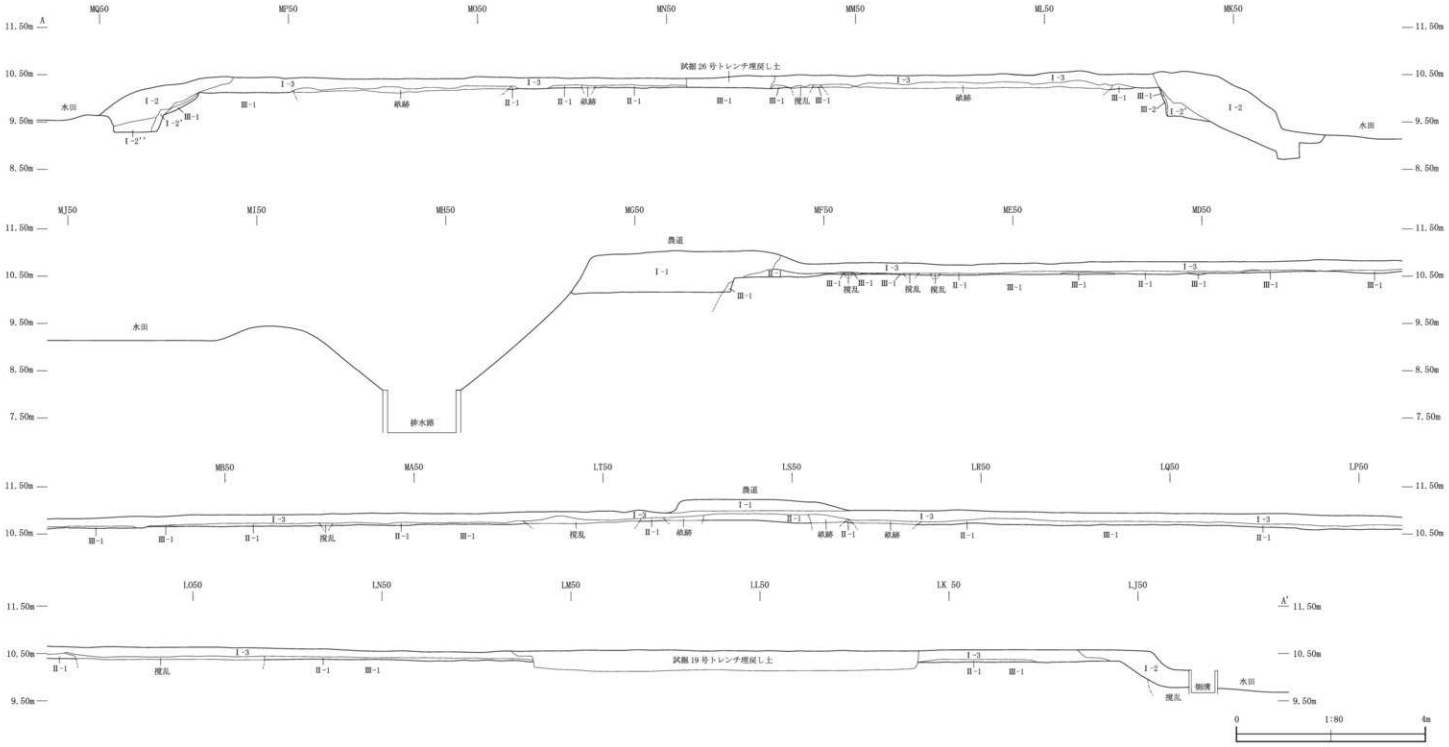
第 10 図　遺構全体図（Ａ区）分割図④



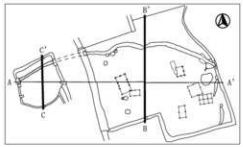
第 11 図　遺構全体図（Ｂ区）分割図⑤



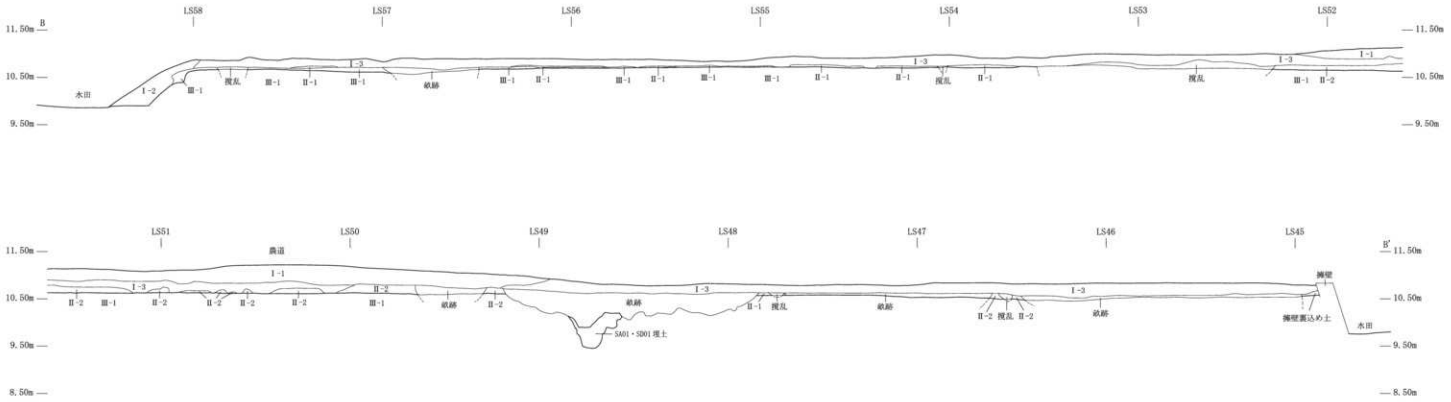
調査区Ａ・Ｂ区東西ベルト土層断面



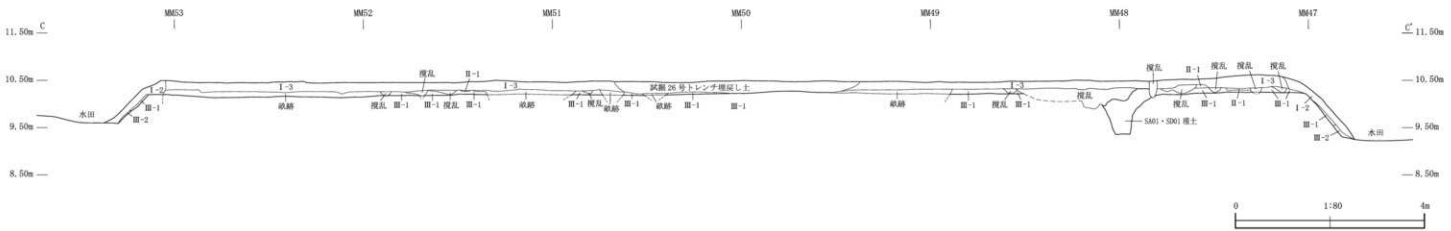
第 12 図　土層断面図（東西）



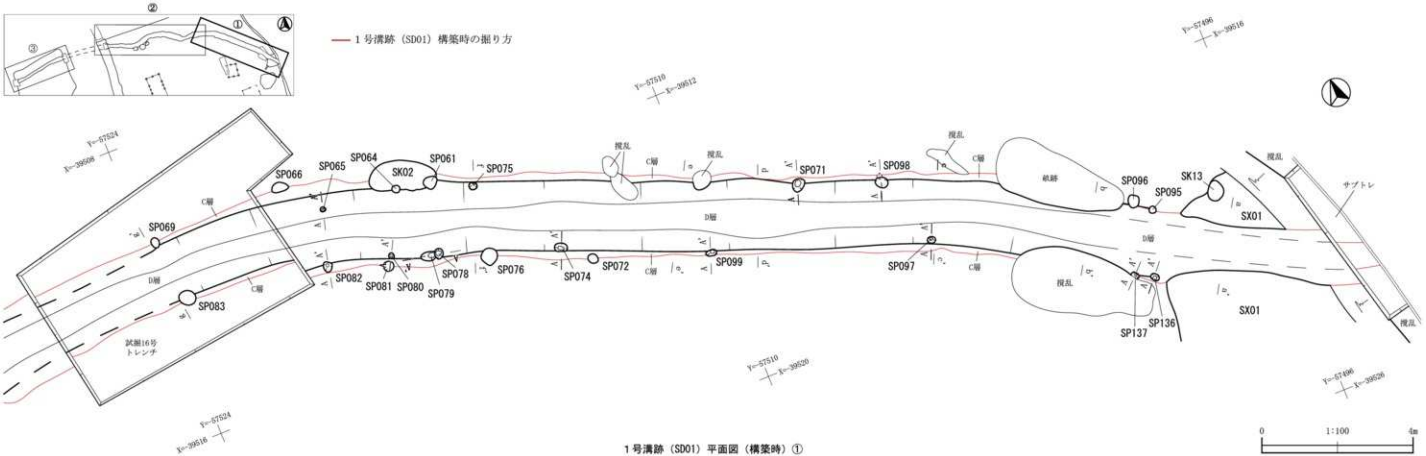
調査区Ａ区南北ベルト土層断面



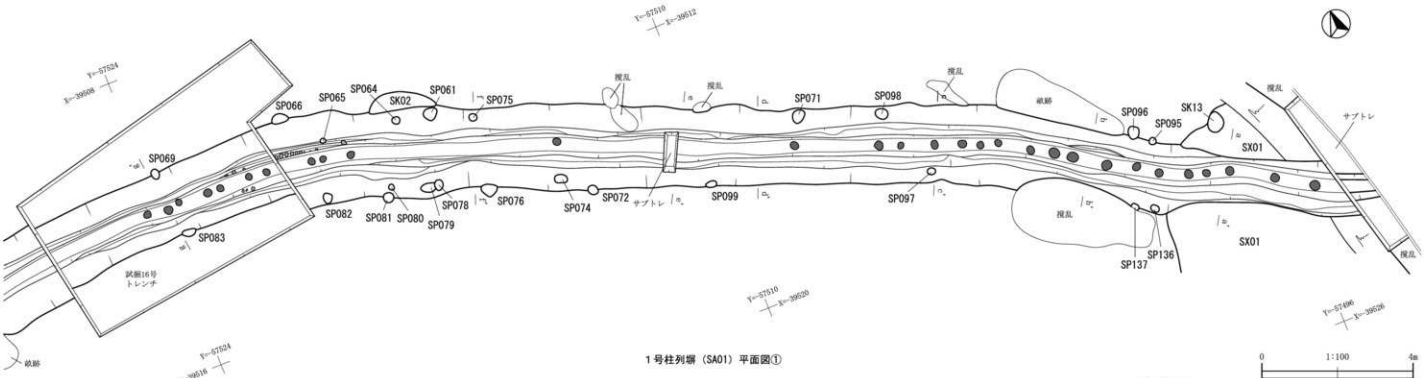
調査区Ｂ区南北ベルト土層断面



第 13 図　土層断面図（南北）

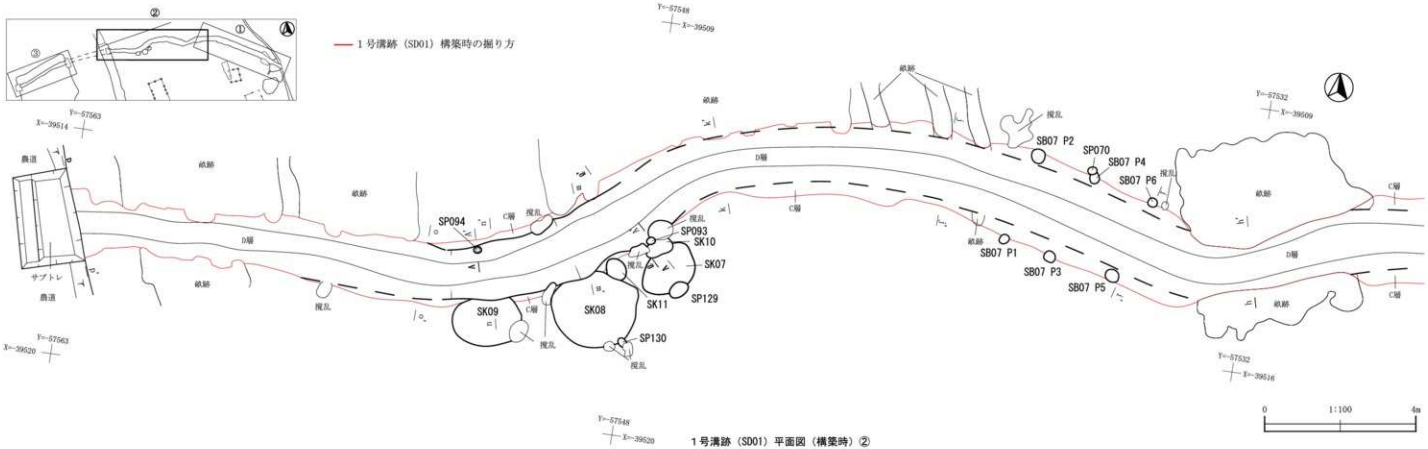


１号溝跡（SD01）平面図（構築時）①

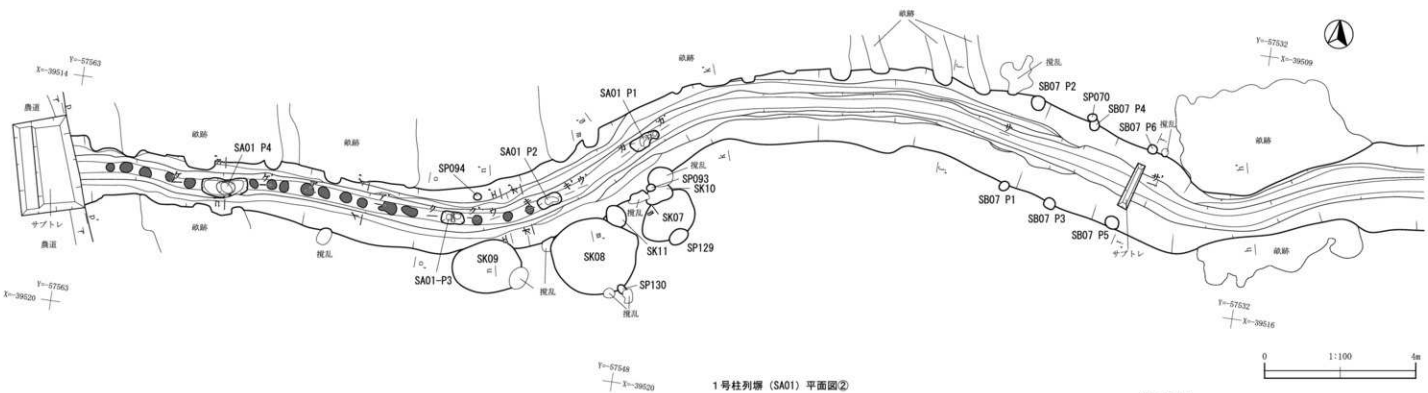


１号柱列塀（SA01）平面図①

第 14 図
１号柱列塀（ＳＡ01）・１号溝跡（ＳＤ01）平面図①

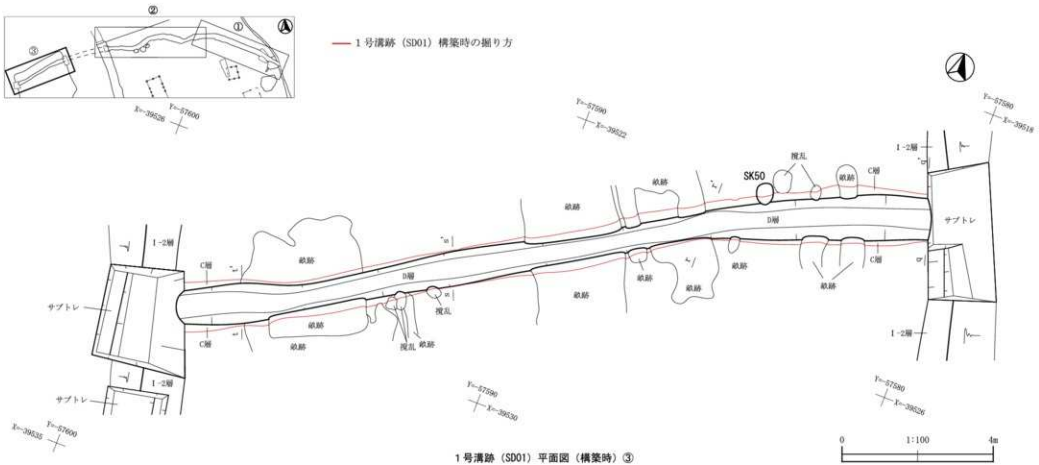


1号溝跡（SD01）平面図（構築時）②

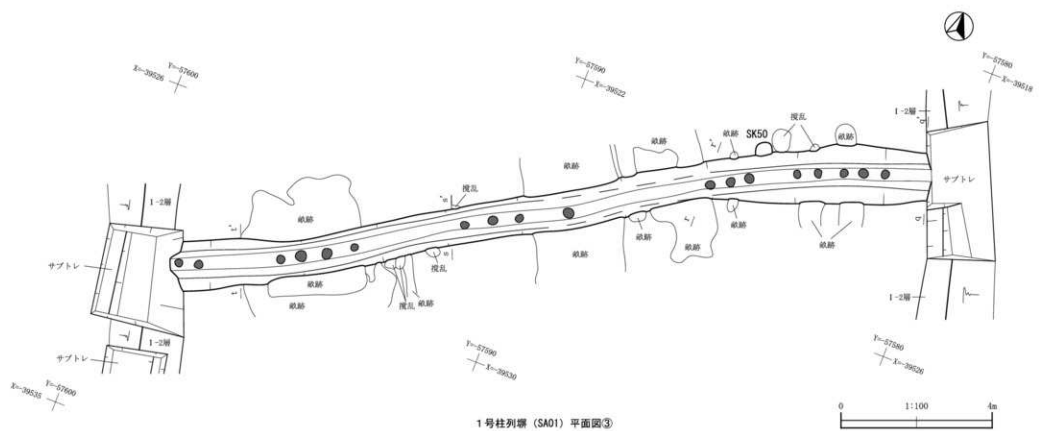


1号柱列塀（SA01）平面図②

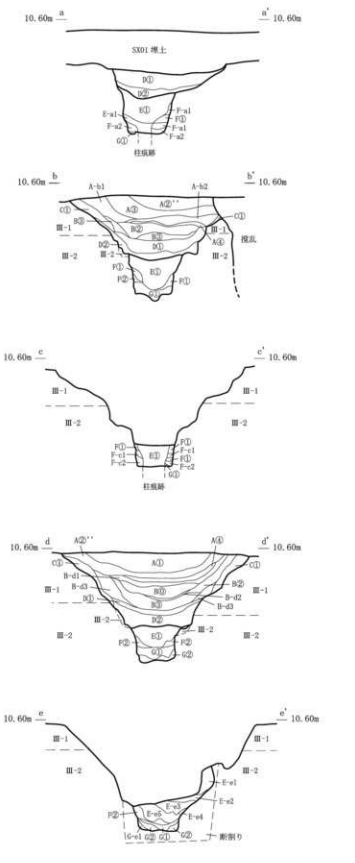
第 15 図
１号柱列塀（ＳＡ01）・１号溝跡（ＳＤ01）平面図②



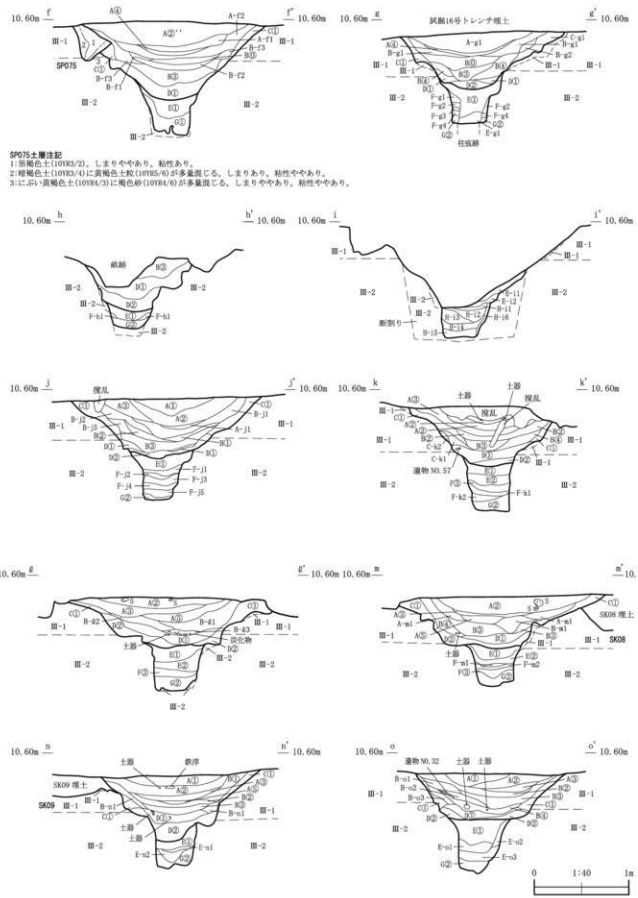
１号溝跡（SD01）平面図（構築時）③



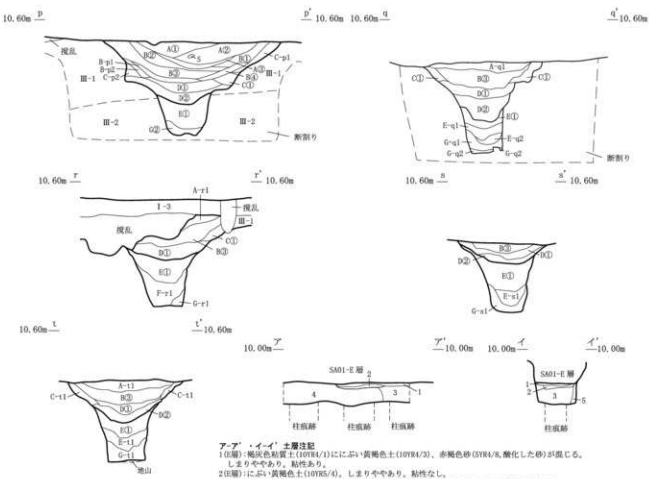
１号柱列塀（SA01）平面図③



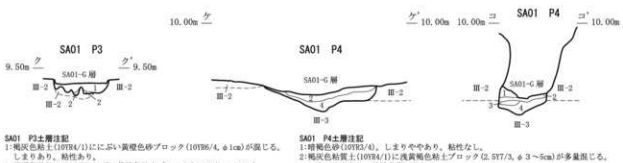
第 16 図
１号柱列塀（ＳＡ01）・１号溝跡（ＳＤ01）平面図・断面図



第 17 図　１号柱列塀（ＳＡ01）・１号溝跡（ＳＤ01）断面図①

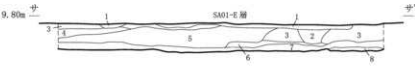


第 18 図　１号柱列塀（ＳＡ01）・１号溝跡（ＳＤ01）断面図②

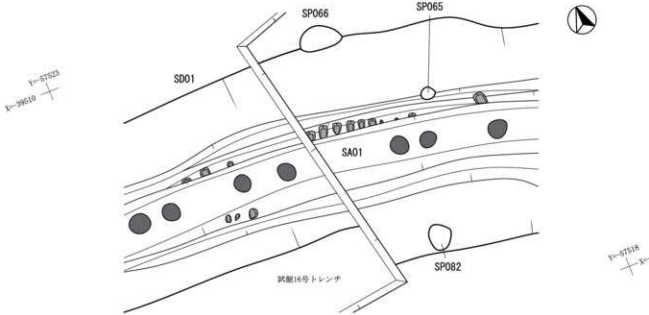


SA01 P3土層注記
1:暗灰色粘土(10TR4/1)ににぶい黄橙色砂ブロック(10YR6/4, φ1cm)が混じる。しまりあり。粘性あり。
2:明褐色砂(7.5YR5/8)ににぶい黄橙色粘土ブロック(10YR6/4, φ0.5cm)、暗灰色粘土ブロック(10YR5/1φ0.5cm)が混じる。しまりあり。粘性なし。

SA01 P4土層注記
1:暗褐色砂(10YR3/4)。しまりややあり。粘性なし。
2:暗灰色粘質土(10YR4/1)に浅黄橙色粘土ブロック(2.5Y7/3, φ3～5cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性非常にあり。
3:灰黄褐色砂(10YR5/2)。しまりなし。粘性なし。
4:暗褐色粘質土(10YR3/3)に浅黄色粘質土ブロック(2.5Y7/3, φ2～3cm)が混じる。しまりややあり。粘性あり。



サ-サ' 土層注記
1(Ⅱ-11層):黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。しまりややあり。粘性あり。
2(Ⅱ-12層):暗灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が多量に混じる。しまりややあり。粘性あり。
3(Ⅱ-13層):にぶい黄橙色砂(10YR6/4)に黄褐色砂(10YR5/6)、暗褐色粒子(10YR3/4, φ～0.5cm, 鉄分か)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
4(Ⅱ層):暗灰色土(10YR4/1)に灰黄褐色砂(10YR6/2)が混じる。しまりあり。粘性あり。
5(Ⅱ層):暗灰色砂質土(10YR5/1)に灰黄褐色砂(10YR6/2)が混じる。しまりあり。粘性ややあり。
6(Ⅱ層):暗灰色砂質土(10YR4/1)に灰黄褐色砂(10YR6/2)が混じる。しまりあり。粘性ややあり。
7(Ⅱ-14層):黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。しまりあり。粘性あり。
8(Ⅱ-15層):にぶい黄橙色砂(10YR7/4)に黄褐色砂(10YR5/6)、暗灰色粘土(10YR4/1)が少量混じる。しまりあり。粘性なし。



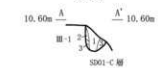
工具痕詳細図

SP065土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)。しまりあり。粘性ややあり。
2:暗色土(10YR4/4)に暗褐色土(10YR3/2)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SP071土層注記
1:暗色土(10YR4/4)に黄橙色土ブロック(10YR5/6, φ0.1～1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:暗色土(10YR4/6)に黄褐色土(10YR5/6)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

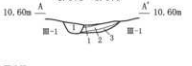
第 19 図　１号柱列塀（ＳＡ01）断面図・工具痕詳細図・ＳＰ065・071 断面図

SP074



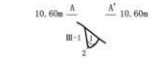
SP074土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)。しまりややあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6)が多量混じる。
　しまりややあり。粘性ややあり。
3:黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6)が少量混じる。
　しまりややあり。粘性ややあり。

SP078　SP079



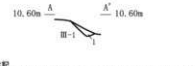
SP078土層注記
1:にぶい黄褐色土(10YR5/4)に暗褐色土(10YR3/3)が多量。
　赤褐色ブロック(5YR4/6)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
SP079土層注記
1:褐色土(10YR4/6)。しまりややあり。粘性ややあり。
2:暗褐色土(10YR3/3)に褐色土(10YR4/6)が少量混じる。
　しまりややあり。粘性ややあり。
3:暗褐色土(10YR3/3)に褐色土(10YR4/6)が多量混じる。
　しまりややあり。粘性ややあり。

SP080



SP080土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6)が少量混じる。
　しまりあり。粘性ややあり。
2:褐色土(10YR4/4)に暗褐色土(10YR3/2)が混じる。
　しまりなし。粘性ややあり。

SP082

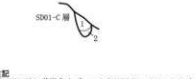


SP082土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色土ブロック(10YR5/6,φ1～3cm)が少量混じる。
　しまりややあり。粘性ややあり。

SP094

SP094土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)に明黄褐色粘土粒(10YR6/8)が混じる。
　しまりあり。粘性あり。
2:暗褐色土(10YR3/4)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/8,φ1cm)が多量混じる。
　しまりやあり。粘性あり。

SP097



SP097土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6,φ0.1～0.2cm)が少量混じる。
　しまりあり。粘性あり。
2:褐色土(10YR4/6)に暗褐色土(10YR3/3)が混じる。しまりややあり。粘性あり。

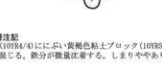
SP098

SP098土層注記
1:褐色土(10YR4/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/6,φ0.1～0.3cm)が少量混じる。
　しまりあり。粘性ややあり。
2:褐色土(10YR4/6)に黄褐色土ブロック(10YR5/6,φ3～5cm)が多量混じる。
　しまりあり。粘性ややあり。

SP099

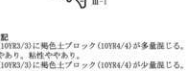
SP099土層注記
1:褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/6)が微量混じる。
　しまりなし。粘性ややあり。
2:褐色土(10YR4/6)に黄褐色土(10YR5/6)が少量混じる。
　しまりなし。粘性ややあり。

SP136



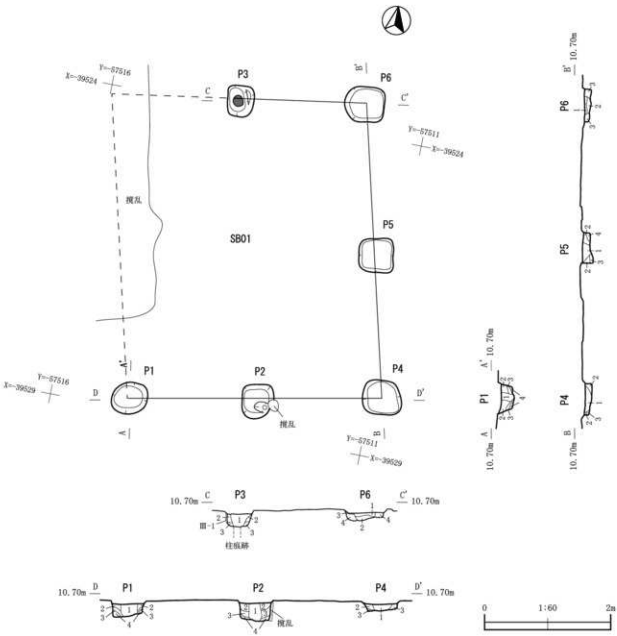
SP136土層注記
1:褐色土(10YR4/4)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4,φ0.1～0.5cm)
　が微量混じる。鉄分が微量沈着する。しまりややあり。粘性ややあり。

SP137



SP137土層注記
1:暗褐色土(10YR3/3)に褐色土ブロック(10YR4/4)が多量混じる。
　しまりややあり。粘性ややあり。
2:暗褐色土(10YR3/3)に褐色土ブロック(10YR4/4)が少量混じる。
　しまりややあり。粘性ややあり。

第 20 図　ＳＰ074・078 ～ 080・082・094・097 ～ 099・136・137 断面図



SB01 P1土層注記
1(抜き取り):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック
(10YR5/6, φ1cm程度)が混じる。しまりややあり。粘性あり。
2(掘り方):暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土ブロック
(10YR5/6, φ0.5cm程度)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土ブロック
(10YR5/6, φ0.5cm程度)が混じる。しまりあり。粘性あり。
4(掘り方):褐色土(10YR4/4)に褐灰色土粒(10YR4/1)が混じる。
しまりややなし。粘性ややあり。

SB01 P2土層注記
1(抜き取り):暗褐色土(10YR3/3)に褐色土粒(10YR4/6)が混じる。
しまりややあり。粘性あり。
2(掘り方):暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土ブロック
(10YR5/6, φ0.5~1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3(掘り方):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土粒(10YR5/6)・にぶい黄褐色土ブロック
(10YR6/4, φ3~5cm)が混じる。しまりややあり。粘性あり。
4(掘り方):褐色土(10YR4/6)に暗褐色土(10YR3/4)が混じる。
しまりややあり。粘性あり。

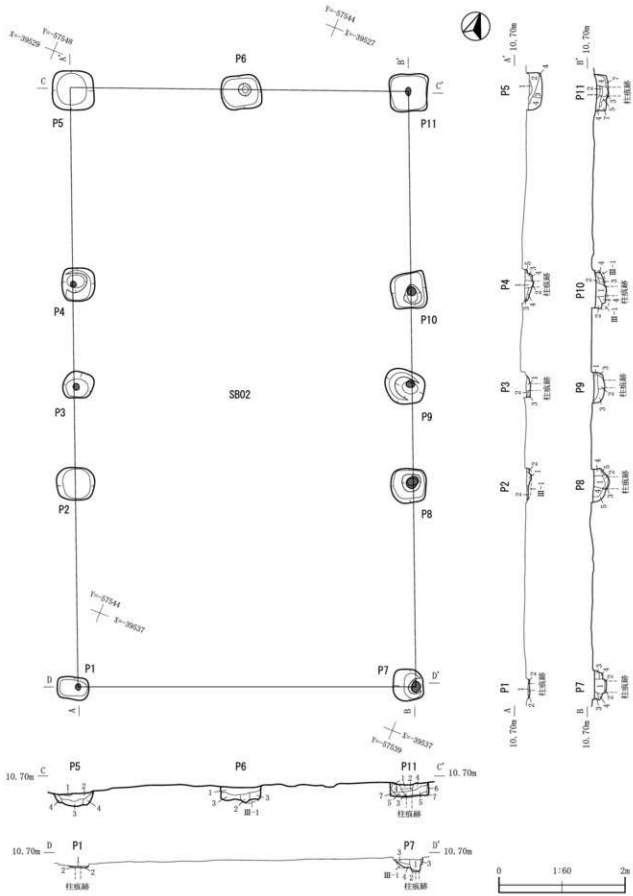
SB01 P3土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR2/3)に褐色土ブロック
(10YR4/6, φ1~3cm)が混じる。しまりややあり。粘性あり。
2(掘り方):暗褐色土(10YR3/4)に褐色土ブロック
(10YR4/6, φ0.5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3(掘り方):にぶい黄褐色土(10YR4/3)に黒褐色土ブロック
(10YR2/3)が少量混じる。しまりあり。粘性なし。

SB01 P4土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に褐色土ブロック
(10YR4/6, φ0.5~2cm)が混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
2(掘り方):黒褐色土(10YR2/3)に褐色土ブロック
(10YR4/6, φ1~3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):褐色土(10YR4/4)に褐色土ブロック
(10YR2/3, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB01 P5土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR2/2)に褐色土ブロック
(10YR4/6, φ1cm程度)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
2(掘り方):暗褐色土(10YR3/3)に褐色土ブロック
(10YR4/6, φ0.5cm程度)が非常に多く混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色土ブロック
(10YR5/6, φ1cm)が混じる。しまりややあり。粘性あり。
4(掘り方):褐色土(10YR4/4)に黒褐色土ブロック(10YR2/2, φ0.5cm)、
褐色土ブロック(10YR4/6, φ1cm)が混じる。しまりあり。粘性なし。

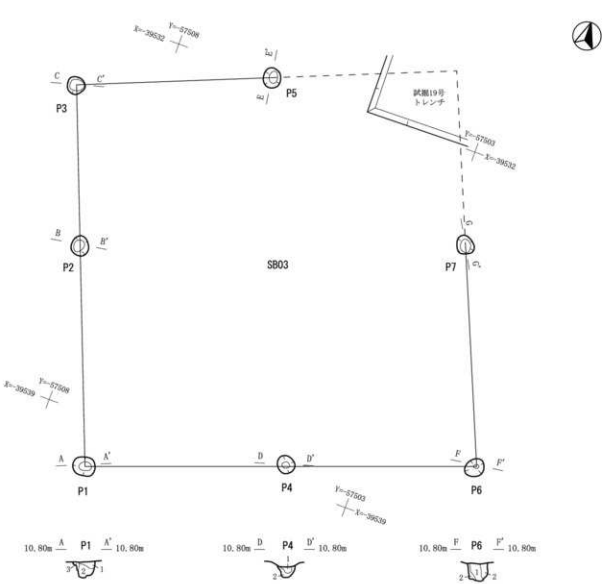
SB01 P6土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR2/3)に褐色土ブロック
(10YR4/6, φ0.5cm程度)が混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(抜き取り):にぶい黄褐色土(10YR4/3)に褐色土ブロック
(10YR4/6, φ1~3cm)が混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3(掘り方):暗褐色土(10YR3/3)に褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が
混じる。しまりあり。粘性ややあり。
4(掘り方):褐色土(10YR4/6)に黒褐色土ブロック(10YR2/3, φ1cm)、
暗褐色土粒(10YR3/4)が混じる。しまりあり。粘性あり。

第21図　１号掘立柱建物跡（ＳＢ01）平面図・断面図



第 22 図　２号掘立柱建物跡（ＳＢ02）平面図・断面図

SB02 P1土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(撹り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB02 P2土層注記
1(抜き取り):黒色土(10YR2/1)。しまりあり。粘性あり。
2(撹り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB02 P3土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(撹り方):黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性あり。
3(撹り方):にぶい黄橙色土(10YR7/4)に黒褐色土ブロック(10YR3/2)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB02 P4土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.1～0.5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):灰白色粘土(10YR8/1)に炭分が微量に混ざりる。しまりあり。粘性あり。
3(撹り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.5～1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
4(撹り方):にぶい黄橙色土(10YR7/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1,φ0.5～1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
5(撹り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB02 P5土層注記
1(抜き取り):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1,φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/1)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2,φ5cm)が多量、明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(抜き取り):にぶい黄橙色粘質土(10YR6/4)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.1～0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
4(撹り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1,φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB02 P6土層注記
1(抜き取り):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6)が交互に堆積する。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(撹り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1,φ1～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB02 P7土層注記
1(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1～5cm)が少量、炭化物が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):灰白色粘土(10YR8/1)。しまりあり。粘性あり。
3(撹り方):黒褐色土(10YR3/2)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2,φ3cm)が多量、明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
4(撹り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1～2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB02 P8土層注記
1(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.5～1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(抜き取り):灰白色粘土(10YR8/1)。しまりあり。粘性あり。
4(撹り方):黒褐色粘質土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
5(撹り方):にぶい黄橙色土(10YR7/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1,φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性やや弱い。
SB02 P9土層注記
1(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.5～2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.5～1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(撹り方):にぶい黄橙色土(10YR7/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2,φ3～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB02 P10土層注記
1(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.5～1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(撹り方):黒褐色粘質土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(撹り方):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
4(撹り方):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB02 P11土層注記
1(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1～3cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
4(撹り方):にぶい黄橙色粘質土(10YR6/4)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2,φ1～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
5(撹り方):黒褐色粘質土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
6(撹り方):黒褐色粘質土(10YR2/1)。しまりあり。粘性あり。
7(撹り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ1～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。



SB03 P1土層注記
1(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ5cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
3(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SB03 P2土層注記
1(抜き取り):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ1～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):黒色土(10YR2/1)に明黄褐色ブロック(10YR6/6, φ1～3cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色ブロック(10YR6/6, φ0.5～1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB03 P3土層注記
1(抜き取り):黒色土(10YR2/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):黒色土(10YR2/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土(10YR6/6, φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。

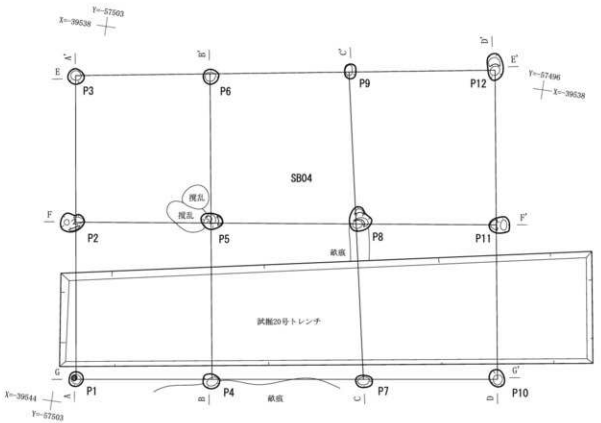
SB03 P4土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(掘り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

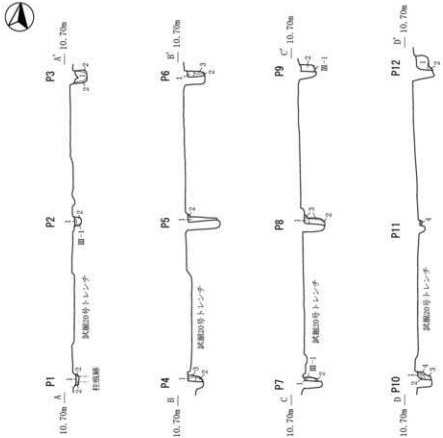
SB03 P5土層注記
1(抜き取り):黒色土(10YR2/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ1～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

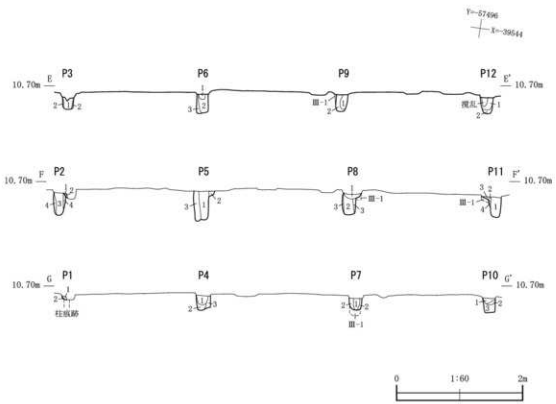
SB03 P6土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB03 P7土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

第23図　３号掘立柱建物跡（ＳＢ03）平面図・断面図

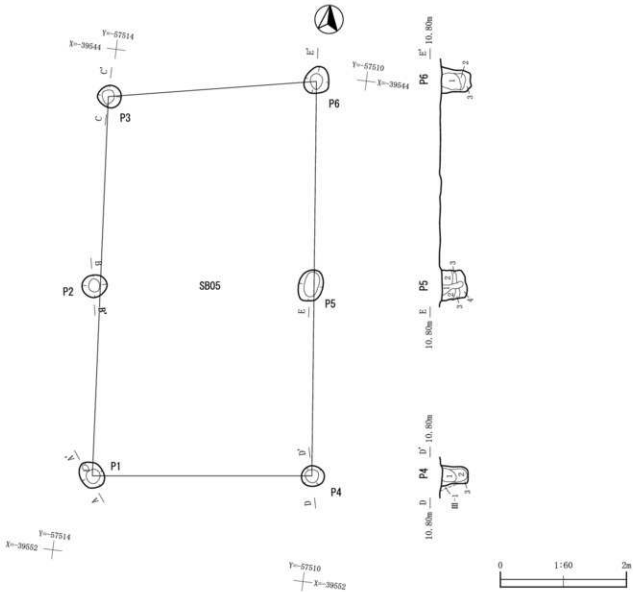






SB04 P1土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR2/3)，しまりやや有り。粘性ややあり。
2(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1，φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
SB04 P2土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)，しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):にぶい黄橙色土(10YR7/4)に黒褐色土ブロック(10YR3/2，φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ0.5～1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
4(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ0.5～1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
SB04 P3土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ1～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(掘り方):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)，しまりあり。粘性あり。
SB04 P4土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1，φ1～2cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
3(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1，φ2～5cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
SB04 P5土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ0.5～1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
SB04 P6土層注記
1(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ0.1～0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)，しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB04 P7土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ2～5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ2～8cm)が微量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
SB04 P8土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ5cm)，炭化物が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)，しまりあり。粘性ややあり。
3(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ1～5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB04 P9土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)，しまりあり。粘性ややあり。
2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ2～5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
SB04 P10土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ0.1～0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ2～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3(掘り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
4(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ1～2cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
SB04 P11土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ1cm)，炭化物が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ0.5cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
3(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
4(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ2cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
SB04 P12土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6，φ1～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(掘り方):暗褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2，φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

第 24 図　４号掘立柱建物跡（ＳＢ04）平面図・断面図



SB05 P1土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
4(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
5(抜き取り):黒色粘質土(10YR2/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ0.5～1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
6(抜き取り):黒色土(10YR2/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ0.5～1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
7(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2、φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性やや弱い。

SB05 P2土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR2/1)。しまりあり。粘性あり。
2(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。

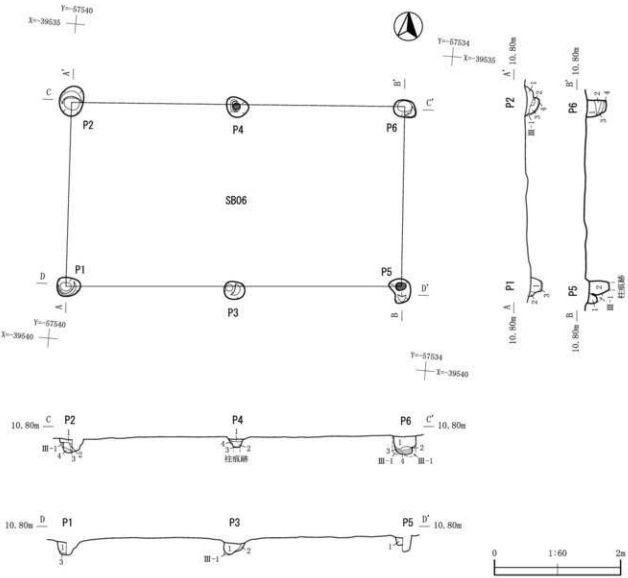
SB05 P3土層注記
1(抜き取り):黒色粘質土(10YR2/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1cm)が少量混じる。しまりやや弱い。粘性あり。
2(掘り方):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に黒褐色土ブロック(10YR3/1、φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性やや弱い。

SB05 P4土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1～3cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB05 P5土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ0.5～1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
4(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に黒褐色土ブロック(10YR3/1、φ2～5cm)が少量混じる。しまりやや弱い。粘性あり。

SB05 P6土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1～3cm)が多量混じる。しまりやや弱い。粘性あり。

第 25 図　５号掘立柱建物跡（ＳＢ05）平面図・断面図



SB06 P1土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB06 P2土層注記
1(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
3(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
4(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

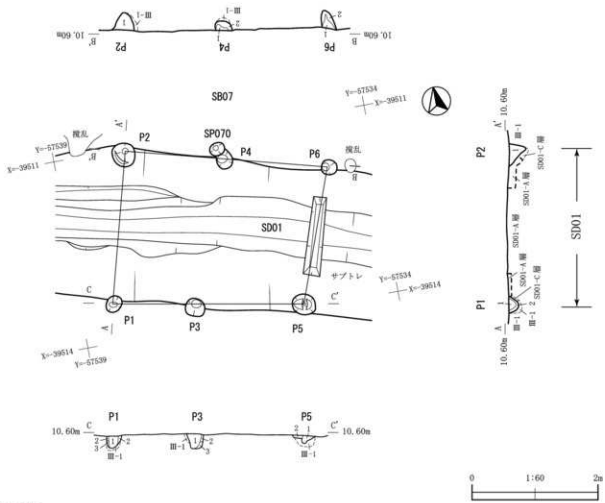
SB06 P3土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.3～1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SB06 P4土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(抜き取り):灰白色粘土(10YR8/2)に鉄分が少量沈着する。しまりあり。粘性あり。
4(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB06 P5土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB06 P6土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.1～0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
4(掘り方):黒褐色粘質土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。

第 26 図　６号掘立柱建物跡（ＳＢ06）平面図・断面図



SB07 P1土層注記
1(抜き取り):暗褐色土(10YR3/3)に、しまりあり。粘性ややあり。
2(掘り方):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土(10YR5/6)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3(掘り方):褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/6)ブロックが多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SB07 P2土層注記
1(埋土):暗褐色土(10YR4/3)に褐色土(10YR4/4)、炭化物(φ0.1～0.2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

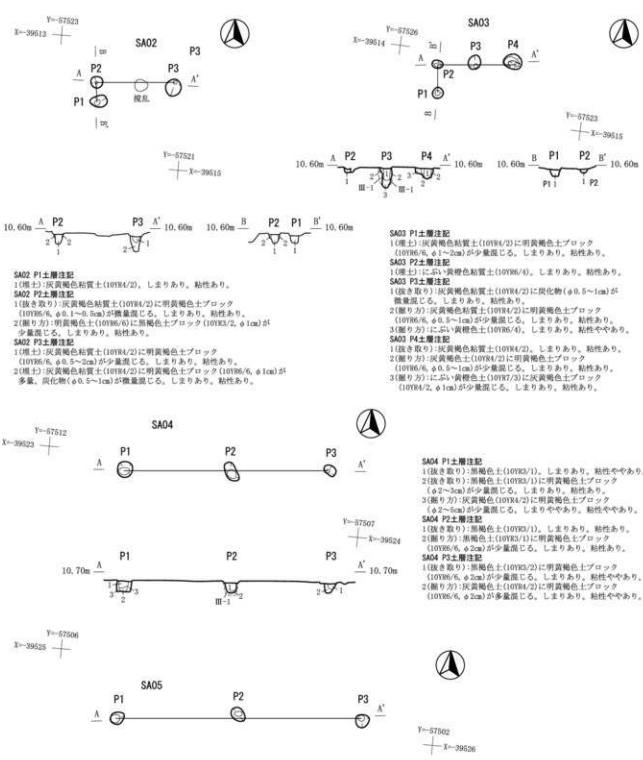
SB07 P3土層注記
1(抜き取り):暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土(10YR5/6)ブロックが少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
2(掘り方):褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/6)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
3(掘り方):褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/6)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。

SB07 P4土層注記
1(埋土):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土(10YR5/6)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(埋土):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土(10YR5/6)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SB07 P5土層注記
1(埋土):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土(10YR5/6)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(埋土):褐色土(10YR4/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/6)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。

SB07 P6土層注記
1(抜き取り):暗褐色土(10YR3/3)に、しまりあり。粘性ややあり。
2(掘り方):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土(10YR5/6)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。

第 27 図　７号掘立柱建物跡（ＳＢ07）平面図・断面図



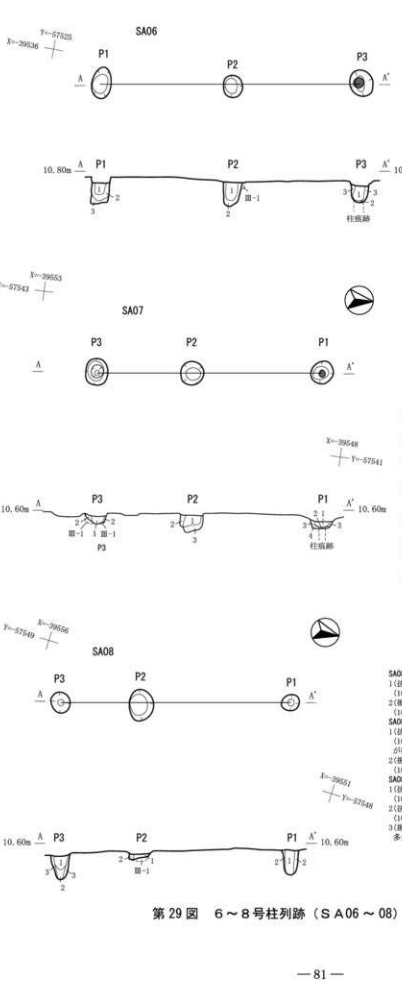
SA02 P1土層注記
1(埋土):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)。しまりあり。粘性あり。
SA02 P2土層注記
1(抜き取り):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.1~0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
SA02 P3土層注記
1(埋土):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(埋土):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が多量、炭化物(φ0.5~1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。

SA03 P1土層注記
1(埋土):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
SA03 P2土層注記
1(埋土):にぶい黄橙色粘質土(10YR6/4)。しまりあり。粘性あり。
SA03 P3土層注記
1(抜き取り):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に炭化物(φ0.5~1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2(掘り方):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):にぶい黄橙色土(10YR6/4)。しまりあり。粘性ややあり。
SA03 P4土層注記
1(抜き取り):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)。しまりあり。粘性あり。
2(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):にぶい黄橙色土(10YR7/3)に灰黄褐色土ブロック(10YR7/2, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。

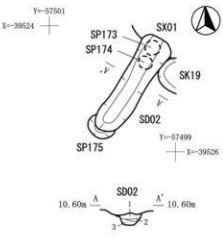
SA04 P1土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性ややあり。
2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(φ2~3cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
3(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(φ2~5cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
SA04 P2土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
2(掘り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
SA04 P3土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SA05 P1土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性なし。
SA05 P2土層注記
1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)。しまりあり。粘性ややあり。
SA05 P3土層注記
1(埋土):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色ブロック(10YR6/6, φ2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

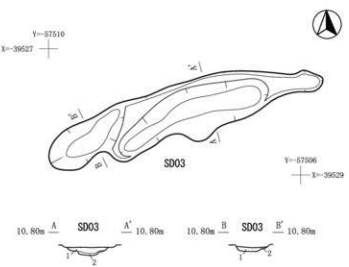
第28図　2～5号柱列跡（ＳＡ02～05）平面図・断面図



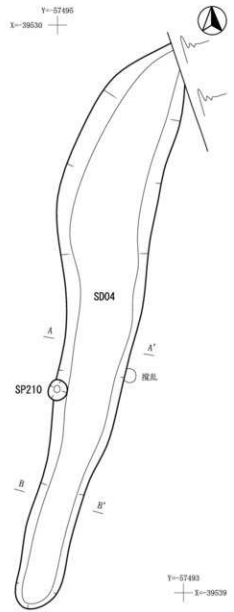
第 29 図　６～８号柱列跡（ＳＡ06 ～ 08）平面図・断面図

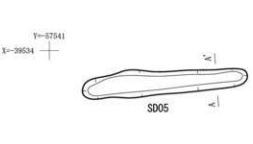


SD02土層注記
1:黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/8, φ0.1～0.3cm)が微量、
褐灰色土(10YR4/1)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:褐灰色土(10YR4/1)に褐色土(7.5YR4/6)が少量、明黄褐色土ブロック(10YR6/8, φ0.5cm)が微量混じる。
しまりかなりあり。粘性ややあり。
3:灰黄褐色土(10YR5/2)に明黄褐色土(10YR6/8)が多量まだらに混じる。しまりかなりあり。粘性ややあり。

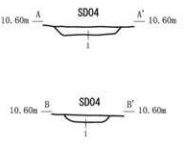


SD03土層注記
1:黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

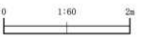




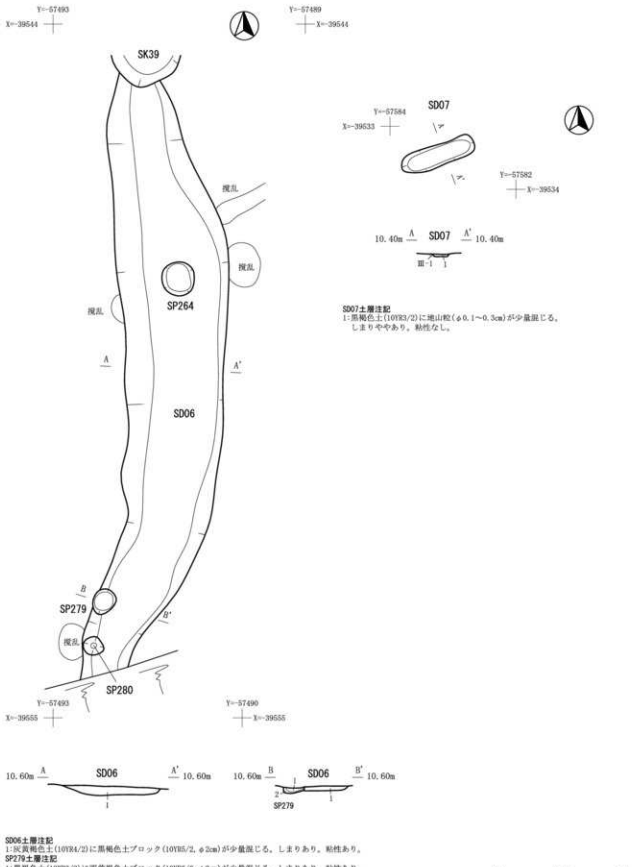
SD05土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性ややあり。



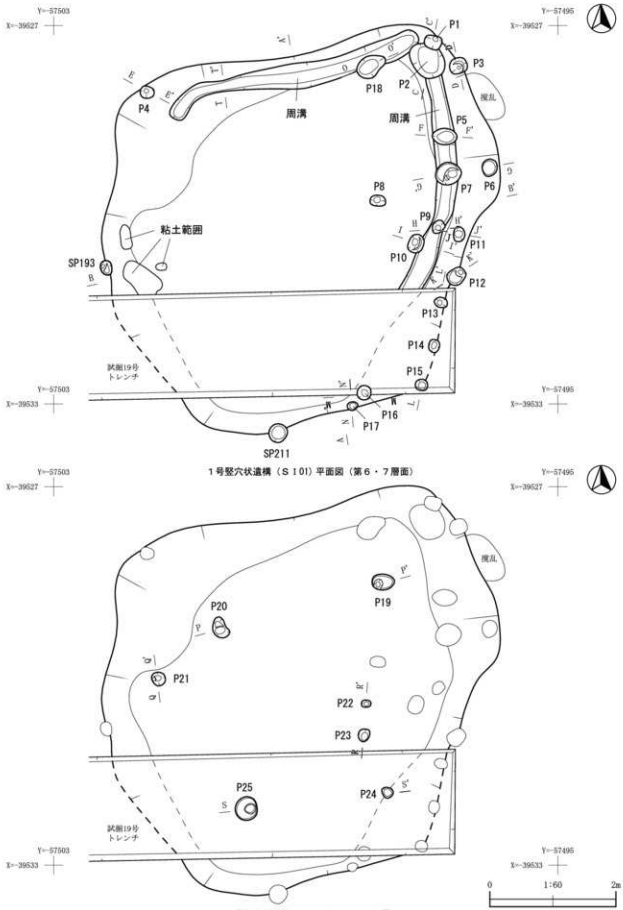
SD04土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に灰黄褐色土(10YR5/2, φ2cm)が少量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。



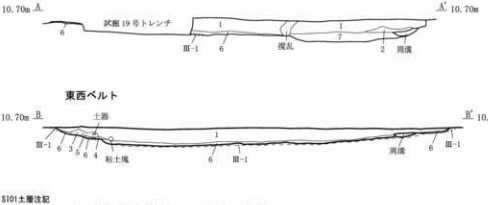
第 30 図　２～５号溝跡（ＳＤ02 ～ 05）平面図・断面図



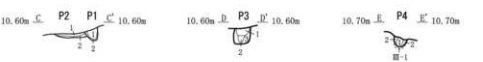
第 31 図　６・７号溝跡（ＳＤ06・07）平面図・断面図



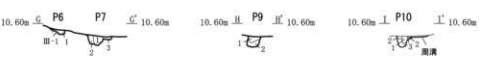
第 32 図　１号竪穴状遺構（ＳＩ01）平面図



SI01土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に土器片、炭化物が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:にぶい橙色土(7.5YR6/4)に橙色焼土ブロック(7.5YR6/6、φ0.1cm)が微量に混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3:(粘土範囲):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土(10YR6/6、φ0.1～0.5cm)、褐色焼土ブロック(7.5YR4/4)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
4:(粘土範囲):黒褐色土(10YR3/1)に炭化物が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
5:(粘土範囲):にぶい褐色土(7.5YR5/3)に焼土ブロック(φ1～5cm)、粘土ブロック(φ1～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
6:(床面):にぶい黄橙色土(10YR7/4)に黒褐色土ブロック(10YR3/2、φ2～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
7:(床面):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ2～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

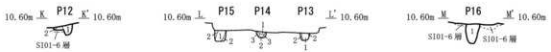


SI01 P1土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
SI01 P2土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ2～5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2、φ2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
SI01 P3土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)、しまりあり。粘性あり。
2:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色ブロック(10YR6/6、φ2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
3:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ2～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
SI01 P4土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ5cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ0.5～3cm)が多量に混じる。しまりあり。粘性ややあり。
SI01 P5土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ2～3cm)が多量に混じる。しまりあり。粘性あり。
3:黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。



SI01 P6土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
SI01 P7土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色ブロック(10YR4/2、φ1～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ0.5～1cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
3:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ2～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
SI01 P8土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)、明黄褐色ブロック(10YR6/6、φ1～2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
SI01 P9土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ2～5cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2、φ2～3cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
SI01 P10土層注記
1:黒褐色土(10YR3/1)、しまりあり。粘性あり。
2:黒褐色土(10YR3/2)、しまりあり。粘性あり。
3:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6、φ2～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
SI01 P11土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)、しまりあり。粘性あり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2、φ2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。

第 33 図　１号竪穴状遺構（SI01）断面図①

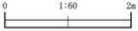


S101 P12土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ2～5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
S101 P13土層注記
1:黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
S101 P14土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性ややあり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)。しまりあり。粘性ややあり。
3:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
S101 P15土層注記
1:黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ10cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
S101 P16土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ3～5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。

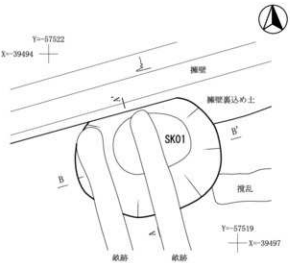
S101 P17土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ0.5～1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
S101 P18土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
S101 P19土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
S101 P20土層注記
1:明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ2～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.1～0.5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。

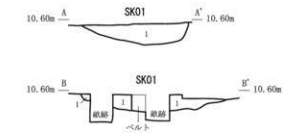
S101 P21土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～1cm)、炭化物が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～1cm)が少量、橙色焼土ブロック（7.5YR6/6, φ0.5cm）が微量、炭化物が混じる。しまりあり。粘性あり。
3:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。
S101 P22土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)。しまりあり。粘性あり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
S101 P23土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
S101 P24土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性ややあり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
S101 P25土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ2～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。

S101 周溝土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。

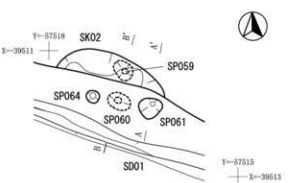


第 34 図　１号竪穴状遺構（ＳＩ01）断面図②

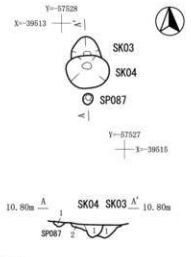




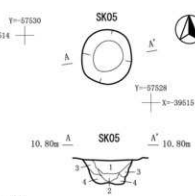
SK01土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)。しまりややあり。粘性ややあり。



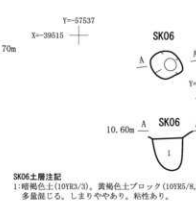
SK02土層注記
1:褐色土(10YR4/4)。しまりあり。粘性あり。
2:褐色土(10YR4/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/6)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
3:褐色土(10YR4/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/6)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
SP059土層注記
1:暗褐色土(10YR3/4)。しまりあり。粘性あり。
SP060土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)。しまりややあり。粘性あり。
2:暗褐色土(10YR3/3)にに.ぶい黄橙色粘土ブロック(10YR6/3)が少量混じる。
しまりあり。粘性あり。
SP061土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色ブロック(10YR5/6)が少量混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。



SK03土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が少量混じる。
しまりあり。粘性あり。
SK04土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～5cm)が多量混じる。
しまりあり。粘性あり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ1～5cm)が多量混じる。
しまりあり。粘性あり。
SP087土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が多量混じる。
しまりあり。粘性あり。

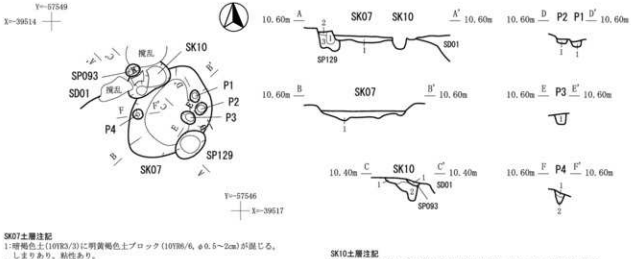


SK05土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に灰白色粘土(10YR8/2, φ0.5cm)が微量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)。しまりややあり。粘性なし。
3:灰白色粘土(10YR8/2)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ1～5cm)が多量混じる。
しまりあり。粘性あり。
4:に.ぶい黄橙色土(10YR7/4)。しまりややあり。粘性ややあり。



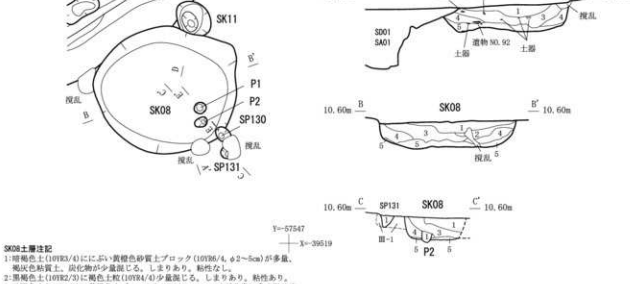
SK06土層注記
1:暗褐色土(10YR3/3)。黄褐色土ブロック(10YR5/8, φ0.5～1cm)が
多量混じる。しまりややあり。粘性あり。

第 35 図　１～６号土坑（ＳＫ01～06）平面図・断面図



SK07土層注記
1:暗褐色土(10YR3/3)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5～2cm)が混じる。しまりあり。粘性あり。
SK07 P1土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色粘度ブロック(10YR5/8, φ1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
SK07 P2土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色粘度ブロック(10YR5/8, φ1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
SK07 P3土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色粘度ブロック(10YR5/8, φ1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
SK07 P4土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)。しまりやや有り。粘性あり。
2:暗褐色土(10YR3/3)ににぶい黄橙色粘土ブロック(10YR5/4, φ1cm)が多量混じる。しまりなし。粘性あり。

SK10土層注記
1:褐色土(10YR4/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5～1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。
2:黒褐色土(10YR2/2)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ1cm)が混じる。しまりあり。粘性あり。
SP093土層注記
1:暗褐色土(10YR3/4)に褐色土ブロック(10YR4/6, φ0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
SP129土層注記
1:暗褐色土(10YR3/4)。しまりあり。粘性あり。
2:暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性なし。
3:にぶい黄褐色土(10YR4/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ1～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり

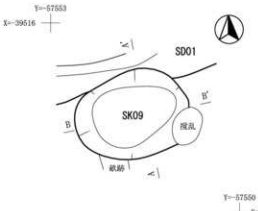


SK08土層注記
1:暗褐色土(10YR3/4)ににぶい黄橙色砂質土ブロック(10YR6/4, φ2～5cm)が多量、褐炭色粘質土、炭化物が少量混じる。しまりあり。粘性なし。
2:黒褐色土(10YR2/3)に褐色土粒(10YR4/4)少量混じる。しまりあり。粘性あり。
3:暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ1～3cm)が非常に多く混じる。しまりややあり。粘性あり。
4:灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に黄褐色土ブロック(10YR5/8, φ1～3cm)、にぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/3)が非常に多く混じる。しまりあり。粘性あり。
5:灰黄褐色粘土(10YR5/2)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/6, φ1～3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
SK08 P1土層注記
1:暗褐色土(10YR3/3)。しまりあり。粘性あり。
SK08 P2土層注記
1:暗褐色土(10YR3/3)。しまりあり。粘性あり。
SK11土層注記
1:褐炭色粘土(10YR3/1)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/6, φ0.5～1cm)が混じる。しまりあり。粘性やや有り。
2:にぶい黄褐色粘土(10YR7/3)ににぶい黄褐色粘土(10YR7/3)、暗褐色粘土(10YR3/3)が混じる。しまりあり。粘性やや有り。
3:黒褐色粘土(10YR3/1)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/6, φ1～3cm)が混じる。しまりあり。粘性あり。
4:褐色土(10YR4/4)に黄褐色粘質土(10YR5/6)が混じる。しまりあり。粘性あり。

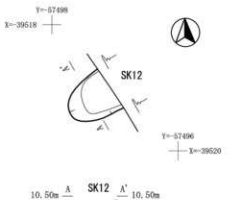
SP131土層注記
1:暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5～1cm)が混じる。しまりあり。粘性あり。

0　1:60　1m

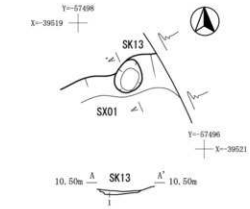
第 36 図　７・８・10・11 号土坑（ＳＫ07・08・10・11）平面図・断面図



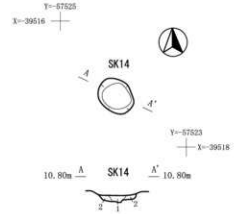
SK09土層注記
1:暗褐色土(10YR3/3)に明黄褐色砂質土粒(10YR6/6)が混じる。
しまりあり。粘性あり。
2:黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色砂質土ブロック(10YR5/6, φ0.5～1cm)が多量混じる。
しまりあり。粘性あり。
3:灰黄褐色粘土(10YR5/2)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が多量混じる。
しまりあり。粘性あり。



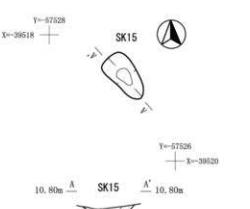
SK12土層注記
1:暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ3～5cm)が混じる。
しまりあり。粘性ややあり。



SK13土層注記
1:黄褐色土(10YR5/6)に暗褐色土ブロック(10YR3/3)が多量混じる。
しまりあり。粘性なし。

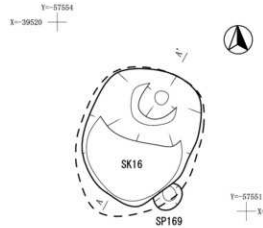


SK14土層注記
1:灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック
(10YR6/6, φ0.5～1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック
(10YR4/2, φ1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。

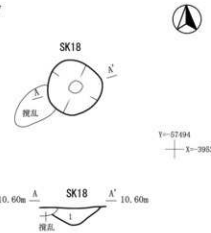


SK15土層注記
1:黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック
(10YR6/6, φ0.5～1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック
(10YR6/6, φ0.5～1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
3:にぶい黄橙色粘質土(10YR6/3)。しまりあり。粘性あり。

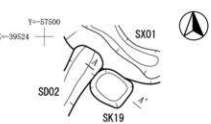
第 37 図　９・12 ～ 15 号土坑（ＳＫ09・12 ～ 15）平面図・断面図

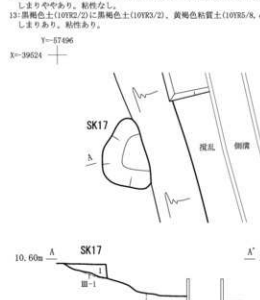


SK16土層注記
1:黒褐色土(10YR2/2)に黒色土(10YR2/1)が少量、地山粒(10YR5/8, φ0.2cm)が微量混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR3/2)に黒色土(10YR2/1)が少量、地山粒(10YR5/8, φ0.2～1cm)が多量混じる。
しまりややあり。粘性あり。
3:黒褐色砂質土(10YR2/2)に黄褐色粘質土(10YR5/8, φ2～3cm)が多量混じる。
しまりやや有り。粘性なし。
4:黒褐色粘質土(10YR3/2)に黄褐色粘質土(10YR5/8, φ0.2cm)が少量、暗褐色粘質土(10YR3/3)が混じる。
しまりあり。粘性あり。
5:黒褐色砂質土(10YR3/2)に地山粒(10YR5/8, φ0.1～0.2cm)が多量、炭化物が微量混じる。
しまりあり。粘性なし。
6:黒褐色粘質土(10YR3/2)に地山粒(10YR5/8, φ0.2～1cm)が多量、5層の埋土がブロック状に混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。
7:黒褐色土(10YR3/2)、しまりややあり。粘性あり。
8:褐色土(10YR4/4)に黄褐色粘質土(10YR5/8, φ2～5cm)が微量、黒褐色土(10YR3/2)が混じる。
しまりややあり。粘性なし。
9:黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色粘質土(10YR5/8, φ1～2cm)が密に混じる。しまりあり。粘性ややあり。
10:黒褐色土(10YR3/2)に地山粒(10YR5/8, φ0.1～0.5cm)、黄褐色粘質土(10YR5/8, φ2cm)が混じる。
炭化物(φ1～2cm)が散点混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
11:褐色粘質土(10YR4/4)に黒褐色土(10YR2/2)が混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
12:にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)に黄褐色粘質土(10YR5/8, φ1～2cm)が密に混じる。
しまりややあり。粘性なし。
13:黒褐色土(10YR2/2)に黒褐色土(10YR3/2)、黄褐色粘質土(10YR5/8, φ2～3cm)が多量混じる。
しまりあり。粘性あり。



SK18土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2～3cm)が少量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。



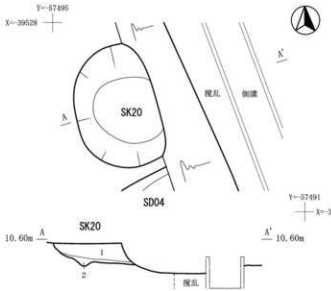


SK19土層注記
1:暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色粘質土(10YR5/8)が少量混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR3/2)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR4/3)がまだらに多量混じる。
しまりややあり。粘性あり。

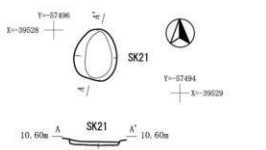
SK17土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が少量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。

0　1:60　1m

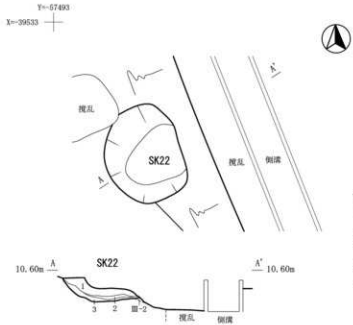
第 38 図　16 ～ 19 号土坑（ＳＫ16 ～ 19）平面図・断面図



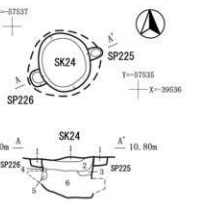
SK20土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ3cm)が微量混じる。
しまりあり。粘性あり。
2:灰黄褐色土(10YR4/3)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が微量混じる。
しまりあり。粘性あり。



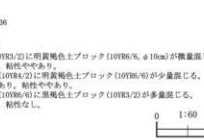
SK21土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が多量混じる。
しまりあり。粘性あり。



SK23土層注記
1:褐灰色土(10YR6/1)。しまりあり。粘性ややあり。
2:黒色土(10YR2/1)に明黄褐色土(10YR6/6)、黒色土(10YR2/1)が
交互に堆積する。しまりあり。粘性ややあり。
3:灰白色粘土(10YR8/2)に鉄分が底面に沈着する。
しまりあり。粘性あり。
SP216土層注記
1:黒褐色土(10YR3/1)に灰白色粘土(10YR8/1, φ5cm)が多量混じる。
しまりあり。粘性あり。



SK24土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土粒(10YR5/8)が少量混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR2/2)に黄褐色砂質土(10YR5/6)が少量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。
3:黒褐色土(10YR2/2)に黄褐色砂質土(10YR5/6)が多量混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。
4:黄褐色砂質土(10YR5/6)に黒褐色土(10YR2/2)が多量混じる。
しまりややあり。粘性なし。
5:黒褐色砂質土(10YR3/2)に黄褐色土(10YR5/6)が混じる。
しまりあり。粘性ややあり。
6:黄褐色砂質土(10YR5/6)に黒褐色土(10YR2/2)が多量混じる。
しまりややあり。粘性なし。
SP225土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)。しまりあり。粘性なし。
SP226土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)。しまりややあり。粘性ややあり。

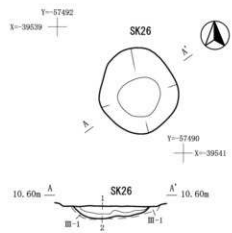


SK22土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ10cm)が微量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6)が少量混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。
3:明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2)が多量混じる。
しまりあり。粘性なし。

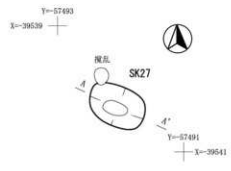
0　1:60　1m

第 39 図　20 ～ 24 号土坑（ＳＫ20 ～ 24）平面図・断面図

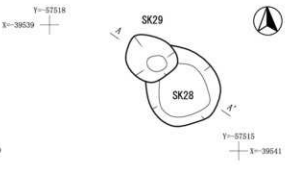
SK25土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6)が少量混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。



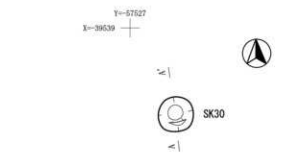
SK26土層注記
1:黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6)が少量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。



SK27土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6)が微量混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2)が微量混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。



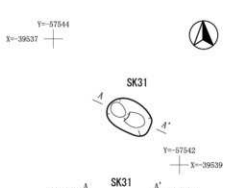
SK28土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ5～10cm)が
微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR3/2)。しまりややあり。粘性ややあり。
SK29土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性あり。
2:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が
少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3:灰黄褐色土(10YR4/2)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ2cm)が
少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。



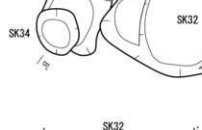
SK30土層注記
1:灰黄褐色土(10YR5/2)。明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が
微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:にぶい黄橙色土(10YR7/3)。しまりあり。粘性あり。

0　1:60　1m

第 40 図　25 ～ 30 号土坑（ＳＫ25 ～ 30）平面図・断面図



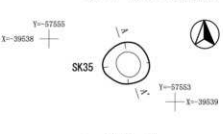
SK31土層注記
1:灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～3cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
4:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～5cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。



SK32土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色粘質土(10YR5/8, φ0.5～2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:黄褐色土(10YR5/6)に黒褐色土(10YR2/3)が混じる。しまりあり。粘性あり。
3:黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土(10YR5/6)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
4:黒褐色土(10YR3/1)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ1～3cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
5:褐色土(10YR4/6)に黒褐色土(10YR2/2)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
6:黄褐色土(10YR5/6)に暗褐色土(10YR3/3)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
7:暗褐色土(10YR3/3)に黒褐色土(10YR4/4)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
8:黒褐色土(10YR2/3)に褐色土(10YR4/4)が微量混じる。しまりややあり。粘性あり。

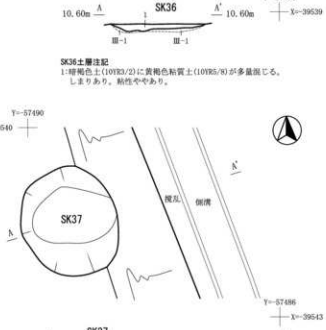
SK33土層注記
1:黒褐色土(10YR2/2)に地山粒(10YR5/8, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:褐色土(10YR4/6)。しまりあり。粘性ややあり。
3:黒褐色土(10YR3/2)に地山粒(10YR5/8, φ0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
4:暗褐色土(10YR3/3)。しまりあり。粘性ややあり。

SK34土層注記
1:黒褐色土(10YR2/2)に地山粒(φ0.1～1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR2/2)に地山(10YR4/6)が混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
3:黒褐色土(10YR2/2)に地山粒(φ0.1cm)が微量混じる。しまりややあり。粘性あり。
4:黒褐色土(10YR2/3)に地山(10YR4/6)が混じる。しまりややあり。粘性ややあり。



SK35土層注記
1:暗褐色土(10YR3/3)に地山粒(10YR5/8, φ0.1～1cm)が多量、黄褐色粘質土(10YR5/8)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。

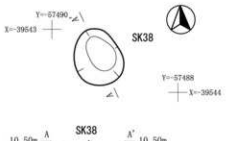
SK36土層注記
1:暗褐色土(10YR3/2)に黄褐色粘質土(10YR5/8)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。



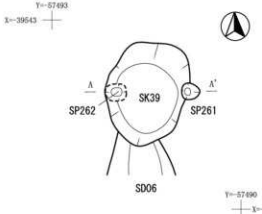
SK37土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性なし。
2:黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性なし。
3:明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ5cm以下)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。

0　1:60　1m

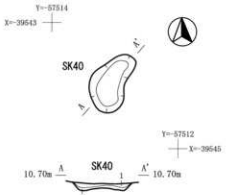
第41図　31～37号土坑（ＳＫ31～37）平面図・断面図



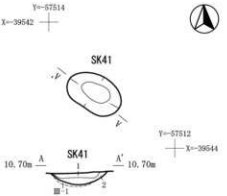
SK38土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)。しまりあり。粘性ややあり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)。黒色土ブロックが少量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。



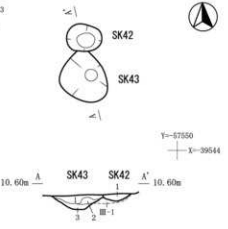
SK39土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)。しまりなし。粘性なし。
2:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6)が少量混じる。
しまりなし。粘性なし。
SP261土層注記
1:明黄褐色土(10YR6/6)。黒褐色土ブロック(10YR3/2)が少量混じる。
しまりあり。粘性なし。
SP262土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)。しまりあり。粘性ややあり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)。黒褐色土ブロック(10YR3/1)が少量混じる。
しまりあり。粘性なし。



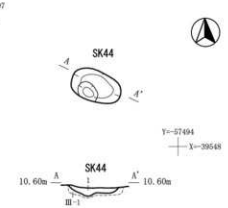
SK40土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が
多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ2～3cm)が
少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。



SK41土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が
微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1～2cm)が
多量混じる。しまりあり。粘性あり。

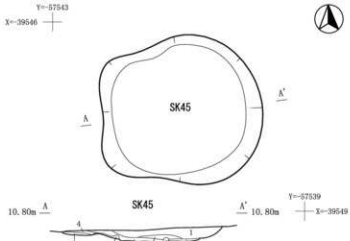


SK42土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が
微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
SK43土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4, φ0.5～2cm)が
少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:褐色粘質土(10YR4/4)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ0.1～0.5cm)が
少量混じる。しまりあり。粘性あり。
3:黄褐色粘質土(10YR5/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ0.5～1cm)が
多量混じる。しまりあり。粘性あり。

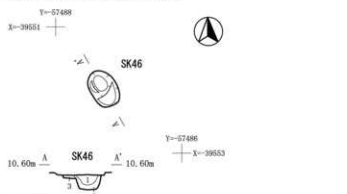


SK44土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)。しまりあり。粘性なし。

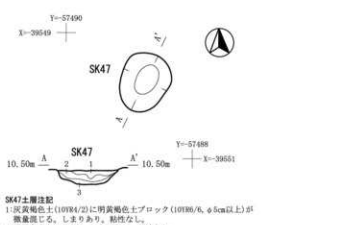
第 42 図　38 ～ 44 号土坑（ＳＫ38 ～ 44）平面図・断面図



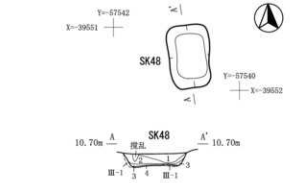
SK45土層注記
1:暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色粘質土(10YR5/8, φ1cm)が多量混じる。
しまりやや有り。粘性やや有り。
2:暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色粘質土(10YR5/8, φ1cm)が密に混じる。
しまり有り。粘性やや有り。
3:黄褐色土(10YR5/6)に暗褐色土ブロック(10YR2/3, φ1cm)が中量混じる。
しまり有り。粘性あり。
4:暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色粘質土(10YR5/8, φ0.5～1cm)が多量混じる。
しまり有り。粘性やや有り。
5:黄褐色砂質土(10YR4/6)。しまりややあり。粘性なし。
6:黒色土(10YR2/1)に黄褐色ブロック(7.5YR7/8, φ0.5cm)が微量。
黄褐色粘質土(10YR5/8, φ0.5～1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性なし。
7:褐色粘質土(10YR4/4)。しまりあり。粘性あり。



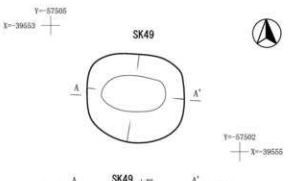
SK46土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ5cm)が微量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2～5cm)が多量混じる。
しまりややあり。粘性あり。
3:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が微量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。



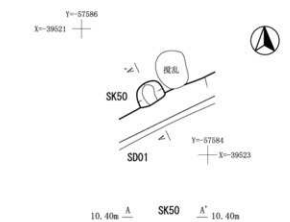
SK47土層注記
1:灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ5cm以上)が
微量混じる。しまりあり。粘性なし。
2:黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性なし。
3:黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ3cm以下)が
多量混じる。しまりあり。粘性なし。



SK48土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)。にぶい黄褐色粘土ブロック(10YR7/3, φ2～10cm)が
多量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:黒褐色粘質土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
3:灰白色粘土(10YR8/2)。しまりあり。粘性あり。
4:明黄褐色土(10YR6/6)。鉄分が多量に沈着する。しまりあり。粘性あり。



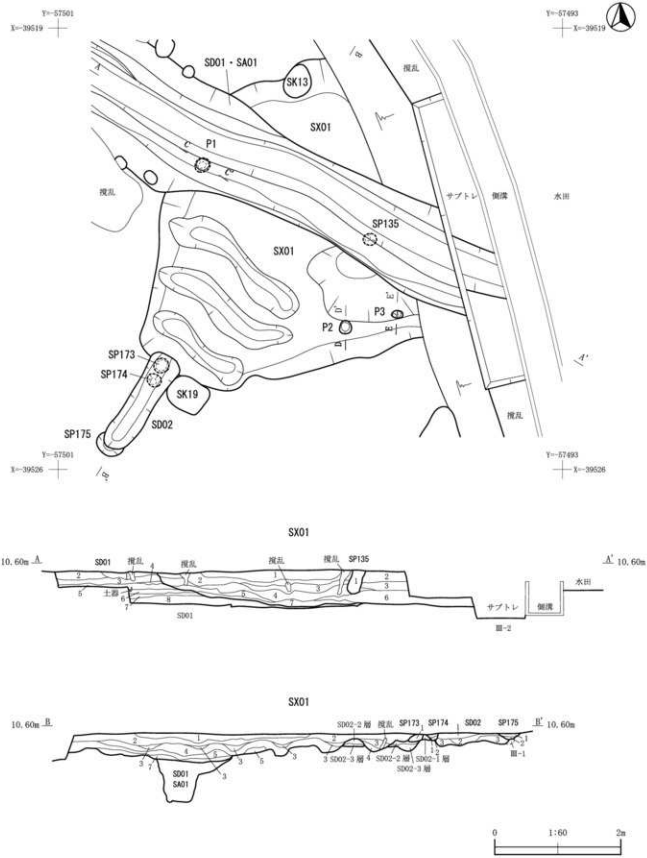
SK49土層注記
1:黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)、
土器片、炭化物が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
2:にぶい黄橙色粘土(10YR6/4)に鉄分が多量に沈着する。
しまりあり。粘性あり。



SK50土層注記
1:黒褐色土(10YR2/2)。しまりあり。粘性ややあり。
2:暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/8, φ1～3cm)が
多量混じる。しまりあり。粘性あり。
3:褐色土(10YR4/6)に暗褐色土ブロック(φ1～2cm)が多量混じる。
しまりややあり。粘性あり。

0　1:60　1m

第 43 図　45 ～ 50 号土坑（ＳＫ45 ～ 50）平面図・断面図



第 44 図　１号性格不明遺構（ＳＸ01）平面・断面図

SX01土層注記
1:暗褐色土(10YR3/3)に炭化物(φ1～2cm)が部分的に微量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR2/3)ににぶい黄褐色砂(10YR4/3)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3:黒褐色土(10YR2/2)ににぶい黄褐色砂(10YR4/3)が少量混じる。暗赤褐色鉄分(5YR3/6)が微量に沈着する。しまりあり。粘性ややあり。
4:灰黄褐色砂質土(10YR4/2)に褐色砂(10YR4/6)が多量に混じる。暗赤褐色鉄分(5YR3/6)が微量に沈着する。しまりあり。粘性なし。
5:灰黄褐色砂質土(10YR4/2)に明褐色砂(10YR5/6)が微量に混じる。暗赤褐色鉄分(5YR3/6)が多量均一に沈着する。しまりあり。粘性ややあり。
6:黒褐色粘質土(10YR3/2)に暗赤褐色鉄分(5YR3/6)が微量に沈着する。しまりややあり。粘性ややあり。
7:明褐色砂質土(10YR5/6)ににぶい黄橙砂(10YR5/4)が少量まだらに、灰黄褐色砂質土(10YR4/2)が少量混じる。しまりあり。粘性なし。

SD01土層注記
1(A層):暗褐色土(10YR3/3)に黒褐色土(10YR2/1)が多量混じる。鉄分が少量沈着する。しまりあり。粘性ややあり。
2(A層):暗褐色土(10YR3/3)。しまりあり。粘性ややあり。
3(A層):暗褐色土(10YR3/4)に褐色砂(10YR4/3)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
4(A層):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色砂(10YR5/5)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。
5(A層):褐色砂質土(10YR4/6)に暗褐色土(10YR3/2)が少量混じる。しまりあり。粘性なし。
6(B層):黒褐色土(10YR2/3)に褐色砂(7.5YR4/2)がまだらに混じる。しまりあり。粘性ややあり。
7(B層):黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色砂(10YR5/6)が多量まだらに混じる。しまりあり。粘性あり。
8(B層):褐灰色土(10YR4/1)ににぶい黄褐色砂(10YR5/4)が多量混じる。暗赤褐色鉄分(5YR3/6)が少量沈着する。しまりあり。粘性あり。

SD02土層注記
1:黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.1～0.3cm)が微量、褐灰色土(10YR4/1)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2:褐灰色土(10YR4/1)に褐色土(7.5YR4/6)が少量、明黄褐色土ブロック(10YR6/6,φ0.5cm)が微量混じる。しまりかなりあり。粘性ややあり。
3:灰黄褐色土(10YR5/2)に明黄褐色土(10YR6/6)が多量まだらに混じる。しまりかなりあり。粘性ややあり。

SP135土層注記
1:暗褐色土(10YR3/3)に黒褐色粘質土(10YR3/1)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SP173土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)。しまりあり。粘性ややあり。

SP174土層注記
1:黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR3/2)ににぶい黄褐色土(10YR5/4)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

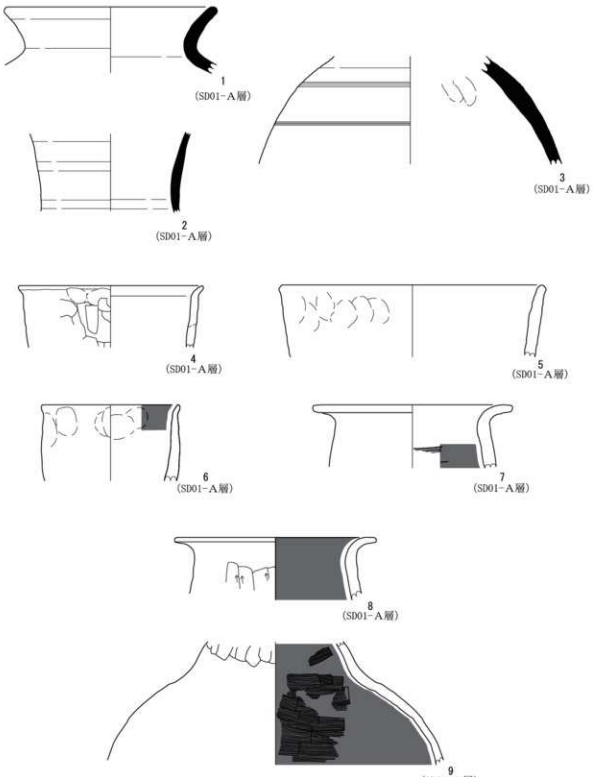
SP175土層注記
1:暗褐色土(10YR3/4)。しまりあり。粘性あり。
2:暗褐色土(10YR3/4)ににぶい黄色土ブロック(2.5Y6/3,φ1～5cm)が少量混じる。明赤褐色鉄分(5YR5/8)が少量沈着する。しまりあり。粘性あり。

SX01 P1土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)に灰黄褐色砂(10YR4/2)が微量混じる。
しまりややあり。粘性あり。
2:暗褐色土(10YR3/3)。しまりややあり。粘性あり。
3:暗褐色土(10YR3/3)ににぶい黄褐色砂(10YR5/4)が少量混じる。
しまりややあり。粘性あり。

SX01 P2土層注記
1:褐色土(10YR4/4)に地山少量混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。
2:褐色土(10YR4/4)に地山多量混じる。
しまりややあり。粘性ややあり。

SX01 P3土層注記
1:黒褐色土(10YR2/3)に地山少量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。
2:黒褐色土(10YR2/3)に地山多量混じる。
しまりあり。粘性ややあり。

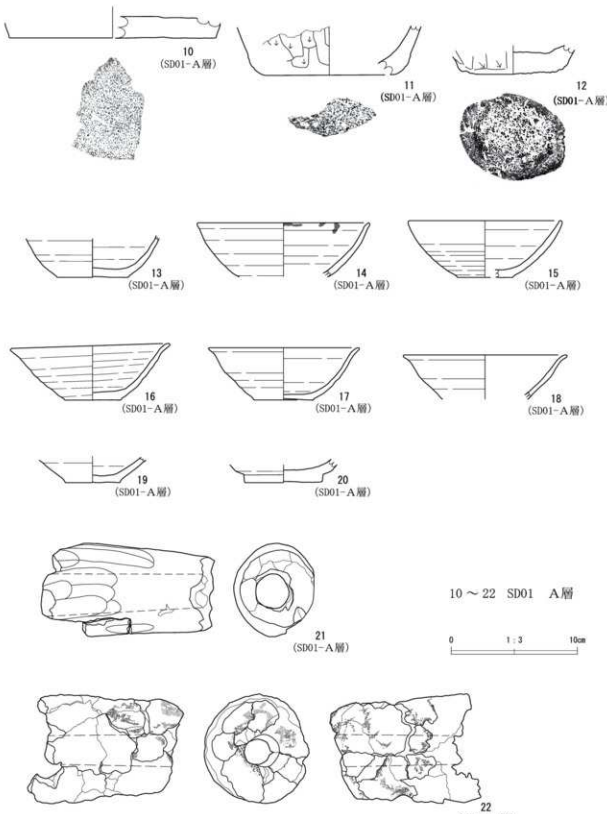
第45図　1号性格不明遺構（ＳＸ01）断面図



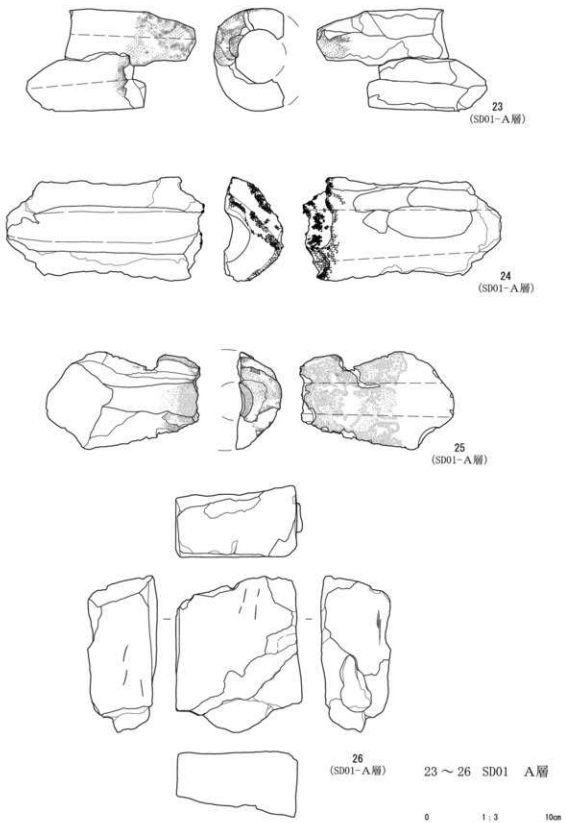
1～9　SD01　A層

0　1：3　10cm

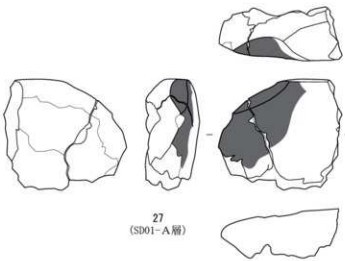
第 46 図　ＳＤ01 出土遺物①

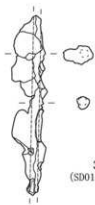


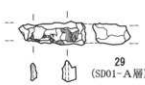
第 47 図　ＳＤ01 出土遺物②



第 48 図　ＳＤ01 出土遺物③

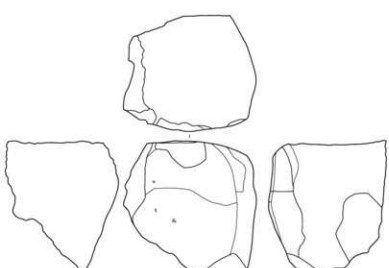






27・29・30 のスケール

0　1：3　10cm

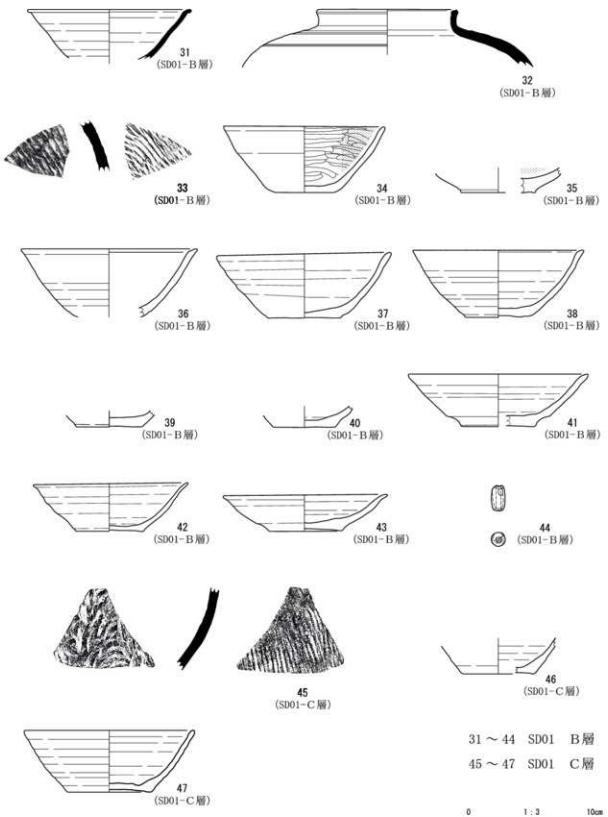


28 のスケール

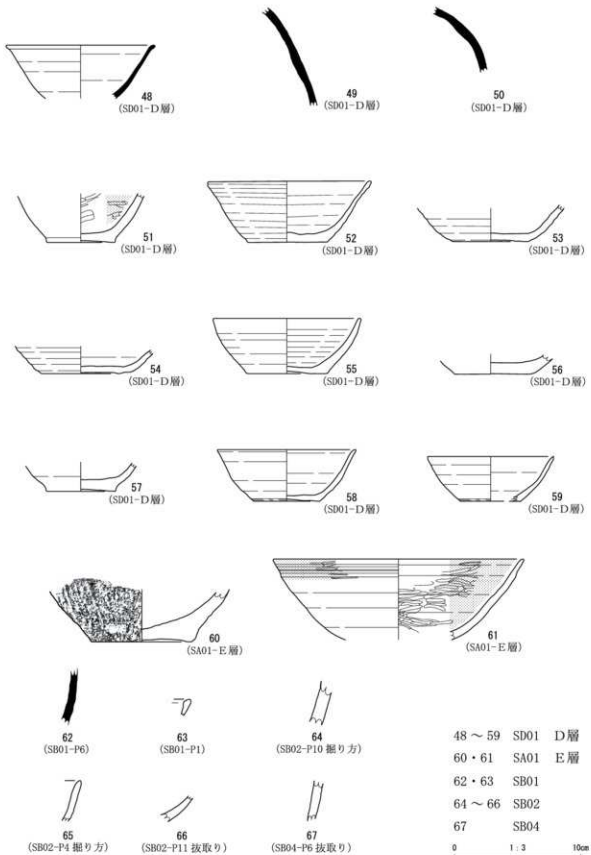
0　1：6　10cm

27 ～ 30　SD01　Ａ層

第 49 図　ＳＤ01 出土遺物④

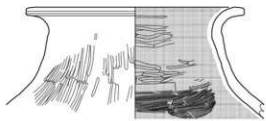


第 50 図　ＳＤ01 出土遺物⑤

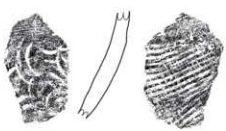


第 51 図　ＳＤ01・ＳＡ01・Ａ区遺構内出土遺物

68
（ＳＩ01 埋土）

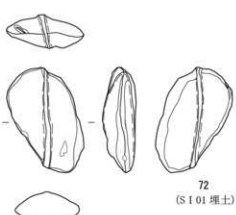


69
（ＳＩ01 埋土・SD01−Ａ層）



70
（ＳＩ01 埋土）

71
（ＳＩ01 埋土）



72
（ＳＩ01 埋土）

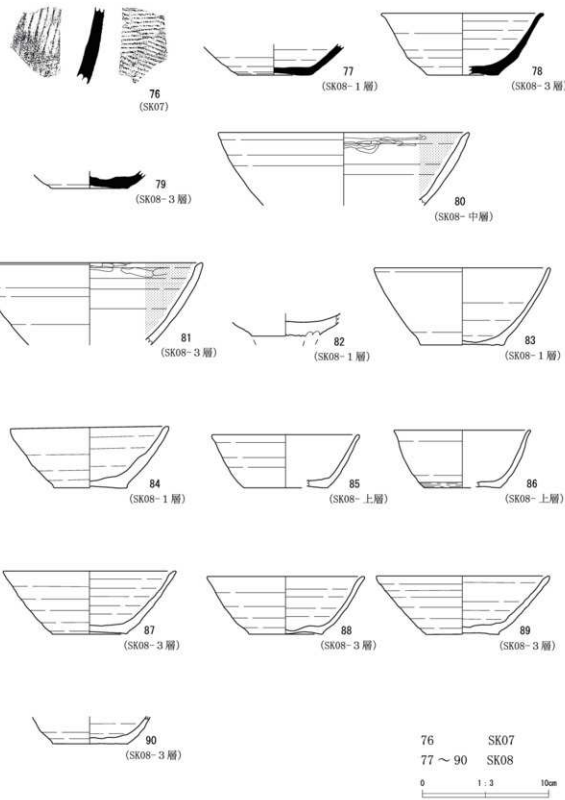
73
（ＳＩ01 粘土範囲）

74
（ＳＩ01 粘土範囲）

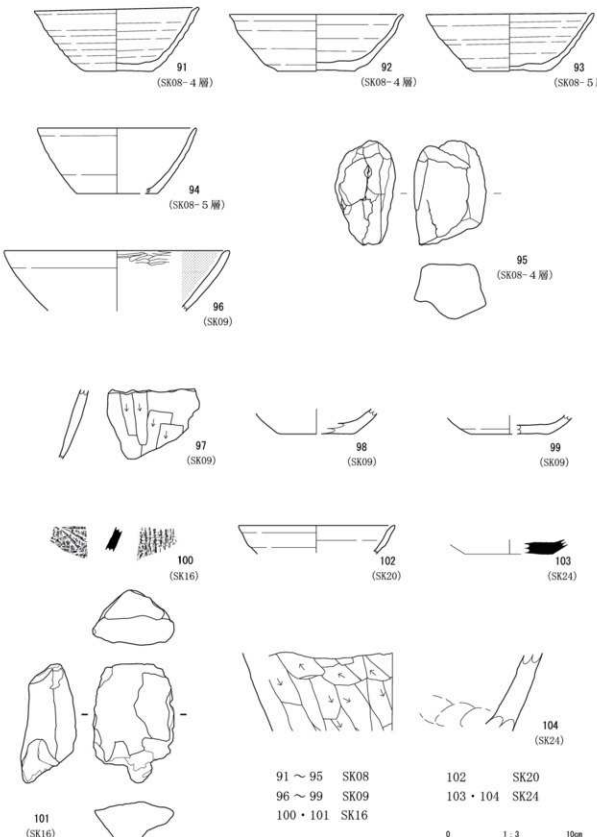
75
（ＳＩ01 粘土範囲）

68 ～ 72　SI01　埋土
73 ～ 75　SI01　粘土範囲

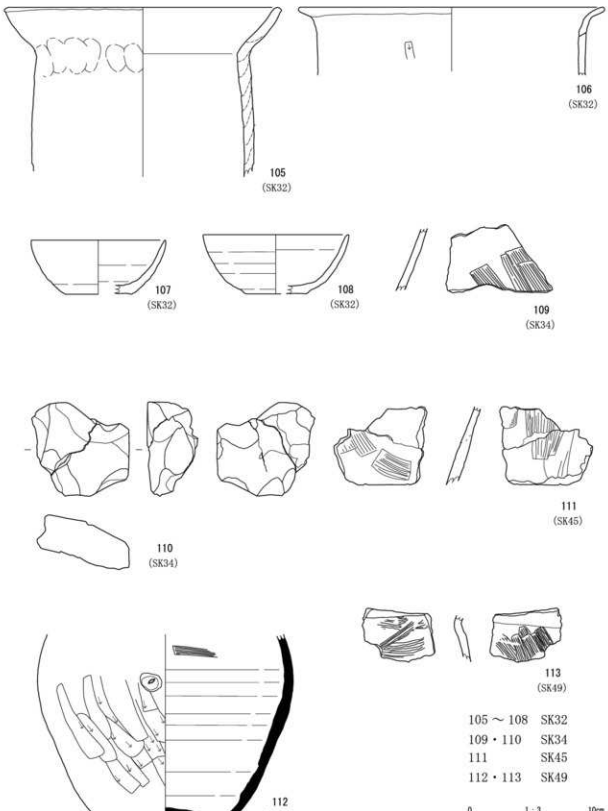
第 52 図　Ａ区遺構内出土遺物①



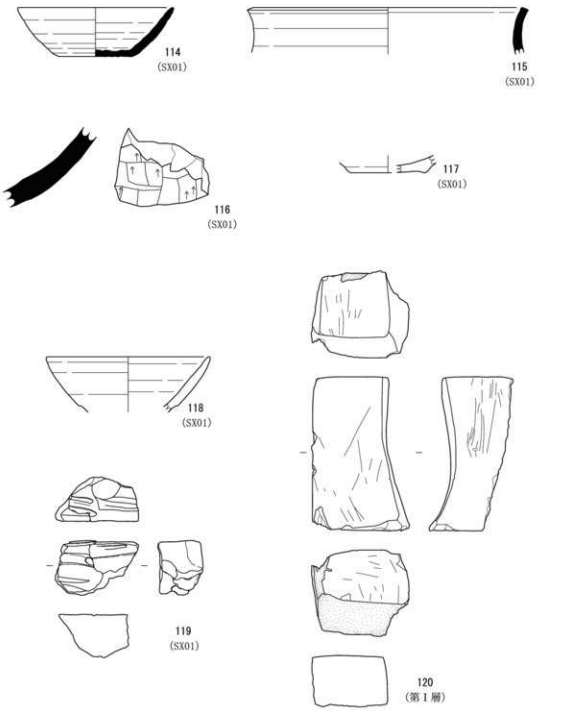
第 53 図　A区遺構内出土遺物②



第 54 図　Ａ区遺構内出土遺物③



第 55 図　Ａ区遺構内出土遺物④



第 56 図　Ａ区遺構内・遺構外出土遺物

第４章　まとめ

第１節　各遺構の年代について

大又Ⅱ遺跡では、調査対象地を南北に縦断する排水路を境に、東側の調査地をＡ区、南側の調査地をＢ区として調査を実施した。調査対象地は、周囲との比高が約１ｍある島状の地形であり、岩見川の自然堤防が川の氾濫や土取り、耕作地の整備などに起因する大規模な削平を受け分断された場所と考えられる。また、近現代の造成土（第Ⅰ層）直下に地山（第Ⅲ－１層）があることが多く遺物包含層が確認されないなど、面的な削平も受けている。さらに、近現代の耕作に起因する畝跡等の撹乱も多い。

調査の結果検出した遺構は、Ａ・Ｂ区を合わせた調査区全体で掘立柱建物跡（ＳＢ）７棟、柱列塀（ＳＡ）１条、柱列跡（ＳＡ）７条、溝跡（ＳＤ）７条、竪穴状遺構（ＳＩ）１基、土坑（ＳＫ）50 基、ピット（ＳＰ）296 基、性格不明遺構（ＳＸ）１基である（第 10～13 表）。大又Ⅱ遺跡最大の特徴として、調査区を東西に横断する区画施設（ＳＡ01・ＳＤ01）がある。また、ＳＤ01 の埋土からは十和田ａと同定される火山灰が検出されており（別編第２節「テフラ分析」参照）、遺構の年代検討に非常に有効である。各遺構からは、古代の須恵器、土師器、赤褐色土器、フイゴ羽口、鉄滓等の遺物が出土した。以下では、主な遺構について、重複関係や方位、出土遺物の検討を行い、その年代について記述する。

（１）ＳＡ01 柱列塀

ＳＤ01 溝跡と同位置にあり、ＳＤ01 に上部を壊されている。遺構底面に一定間隔で並ぶ柱痕跡（直径 16～35 ㎝、平面形は円形・楕円形）があることから、柱列塀と考えられる。ＳＤ01 構築前に柱が抜き取られることで掘り方埋土（Ｆ～Ｈ層）がほとんど残存せず、また、掘り方埋土出土の遺物がないため遺物から年代を特定することはできない。わずかに見つかった炭化物の放射性炭素年代測定（別編第１節「放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）」参照、以下同じ。）の結果を採用すれば、暦年較正年代の２σ範囲で、試料②（Ｆ・Ｇ層）が 735calAD-775calAD（44.9％）、試料⑤（Ｈ層）が 674calAD-779calAD（76.2％）の値を示したことから、ＳＡ01 の構築年代は８世紀中葉までさかのぼる可能性がある。

Ｅ層はＳＡ01 の材木の抜き取り埋土である。縄文土器（第 51 図 60）と土師器塊（第 51 図 61）が出土した。ＳＡ01 から出土した炭化物の放射性炭素年代測定の結果、複数の試料が縄文時代の年代を示した（試料③・④・⑥・⑧）。これは、ＳＡ01 のような大規模な遺構を構築する際に、当時の地表面より下に包含された炭化物が移動したためと考えられ、Ｅ層出土の縄文土器も同様に混ざり込んだものと解釈できる。立ち上がりが緩やかな土師器塊は９世紀後半以降に位置付けられる（註１、以下、遺物の年代比定における「～に位置付けられる」の表記は、「～の」と表記する）。したがって、ＳＡ01 の廃絶年代は９世紀後半以降と考えられる。

（２）ＳＤ01 溝跡

ＳＡ01 柱列塀の材木を抜き取り、その凹みを利用して構築された区画溝である。性質によって分類した埋土（第３章第３節（１）参照）ごとに検討した年代について、下層から記述する。なお、ＳＤ01 は、①ＳＡ01 の材木を抜き取る（Ｅ層が堆積）→②抜き取りの凹みを利用して構築（掘り方底面をＤ層、掘り方立ち上がりをＣ層で整地）→③十和田ａ火山灰降下前後に徐々にＢ層が堆積→④Ａ層で埋まりきる、という過程を経る。

Ｃ・Ｄ層はＳＤ01 掘り方の整地層である。体部下端外面にケズリがある赤褐色土器坏Ｂ（註２、第 51 図 58・59）が出土しており、９世紀第２四半期のものである。また、塊形の須恵器（第 51 図 48）や底径が縮小した赤褐色土器坏Ａ（第 51 図 57）が出土しており、９世紀第４四半期のものである。したがって、ＳＤ01 の構築年代にあたるＣ・Ｄ層は、おおむね９世紀第４四半期である。

Ｂ層は十和田ａ火山灰を含むＢ③層前後の層である。塊形の須恵器（第 50 図 31）が出土しており、９世紀第４四半期のものである。また、赤褐色土器皿（第 50 図 43）および底径が小さく粗雑なつくりの赤褐色土器坏Ａ（第 50 図 41・42）は 10 世紀第１四半期のものである。このことから、Ｂ層は 915 年の十和田ａ火山灰降下前後のおおむね 10 世紀第１四半期の堆積土と考えられる。

Ａ層はＳＤ01 の最上層である。底径が非常に小さい赤褐色土器坏Ａ（第 47 図 16）や柱状高台の赤褐色土器坏Ａ（第 47 図 20）が出土しており、10 世紀第２四半期のものである。このことから、ＳＤ01 が埋まりきるのは 10 世紀第２四半期以降と考えられる。

（３）ＳＢ01・02 掘立柱建物跡

柱掘り方の平面形が隅丸方形を呈する掘立柱建物跡である。建物方位の南北方向が北で西に 15～22 度振れる。須恵器甕や赤褐色土器坏Ａの破片が出土した（第 51 図 62～66）。小片のため詳細な時期判定は難しいが、隅丸方形の柱穴は「官」的な要素が強いとされ、後述するようにＳＡ01 柱列塀も「官」的な要素を多分に持つことから、ＳＡ01 と同時期の遺構と考えられる。

なお、検出した掘立柱建物跡７棟を建物方位ごとに分類すると、第 25 表のとおりである。

（４）ＳＢ03 掘立柱建物跡

柱掘り方の平面形が丸形を呈する掘立柱建物跡である。建物方位の南北方向が北で西に 21 度振れる。建物方位はＳＢ01・02 に類似するため同時期の可能性はあるが、出土遺物はなく、年代は不明である。

（５）ＳＢ04～06 掘立柱建物跡

柱掘り方の平面形が丸形を呈する掘立柱建物跡である。建物方位の南北方向が北で西に４～９度振れる。ＳＢ04 から土師器甕の破片が出土した（第 51 図 67）。小片のため詳細な時期判定は難しく、年代は不明である。建物方位はＳＢ01～03・07 と異なる。

（６）ＳＢ07 掘立柱建物跡

柱掘り方の平面形が丸形を呈する掘立柱建物跡である。建物方位の南北方向が北で東に 15 度振れる。出土遺物はなく、建物方位はＳＢ01～06 と異なる。重複関係がＳＤ01 溝跡よりも新しいことから、ＳＤ01 のＡ層が埋まりきった 10 世紀第２四半期以降の遺構と考えられる。

（７）ＳＩ01 竪穴状遺構

床面で確認した粘土範囲から、底部中央に砂粒が付着する土師器甕（第 52 図 74）が出土しており、10 世紀前葉のものである。また、埋土から出土した土師器甕（第 52 図 69）が、ＳＤ01 溝跡のＡ層出土土師器と接合する。これらのことから、ＳＩ01 は 10 世紀前葉には機能しており、ＳＤ01 のＡ層と同時期に埋まったと考えられる。

（８）ＳＫ07～09 土坑

ＳＫ07～09 は、ＳＡ01 柱列塀・ＳＤ01 溝跡が蛇行する場所にある。ＳＫ08・09 は重複関係がＳＤ01 より古く、ＳＫ07 とＳＤ01 の重複関係は不明である。ＳＫ07～09 は、ＳＡ01－Ｐ１～３と対に位置することから、ＳＡ01 と同時期に存在した可能性がある。ＳＫ08 からは多くの遺物が出土しており、体部下端外面にケズリがある赤褐色土器坏Ｂ（第 53 図 86）は９世紀第２四半期、塊形の須恵器（第 53 図 77）や底径が縮小した赤褐色土器坏Ａは９世紀第４四半期のものである。出土遺物の特徴は、ＳＤ01 のＣ・Ｄ層に類似する。これらのことから、ＳＡ01 と併存するＳＫ07～09 は、ＳＡ01 廃絶後にいったん埋められ、９世紀第４四半期のＳＤ01 構築にあたって壊されたと考えられる。

（９）ＳＸ01 性格不明遺構

底面に溝状の落ち込みがある遺構である。重複関係がＳＤ01 より新しい。ＳＤ01 がＡ層で埋まりきった 10 世紀第２四半期以降の遺構と考えられる。

第２節　遺構の変遷と特徴について

第１節の年代検討を踏まえ遺構の変遷をまとめると、大又Ⅱ遺跡は、Ⅰ期からⅢ期までの３区分に分けることができる（第26表）。

（１）Ⅰ期（８世紀中葉？～９世紀第３四半期）（第57図）

ＳＡ01柱列塀が構築され、廃絶されるまでの時期である。先述したように、ＳＡ01掘り方埋土からの出土遺物はなく、放射性炭素年代測定の結果を積極的に採用すれば、８世紀中葉までさかのぼる時期である。ＳＡ01は底面で直径16～35 cmの円形および楕円形の柱痕跡を一定間隔で検出した柱列塀である。壁は全ての場所で垂直に立ち上がるなど、規格性を持って構築されたことが窺える。検出面からの深さは約 1.1m以上あり、調査地が面的に削平されていることを考えると、当時の地表面からはさらに深く掘り込まれている。さらに、調査区中央を南北に縦断する排水路部分にもＳＡ01が続いていたとすると、確認できたＳＡ01の総延長は約110mを測る。これほど大規模で規格的な柱列塀は秋田平野では秋田城以外でほとんど類例がなく、律令国家側の秋田城に関係する集団が関係していると推察される。

同時期の遺構には、ＳＢ01・02掘立柱建物跡およびＳＫ07～09土坑がある。ＳＢ01・02は柱掘り方の平面形が隅丸方形を呈する。隅丸方形の掘り方を持つ掘立柱建物は「官」的な要素が強いとされるが、それを考慮すると、同じく「官」的な要素を持つＳＡ01と併存する可能性が高い。なお、ＳＢ02は、桁行の柱掘り方の配置が特殊な掘立柱建物跡であり、桁行の中央にあるＰ３・９は、間仕切り的な機能を持つ可能性がある。

ＳＫ07～09はＳＡ01が蛇行する場所に位置し、対になるようにＳＡ01-Ｐ１～３がある。これらの遺構が柱列塀の上部構造に関係するとすれば、「櫓」のような施設の基礎構造とも考えられ、Ａ区西端のＳＡ01-Ｐ４についても、何らかの特殊な上部構造に伴う掘り込みの可能性がある。また、ＳＡ01には蛇行する場所が他にもあるが（グリッド軸のＬＳ列からMA列の間）、この区間の埋土は他とは異なり砂質で（H層）、底面では柱痕跡が検出されなかった。放射性炭素年代測定の結果では、暦年較正年代の２σ範囲で、試料⑤（H層）が674calAD-779calAD（76.2%）の値を示しており、この値を採用すれば、ＳＡ01構築時に材木を立てずに砂質土で埋めたと解釈できる。このことから、この区間は集落への出入口として使われ、柱列塀が途切れる場所だった可能性も考えられる。

以上のように、背後の山と柱列塀に囲まれ、内部に掘立柱建物がある集落がⅠ期の景観である。

（２）Ⅱ期（９世紀第４四半期～10世紀第１四半期・第２四半期）（第58図）

ＳＤ01溝跡が構築され、廃絶されるまでの時期である。ＳＡ01とＳＤ01の一連の断面形は漏斗形を呈するが、立ち上がりの角度が変化する辺りに、ＳＡ01柱列塀の材木を抜き取り、ＳＤ01を構築する際にできたと考えられるテラス状の平坦面があり、部分的に工具痕を確認できる（第19図）。これは、少なくとも２方向から掘り進めた結果と考えられる。埋土のＢ層は自然堆積層で、中～下位には十和田ａ火山灰が混じるＢ③層がある。その上層のＡ④層は層厚が薄い黒褐色の水性堆積層であり、この時期になってもＳＤ01は開口していたことが分かる。さらに上層のＡ②層からは鉄滓やフイゴ羽口、被熱した礫などが出土しており、グリッド軸のMB列からMF列の間で特に顕著であった。椀形鍛冶滓や金床石と考えられる礫もあることから、周辺では小鍛冶が行われており、不要物である鍛冶関連遺物を廃棄した可能性がある。このことと出土遺物の年代から、ＳＤ01の構築は９世紀第４四半期で、十和田ａ火山灰が降下した後も開口した状態で機能しており、10世紀第２四半期以降に人為的に埋められたと考えられる。

ＳＩ01竪穴状遺構は、床面付近で出土した砂底土器の年代から、10世紀前葉には機能していた。また、埋土から見つかった土師器甕がＳＤ01のＡ層出土土師器と接合すること、椀形鍛冶滓やフイゴ羽口が出土するなど埋土の特徴がＳＤ01のＡ層に類似することから、ＳＤ01と同時期に埋まっている。なお、鍛冶関連遺物

が出土することから鍛冶工房の可能性もあるため、床面埋土（６・７層）を４・２・１㎜のフルイにかけたが、鍛造剥片は確認できなかった。

以上のように、Ⅰ期のＳＡ01柱列塀からＳＤ01溝跡に区画施設の形態が大きく変わり、竪穴状遺構がある集落がⅡ期の景観であり、集落内もしくは周辺で小鍛冶が行われたと推察される。

なお、ＳＤ01のＡ～Ｄ層から出土した赤褐色土器坏、ＳＤ01Ａ層およびＳＩ01から出土した鉄滓の法量は第21～24・27～31表のとおりである。

（３）Ⅲ期（10世紀第２四半期以降、11～12世紀代か？）（第59図）

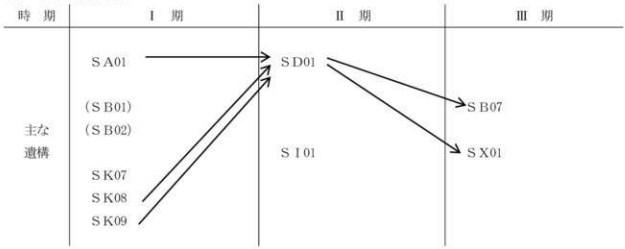
ＳＤ01溝跡が埋まりきった後の時期である。最上層のＡ層の上位には、炭化物や鉄滓等が混じるＡ②層があり、それより上の層は堆積状況から人為的に埋められたと考えられる。ＳＤ01のＡ層出土遺物の年代は10世紀第２四半期であるが、放射性炭素年代測定の結果、暦年較正年代の２σ 範囲で、試料⑨（Ａ②層）が1035calAD-1170calAD（95.4%）の値を示した。この値を採用すれば、ＳＤ01が最終的に埋め立てられたのは、11～12世紀の可能性がある。つまり、10世紀第２四半期にⅡ期集落が廃絶したが、その後しばらくの間当該地は利用されず、埋まりかけていたＳＤ01やＳＩ01を11世紀以降に整地し土地利用が再開された可能性も考えられる。

同時期の遺構には、重複関係でＳＤ01より新しいＳＢ07掘立柱建物跡・ＳＸ01性格不明遺構がある。また、調査区内で検出した数多くのピットもこの時期に含まれる可能性があり、今後検討を要する。

第25表　方位による掘立柱建物跡の分類

分　類	遺構名	南北方向の建物方位
Ａ群	ＳＢ01、ＳＢ02、ＳＢ03	北で西に15～22度振れる
Ｂ群	ＳＢ04、ＳＢ05、ＳＢ06	北で西に４～９度振れる
Ｃ群	ＳＢ07	北で東に15度振れる

第26表　遺構変遷図



第 57 図　遺構変遷図（１期）

第58図　遺構変遷図（Ⅱ期）

第59図　遺構変遷図（Ⅲ期）

第27表　ＳＤ01出土赤褐色土器（坏）口径統計一覧

	A層	B層	C・D層
平均（cm）	12.37	13.69	13.08
標準偏差	1.50	1.39	1.25
最大値（cm）	15.0	17.0	16.0
最小値（cm）	9.0	11.0	10.0
計測点数	33	43	92

第28表　ＳＤ01出土赤褐色土器（坏）底径統計一覧

	A層	B層	C・D層
平均（cm）	5.78	6.04	5.99
標準偏差	0.95	0.83	0.44
最大値（cm）	7.0	8.0	7.0
最小値（cm）	4.4	5.0	4.8
計測点数	26	16	26

第29表　ＳＤ01出土赤褐色土器（坏）口径別個体数一覧

口径（cm）	A層		B層		C・D層		計	
	個体数	計測点数	個体数	計測点数	個体数	計測点数	個体数	計測点数
9.0～9.9	0.17	1	0.00	0	0.00	0	0.17	1
10.0～10.9	0.38	4	0.00	0	0.73	2	1.11	6
11.0～11.9	0.32	4	0.08	1	0.63	5	1.03	10
12.0～12.9	2.07	7	1.23	8	2.61	24	5.91	39
13.0～13.9	1.70	9	2.28	13	3.32	27	7.30	49
14.0～14.9	0.56	7	1.81	12	2.73	27	5.10	46
15.0～15.9	0.03	1	0.18	2	0.13	2	0.34	5
16.0～16.9	0.00	0	0.45	6	0.53	5	0.98	11
17.0～17.4	0.00	0	0.07	1	0.00	0	0.07	1
計	5.23	33	6.10	43	10.68	92	22.01	168

※計測不能の小片は集計の対象外とした。
※口縁部計測法（宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集）により個体数を算出した。

第30表　ＳＤ01Ａ層出土鉄滓集計表

	磁着あり	磁着ややあり	磁着なし	計
重量(g)	1,556	5,464	7,482	14,502
点数	55	61	125	241

※１g未満の小片は集計の対象外とした。

第31表　ＳＩ01出土鉄滓集計表

		磁着あり	磁着ややあり	磁着なし	計
1層	重量(g)	64	0	350	414
	点数	3	0	9	12
2層	重量(g)	0	0	149	149
	点数	0	0	6	6
P21	重量(g)	0	2	0	2
	点数	0	1	0	1
計	重量(g)	64	2	499	565
	点数	3	1	15	19

※1g未満の小片は集計の対象外とした。

第３節　古代地域社会における大又Ⅱ遺跡の位置づけについて

前節でまとめたような特徴をもつ大又Ⅱ遺跡の秋田平野の古代地域社会における位置づけについて、秋田平野およびその周辺地域の遺跡との比較や文献史料との対比を行い、整理したい。

（１）大又Ⅱ遺跡の文献史料上の「村落名」について

『日本三代実録』に記される元慶の乱（878）の時期における「村落名」、すなわち、秋田城下の反乱勢力である「賊地十二村」、帰属勢力である「向下俘地三村」の比定地が文献史学の立場から示されている（新野直吉 1968、1971、1982、熊田亮介 1986、第 60 図）。これらの先行研究によれば、向下俘地三村の「添河」は旭川流域、「覇別」は太平川流域、「助川」は岩見川流域と比定されている。このような文献史学の立場から比定された村落名については、古代（奈良・平安時代）の「周知の埋蔵文化財包蔵地」の分布からみた分析からも支持され得るものである（神田 2005・2007）。

以上のように、岩見川左岸に位置する大又Ⅱ遺跡は、元慶の乱期には「助川」と呼ばれる「村落」の一部に該当する可能性が高い。

第 60 図　元慶の乱関係図
（熊田 1986）

（２）大又Ⅱ遺跡の遺構変遷と存続期間について

前節でみたように、大又Ⅱ遺跡については、Ⅰ期（８世紀中葉？～９世紀第３四半期）、Ⅱ期（９世紀第４四半期～10 世紀第１四半期・第２四半期）、Ⅲ期（10 世紀第２四半期以降、11～12 世紀代か？）という変遷がある。Ⅰ期は区画施設がＳＡ01 柱列塀である段階、ＳＢ01･02 のような柱掘り方が隅丸方形の掘立柱建物が伴う、「官」的な要素の強い集落である。このⅠ期の区画施設である柱列塀は、柱痕跡から直径 16～35cm と推定される丸材を用いている。Ⅱ期の区画施設は、同位置に幅約２ｍの大溝（ＳＤ01）として作り直されているが、Ⅰ期の柱列塀の柱は悉く抜き取りが行われている。Ⅱ期に伴う遺構は、Ｓ１01 竪穴状遺構などで、小鍛冶等を行っている。Ⅰ期とは異なり「官」的な要素は顕著ではない。Ⅲ期は区画施設である溝跡を完全に埋め立て、柱掘り方が丸形の掘立柱建物を伴う。

このように、大又Ⅱ遺跡では、推定ではあるがその開始期は８世紀代にさかのぼり、出土遺物からみれば、９世紀後半から 10 世紀前半までが主要な時期である。このような大又Ⅱ遺跡の存続期間を秋田平野全体の中でみてみると、秋田平野南部の古代集落遺跡の動向と基本的には一致する（第 32 表、神田 2005・2007）。秋田平野および秋田の周辺域における古代集落遺跡の変遷は、八郎潟周辺および秋田平野北部では、８世紀第２四半期～第３四半期に集落が散見されるようになり、８世紀第４四半期以降に増加する。この地域ではこの傾向は９世紀第３四半期まで継続するものの、９世紀第４四半期以降は遺跡数が減少し、10 世紀中葉以降はさらに激減する。９世紀第３四半期と第４四半期の間で古代集落遺跡数が大きく変動するのは、元慶の乱(878)が大きな契機となっていると推定されている。一方、秋田平野南部は、８世紀第２四半期～第３四半期は集落遺跡がほとんどなく、集落遺跡が展開するのは８世紀第４四半期以降である。この地域は、先の地域とは対照的に、９世紀第４四半期以降に集落遺跡が増加する傾向にある。

以上のように、このような古代集落遺跡の動向と比較すると、大又Ⅱ遺跡は基本的には、秋田平野南部地域の動向と一致し、元慶の乱（878）を経ても集落が同位置地点で継続する遺跡である。大又Ⅱ遺跡の開始期は出土遺物がほとんどないため不明な点が多いが、^{14}C 年代暦年較正年代の２σ 範囲で、ＳＡ01 柱列塀掘り方埋土（Ｆ・Ｇ層）の試料②で 735calAD-775calAD（44.9%）、ＳＡ01 柱列塀掘り方埋土（Ｈ層）の試料⑤で 674calAD-779calAD（76.2%）の値が示されており、ＳＡ01 柱列塀の構築年代は、８世紀中葉までさかのぼる可能性が示唆され、当該期における古代地域社会を理解するうえで貴重なデータが得られている。

第 32 表　秋田平野および周辺域における古代集落遺跡の変遷（神田 2007）

	①８世紀第２四半期～８世紀第３四半期	②８世紀第４四半期～９世紀第３四半期	③９世紀第４四半期～10世紀前葉	④10世紀中葉～
八郎潟周辺	・集落遺跡あり	集落遺跡増加 ・生産施設をもつ集落遺跡展開 ・（生産遺跡展開）	・集落遺跡減少	・集落遺跡激減
秋田平野北部	・集落遺跡あり（秋田城周辺のみ） ・（生産遺跡展開）	・集落遺跡増加 ・（生産遺跡増加）	・集落遺跡減少 ・（生産遺跡減少）	・集落遺跡激減
秋田平野南部	・なし	・集落遺跡展開	・集落遺跡増加 ・生産施設をもつ集落遺跡展開	・集落遺跡激減

（３）大又Ⅱ遺跡における各時期の遺構の位置づけについて

上述のように、大又Ⅱ遺跡は、Ⅰ期～Ⅲ期の変遷があるが、各時期の遺構内容は大きく異なっている。以下、各時期の遺構内容からみた古代地域史における位置づけについて、整理したい。

①Ⅰ期遺構（８世紀中葉？～９世紀第３四半期）

先にみたように、大又Ⅱ遺跡のⅠ期遺構は、開始期の遺物はほとんどないため、不明であるが ^{14}C 年代測定の暦年較正年代の結果からみて、８世紀中葉と推定した。Ⅰ期遺構を特徴づけるのは、ＳＡ01 柱列塀である。このＳＡ01 柱列塀は、布掘り幅が 45cm、深さは 1.1m 以上あり、柱痕跡から材は直径 16～35cm の丸材であることがわかっている。このような柱列塀は、調査区の東から西端まで約 110mにわたり確認されている。調査区外の部分は、過去の造成により既に削平されてしまったため、柱列塀の延長は把握することができないが、おそらくはもっと広大な範囲であったと考えられる。大又Ⅱ遺跡の 340m 南には、丘陵上に「山崎山遺跡」（縄文・平安）が所在する（第 61 図）。大又Ⅱ遺跡は、「山崎山遺跡」のある丘陵を含む一体が、本来の遺跡の範囲であった可能性がある。また、ＳＡ01 柱列塀は、屈曲する部分が２箇所あり、櫓等の構築物や出入口の可能性がある（本章第２節参照）。こうした柱列塀の内側（南側）には、柱掘り方が隅丸方形のＳＢ01・02 掘立柱建物跡等が配置される。これらの今回発見された区画施設の内側の遺構も、本来はさらに南側にも展開していた可能性があり、調査で発見されたものはその一部であろう。

当該期の出土遺物には、墨書土器等の文字資料はないものの、赤褐色土器坏Ｂが３点出土している（第 51 図 58・59、第 53 図 86）。体部下端にケズリ調整を施す赤褐色土器坏Ｂは、掘立柱建物跡のみで構成される「官」的な要素の強い遺跡で出土する傾向がある（神田 2010）。

このような内容をもつ大又Ⅱ遺跡のⅠ期遺構は、総じて「官」的な要素が強い。周辺では、「官」的な要素の強い遺跡として、御所野台地の深田沢遺跡（秋田市教育委員会 1985）がある。深田沢遺跡は、８世紀第４四半期～９世紀第３四半期の掘立柱建物跡を主体とする集落遺跡であるが、大又Ⅱ遺跡のような大規模な区画施設は発見されていない。少なくとも東西に 110m にわたり確認された大規模な柱列塀は、大又Ⅱ遺跡Ⅰ期遺構を特徴づけるもので、秋田平野および周辺域で規模・構造が類似する区画施設をもつ遺跡は、秋田城以外では五城目町石崎遺跡のみであろう（門間 1968、加藤・高橋 1971、五城目町教育委員会・石崎遺跡発掘調査団 1975）。

石崎遺跡は、八郎潟東岸の南秋田郡五城目町大川下樋口に所在し、柵列、柱掘、墨書土器、陶硯、木製品

第 61 図　大又Ⅱ遺跡とその周辺地形

等が 1967・1972・1973 年の発掘調査によって発見されている。石崎遺跡は、一辺が 400～564m の方形施設であると推定され、その遺構構成から「秋田郡衙」に比定されている（五城目町教育委員会・石崎遺跡発掘調査団 1975）。石崎遺跡で注目すべき遺構は「柵列跡」である。調査報告書では図面等の提示がなく詳細は不明であるが、石崎遺跡の「柵列跡」は二種類あり、一つは「直径、10 センチメートルから 30 センチメートルの丸柱を、鞘柵風に植え込んだもの」であり、もう一つは「１面が 30 センチメートルの巾の角材を、礎板の上に直立せしめ、２メートル乃至は、中間が抜かれて 5.50 メートル離れて一直線に据え置かれる大垣風柵列跡」である（五城目町教育委員会・石崎遺跡発掘調査団 1975：p. 7）。前者のタイプの柵列跡と考えられる遺構は、五城目町指定史跡の「石崎遺跡　柵列柱脚」として、露出展示されている（写真１）。露出展示されている柱は、直径 30 ㎝を超える丸材である。

石崎遺跡の「柵列跡」に関する詳細は不明であるが、大又Ⅱ遺跡におけるＳA01 柱列塀に規模・構造が最も類似する遺構は、現段階でこれ以外に存在しない。すなわち、大又Ⅱ遺跡のＳA01 柱列塀は、石崎遺跡の２種類の「柵列跡」のうち、前者の直径 10～30 ㎝の丸太材を用いた「鞘柵風柵列跡」が最も近い類例である。石崎遺跡の「柵列跡」等の詳細な年代については分からないが、少なくとも大又Ⅱ遺跡では９世紀第３四半期まで存続し、元慶の乱（878）後の９世紀第４四半期に区画施設がⅠ期の柱列塀からⅡ期の大溝に大きく変貌する点は、古代の地域史にとって極めて重要な点である。

石崎遺跡と大又Ⅱ遺跡で、異なっている点を挙げるとすれば、柱列塀の材木が遺存しているか否かであろう。石崎遺跡では、五城目町指定史跡「石崎遺跡　柵列柱脚」にみられるように、「柵列跡」の材が遺存していた。その結果、昭和 30 年代の水田区画整理で発見され古くから知られていた遺跡であった。一方、大又Ⅱ遺跡のＳA01 柱列塀は、柱材が悉く抜き取られており、今日まで発見されることがなかった、と言えるだろ

う。石崎遺跡では柱材が遺存し、大又Ⅱ遺跡では柱材は人為的に悉く抜き取られたという点は、各遺跡の廃絶の違いに起因する。なぜ、大又Ⅱ遺跡では柱列塀の柱材をすべて抜き取ったのかという点については、今後の課題である。

写真１　「石崎遺跡 柵列柱脚」近景

②Ⅱ期遺構（９世紀第４四半期～10 世紀第１四半期・第２四半期）

前節で検討したように、大又Ⅱ遺跡のⅡ期遺構は、出土土器の特徴から、９世紀第４四半期～10 世紀第１四半期と推定された。またＳD01 溝跡の最上層埋土（A層）の出土遺物も当該期に含めれば、10 世紀第２四半期までとなる可能性がある。Ⅱ期遺構の特徴は、区画施設がⅠ期のＳA01 柱列塀から、ＳD01 溝跡に変容する点である。このＳD01 溝跡は幅が約２mの「大溝」ともいえる規模である。あたかもＳA01 柱列塀の柱を悉く抜き取った跡の穴を整形し、大溝として利用したかのようである。こうしたＳD01 溝跡（大溝）の内部には、竪穴状遺構が１基発見されており、底部に砂が付着する土師器甕の「砂底土器」（第 52 図 74、櫻田 1993）が出土し、鉄滓等の鍛冶関連遺物が出土している。

このような大又Ⅱ遺跡のⅡ期遺構の様相は、同じ秋田平野南部の戸島上野Ⅰ遺跡（旧名称：上野遺跡、秋田県教育委員会 2000）と類似している（註３）。戸島上野Ⅰ遺跡（上野遺跡）は、岩見川左岸の河岸段丘上に位置し、大又Ⅱ遺跡から東南東に３km の地点に位置する。戸島上野Ⅰ遺跡（上野遺跡）では、集落が立地する台地縁辺に幅 0.6～1.0m、深さ 30～70cm の溝跡が巡り、竪穴建物跡と掘立柱建物跡が検出されている。竪穴建物跡からは、鉄鋤などの鉄製品や鉄滓が出土し、鍛冶を行っていたと考えられる。また、ＳＩ27 竪穴建物跡からは、全面に砂が付着する「砂底土器」が出土している。大又Ⅱ遺跡および戸島上野Ⅰ遺跡（上野遺跡）出土の「砂底土器」は、北緯 40 度以北の秋田県北部で多く出土する土器であり（櫻田 1993）、当該地に飛び地的に出土している。戸島上野Ⅰ遺跡（上野遺跡）の年代は、９世紀第４四半期～10 世紀前葉であり（神田 2005・2007）、大又Ⅱ遺跡のⅡ期遺構と同時期である。

以上のように、大又Ⅱ遺跡のⅡ期遺構は、Ⅰ期の「官」的な要素が強い時期と比べ大きく様相が異なっており、竪穴状遺構で小鍛冶等を行い周辺の同時期の古代集落の動向と類似した特徴がみられる。

③Ⅲ期遺構（10 世紀第２四半期以降、11～12 世紀代か？）

大又Ⅱ遺跡のⅢ期遺構は、Ⅱ期のＳD01 溝跡（大溝）が埋め立てられた後の遺構であり、Ⅰ・Ⅱ期を通して特徴的であった区画施設を埋め立てており、集落の様相は大きく変貌する。切り合い関係から明確にⅢ期遺構と言えるのは、ＳD01 溝跡が埋め立てられた後に構築されたＳB07 掘立柱建物跡とＳX01 性格不明遺構のみである。

ＳD01 溝跡最上層の埋土（A層）からの出土土器の特徴は 10 世紀第２四半期であると考えられた。したがって、Ⅲ期遺構の形成は、10 世紀第２四半期以降であると言えるが、ＳD01 溝跡最上層埋土（A層）の出土遺物には、フイゴ羽口や鉄滓が多く共伴していることから、出土遺物の内容としてはⅡ期遺構の時期に使用されたものと同種のものであり、Ⅱ期遺構で使用されたものがＳD01 溝跡の最上層に廃棄されているものと考えられる。したがって、前述のⅡ期遺構の存続期間は、10 世紀第１四半期ではなく、10 世紀第２四半期にまで下る可能性はある。

Ⅲ期遺構は、区画施設であるＳＤ01 溝跡を埋め立て、整地した後に当該地を利用した時期であると言えるが、10 世紀後半以降の年代に比定できる出土遺物はなく、詳細は不明である。しかし、ＳＤ01 溝跡最上層埋土（Ａ層）の炭化物の ^{14}C 年代測定による暦年較正年代は、２σの値で 1035calAD-1170calAD で、ＳＤ01 溝跡最上層埋土（Ａ層）の出土遺物は 10 世紀第２四半期であるが、実際に埋め立てられたのは 11～12 世紀の可能性がある。

大又Ⅱ遺跡の近隣には、東北東に 1.5km の地点に虚空蔵大台滝遺跡（秋田県教育委員会 2007）がある。虚空蔵大台滝遺跡は、岩見川右岸の台地上に立地し、虎口・切岸・空堀・掘立柱建物跡・礎石建物跡・テラス状遺構などが検出され、東西約 450m、南北約 300m に広がる平安時代後期の大規模な城館である。遺跡の年代は出土遺物の灰釉陶器および小かわらけ等から、11 世紀中葉から後葉と考えられている（利部 2008）。虚空蔵大台滝遺跡は、横手市大鳥井山遺跡（横手市教育委員会 2009）と同時代の遺跡であり、清原氏が台頭し、後三年合戦・前九年合戦の時代である。11 世紀代は、このように清原氏の台頭により秋田が再編される時代であり、大又Ⅱ遺跡のⅢ期遺構はこのような影響をうけ形成された可能性がある。

（４）大又Ⅱ遺跡の文献史料における位置づけ

以上のようなⅠ～Ⅲ期の変遷をもつ考古学的な特徴をもつ大又Ⅱ遺跡について、関連するであろう文献史料での代表的な記事として次の３つをあげておきたい（註４）。

史料１

天平宝字三年（七五九）九月二十六日己丑（続日本紀 巻二十二）

勅す、「陸奥国の桃生城・出羽国の雄勝城を造る。役せられし郡司・軍毅・鎮兵・馬子・合せて八千百八十人、去る春月より秋季に至るまで、既に郷土を離れて産業を顧みず。朕茲念う毎に情に深く矜憫む。宜しく今年の負うところの人身の挙稅を免ずべし」と。始めて出羽国の雄勝・平鹿二郡と、玉野・避翼・平戈・横河・雄勝・助河并びに陸奥国の嶺基等の駅家を置く。

史料２

延暦二十三年（八〇四）十一月二十二日癸巳（日本後記 巻十二）

出羽国言す、「秋田城は建置以来四十余年なり。土地塉确にして五穀宜しからず北隅に独居し、相救に隣り無し。伏して望むらくは永く停廃に従い、河辺府を保たん」てえり。宜しく城を停めて郡と為し、土人・浪人を論ぜず、彼の城に住む者を以て編附すべし。

史料３

元慶二年（八七八）六月七日辛未（日本三代実録 巻三十三）

出羽国守藤原朝臣興世飛駅して奏言す、「権掾小野春泉・文室有房ら秋田営に在り。去る四月十九日、最上郡の俘人領伴貞道・俘魁玉作宇奈麿を遣わして、官軍五百六十人を将いて、賊類の形勢を須候しむ。路に賊三百余人と遇いて合戦し、賊を射て傷つくるは十九人、官軍の傷を被るは七人なり。貞道は流れ矢に中りて死せり。二十日賊衆増加し、相敵すべからず。暮れに会いて戦い罷み、軍を引きて営に還る。・・・

史料１は、多賀柵（後の多賀城、神亀元年・724 年創建）と出羽柵（後の秋田城、天平５年・733 年創建）の中継地点である雄勝城造営に関係する者の挙稅を免ずる史料であるが、それに付随して雄勝郡・平鹿郡と６つの駅家を設置したことが記されている。このうち、「助河」駅家は本節の（１）でみたように、岩見川流域の一帯は元慶の乱期（878）は同様に「助川」と呼ばれていた可能性があると考えられることから、大又Ⅱ遺跡はこの史料と無関係ではないだろう。現在のところ、岩見川流域で８世紀後半に存続している遺跡は右岸の御所野台地の下堤Ｃ遺跡、深田沢遺跡しか存在しておらず、これらの遺跡の開始期は８世紀第４四半期であり（神田 2005・2007）、当該史料の天平宝字三年（759）までは遡り得ない。これらの遺跡と比較しても、柱列塀を伴う大又Ⅱ遺跡のⅠ期遺構は、これらの遺跡よりも「官」的な要素が強く大規模であること、Ⅰ期

遺構の柱列塀跡の構築年代を示す ^{14}C年代の暦年較正年代では、８世紀中葉にまで届く年代値が示されており、これらの特徴を積極的に評価すれば、大又Ⅱ遺跡は「助川」駅家の有力候補地となるだろう。

史料２にみられる記事の内容と「河辺府」については、先行研究において様々な見解が出されており、現在もなお議論が続けられている。史料２の「河辺府」を①河辺郡の「河辺郡府」とみる見解（今泉 1995、熊谷 2021）、②払田柵跡とする見解（新野・船木 1990）、③仁和三年（887）五月二十日癸巳（日本三代実録 巻五十）の条にある出羽郡井口の国府とみる見解（吉田 1907、喜田 1923、平川 1977）、④天平５年（733）に高清水岡に移転した出羽柵（後の秋田城）とみる見解（高橋 1971）、などがある。

これまで見てきたように、大又Ⅱ遺跡の立地、Ⅰ期遺構の内容、周囲が削平を受ける前の遺跡の規模などを考えると「河辺郡衙」の可能性も考えられる。そして、史料２の「河辺府」を①の見解を採用した場合、大又Ⅱ遺跡がこの文献史料に関わる遺跡となる可能性がある。この点については、「河辺府」が何を指すのかという文献史学上の問題もあるが、今後の検討課題である。

史料３は、元慶二年（878）に勃発した夷俘の反乱について戦況を伝えるものである。この記事により、当初に反乱軍が秋田城を占拠し、政府軍は秋田城を放棄し「秋田営」というところに退いていることがわかる。この「秋田営」について、熊田氏は「雄物川河口南岸にあったと推定され、一般に臨時に置かれた軍事的屯営とみられているが、むしろ野代営とともに水陸あわせた交通の要衝に置かれた恒常的施設とみるべき」との見解を示している（熊田 2004）。確かに、元慶の乱の戦況の推移をみれば、秋田営を臨時的に急遽造営したとは考えにくく、既にあった施設に退き、「秋田営」と呼んだ可能性がある。雄物川河口南岸ではなく岩見川南岸ではあるが、大又Ⅱ遺跡は熊田氏が推定するような「秋田営」の諸条件を満たすものである。また、大又Ⅱ遺跡は元慶の乱（878）を境に、Ⅰ期遺構からⅡ期遺構へと大きく変化している。以上のような点から、大又Ⅱ遺跡は元慶の乱期の「秋田営」と呼ばれた施設の候補地である可能性も指摘しておきたい。

おわりに

秋田市雄和田草川字大又地内に所在し、岩見川左岸の自然堤防上に立地する大又Ⅱ遺跡を、農地集積加速化基盤整備事業に伴う発掘調査を行い、以下のような成果を得た。

①掘立柱建物跡（ＳＢ）７棟、柱列塀（ＳＡ）１条、柱列跡（ＳＡ）７条、溝跡（ＳＤ）７条、竪穴状遺構（ＳＩ）１基、土坑（ＳＫ）50 基、ピット（ＳＰ）296 基、性格不明遺構（ＳＸ）１基を検出した。このうち、遺跡の東西を横断するように検出されたＳＡ01 柱列塀跡と同位置に作り替えられたＳＤ01 構跡の区画施設は、本遺跡を特徴づける遺構である。

②大又Ⅱ遺跡は、古代（奈良・平安時代）の集落跡であり、Ⅰ期（８世紀中葉？～９世紀第３四半期）、Ⅱ期（９世紀第４四半期～10 世紀第１四半期・第２四半期）、Ⅲ期（10 世紀第２四半期以降、11～12 世紀代か？）という３時期の変遷が確認された。

③各期の遺構内容は、大きく異なっている。Ⅰ期は区画施設がＳＡ01 柱列塀である段階で、ＳＢ01・02 のような柱掘り方が隅丸方形の掘立柱建物が伴う。このⅠ期の区画施設である柱列塀は、柱痕跡から直径 16～35cm と推定される丸材を用いている。Ⅱ期の区画施設は、Ⅰ期の柱列塀の柱は悉く抜き取り、同位置に幅約２ｍの大溝（ＳＤ01）として作り直している。Ⅱ期に伴う遺構は、ＳＩ01 等の竪穴状遺構等で、小鍛冶等を行っている。Ⅲ期は区画施設である溝跡を完全に埋め立て、柱掘り方が丸形の掘立柱建物を伴う。

④Ⅰ期遺構は、秋田県南秋田郡五城目町の石崎遺跡と比較できるような、「官」的な要素が強い。Ⅱ期遺構は、戸島上野Ⅰ遺跡（上野遺跡）などの遺跡と類似した性格をもつ。Ⅲ期遺構の構築年代は不明な点が多いが、近隣の虚空蔵大台滝遺跡と同時期の 11 世紀代まで下る可能性がある。

⑤文献史料に出てくる「助川」村落の一部にあたる可能性が高く、また、天平宝字年間（８世紀中葉）に設

置された「助河駅家」、延暦23年（804）の文献史料にみられる「河辺府」、元慶の乱（878）時に政府軍が一時的に退却したとされる「秋田営」とも無関係ではないだろう。このような文献史料と考古学的調査成果との対比については、今後さらに詳細な検討を行っていきたい。

註１：これ以降における古代出土土器の年代比定は、以下一連の秋田城跡出土土器編年成果に基づき記述する。

小松正夫 1992「秋田城とその周辺地域の土器様相（試案）－第54次調査の木簡・漆紙文書併出土器を中心にして－」『第18回古代城柵官衙遺跡検討会資料』pp. 139-144

伊藤武士 1997「出羽における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』７ pp. 32-44

小松正夫・日野久・西谷陸・伊藤武士 1997「秋田城跡出土土器と周辺窯の須恵器編年（試案）」『日本考古学協会 1997年度秋田大会蝦夷・律令国家・日本海－シンポジウムⅡ・資料集－』pp. 18-30

秋田市 2001「第７章 秋田城跡の発掘調査 九 秋田城跡出土の土器編年」『秋田市史 第７巻 古代 史料編』pp. 383-390

秋田市教育委員会 2007「秋田城跡の土器編年」『秋田城跡Ⅱ－鵜ノ木地区－』pp340-345

神田和彦 2010「ケズリのある赤い坏－古代秋田郡域の赤褐色土器坏Ｂ－」『北方世界の考古学』すいれん舎 pp. 187-210

註２：赤褐色土器の呼称と坏Ａ・Ｂの分類については、酸化炎焼成、非内黒、ロクロからの切り離しが回転・静止糸切りのものを赤褐色土器とし、坏類の底部から体部下端および下半にかけてケズリ調整を施すものを坏Ｂ、無調整のものを坏Ａとしている。

註３：報告書刊行時は「上野遺跡」と呼ばれていたが、現在は「戸島上野Ⅰ遺跡」と整理されている。

註４：文献史料の書き下し文については、秋田市2001『秋田市史　第７巻　古代　資料編』に従った。

引用文献

秋田県教育委員会 2000『上野遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』秋田県文化財調査報告書第295集

秋田県教育委員会 2007『虚空蔵大台滝遺跡－**主要地方道秋田御所野雄和線秋田空港アクセス道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－**』秋田県文化財調査報告書第416集

秋田市 2001『秋田市史　第七巻　古代　資料編』

秋田市教育委員会 1985『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書－下堤Ｅ遺跡、下堤Ｆ遺跡、坂ノ上Ｆ遺跡、狸崎Ａ遺跡、湯ノ沢Ｄ遺跡、深田沢遺跡－』

今泉隆雄 1995「秋田城の初歩的考察」『律令国家の地方支配』虎尾俊哉編、吉川弘文館（今泉隆雄 2015『古代国家の東北辺境支配』吉川弘文館、pp. 425-471 に所収）

利部修 2008『出羽の古代土器』同成社

加藤孝・高橋富雄 1971『石崎遺跡』秋田県五城目町石崎部落

神田和彦 2005「秋田平野周辺における集落の様相」『第31回古代城柵検討会資料集』古代城柵官衙遺跡検討会、pp. 113-140

神田和彦 2007「元慶の乱と古代地域社会－秋田平野における古代集落遺跡の分析を中心として－」『考古学談叢』東北大学大学院文学研究科考古学研究室　須藤隆先生退任記念論文集刊行会、pp. 665-694

神田和彦 2010「ケズリのある赤い坏－古代秋田郡域の赤褐色土器坏Ｂについて－」『北方世界の考古学』すいれん舎、pp. 187-210

喜田貞吉 1923 「庄内と日高見」『社会史研究』第9巻第1号・2号（喜田貞吉 1980『喜田貞吉著作集第12巻　斉東史話・紀行文』平凡社、pp. 282–434に所収）
熊谷公男 2021 『秋田城と元慶の乱–外からの視点でみる古代秋田の歴史–』高志書院
熊田亮介 1986 「元慶の乱関係史料の再検討–『日本三代実録』を中心として–」『新潟大学教育学部紀要人文科学編』27(2)（熊田亮介 2003 『古代国家と東北』吉川弘文館 pp. 226–273 所収）
熊田亮介 2004 「第三節　元慶の乱と秋田　一　元慶の乱の勃発」『秋田市史　第一巻　先史・古代通史編』pp. 492–502
五城目町教育委員会・石崎遺跡発掘調査団 1975『石崎遺跡発掘調査報告　第1–第3回合報』
櫻田隆 1993 「『砂底』土器考」『翔古論聚–久保哲三先生追悼論文集』、pp. 353–370
高橋富雄 1971 「秋田城をめぐる諸問題」『日本歴史』281、p1～12
新野直吉 1968 「元慶の乱」『秋大史学』15、pp. 20–39
新野直吉 1971 「「元慶の乱」の史的意義」『歴史』71、pp. 1–12
新野直吉 1982 『秋田の歴史』秋田魁新報社
新野直吉・船木義勝 1990 『払田柵の研究』文献出版
平川南 1977「出羽国府論」『宮城県多賀城跡調査研究所研究紀要』Ⅳ（平川南 2014「文字史料からみた出羽国府論」として『律令国郡里制の実像（上）』吉川弘文館、pp. 156–180に所収）
門間光夫 1968「推定古代郡衙址「石崎遺跡」の調査概報」『秋大史学』（15）、pp. 13–19
横手市教育委員会 2009 『大鳥井山遺跡　第9次・第10次・第11次調査』横手市文化財調査報告第12集
吉田東伍 1907 「出羽國府遷廃考」『歴史地理』10(3)、pp. 1–16

別編　自然科学分析

第１節　放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

大又Ⅱ遺跡（秋田県秋田市）の測定対象試料は，柱列を伴う古代の溝跡から出土した炭化物９点である（第33表）。試料①～⑥は溝を掘り、柱列を立てた際の版築状の埋土、⑦、⑧はその柱を抜き取った後の埋土、⑨は溝廃絶時の埋土から出土した。①～⑧は十和田ａと考えられる火山灰降下前、⑨は降下後と捉えられている。

２　化学処理工程

（１）炭化物①～⑤、⑦～⑨の化学処理

１）メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。

２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」第33表に記載する。

３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

５）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

６）グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

（２）炭化物⑥の化学処理

この試料は、土塊に含まれる炭化物の細片を集めて試料としたが、試料量が十分でないため、通常行う（１）２）のAAA処理を行わず、酸処理のみに留めた。

１）メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。

２）酸処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。処理には1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用い、第33表に「HCl」と記載する。

以下、（１）３）以降と同じ。

３　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

４　算出方法

（１）δ^{13}C は、試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値

である（第33表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（2）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第33表に、補正していない値を参考値として第34・35表に示した。^{14}C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±1σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

（3）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を第33表に、補正していない値を参考値として第34・35表に示した。

（4）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差（1σ＝68.3%）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4%）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下1桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20較正曲線（Reimer et al. 2020）を用い、OxCalv4.4較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第34・35表に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

5　測定結果

測定結果を第33～35表に示す。

試料9点の^{14}C年代は、4840±30yrBP（試料⑧）から930±20yrBP（試料⑨）とかなり大きな幅を持つ。暦年較正年代（1σ）は、最も古い⑧が3646～3538cal BCの間に2つの範囲で示され縄文時代前期に相当（小林編2008、小林2017）、最も新しい⑨が1046～1160cal ADの間に3つの範囲で示され古代に相当する。

試料が出土した遺構は古代に構築され、廃絶したと考えられるのに対して、大幅に古い年代値を示した試料が見られる。また、遺構の変遷から試料①～⑥→試料⑦、⑧→試料⑨という順序が想定され、試料①～⑥と試料⑦、⑧の間の年代差は認められないが、試料①～⑧と試料⑨の前後関係には整合する年代値となっている。十和田aと考えられる火山灰と試料の年代値の関係も矛盾しない。古い炭化物が含まれることについては、溝の掘削や版築に伴う土砂の移動等の土木工事によって、当時の地表面より下層に包含されていた古い時代の炭化物が古代の遺構埋土に含まれることになった可能性がある。

試料の炭素含有率を確認すると、⑥を除く8点はすべて60%を超える十分な値だった。⑥は上述の通り土塊に含まれる炭化物の細片を集めて試料としたが、土と炭化物の境界が明確でなく、土を十分除去できなかった。この試料の炭素含有率は42%と炭化物としては若干低く、また前処理を酸処理のみに留めたことから、測定された炭素の由来に注意を要する。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林謙一 2017 縄文時代の実年代　―土器型式編年と炭素14年代―, 同成社

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), *Radiocarbon* 62(4), 725-757

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

第33表　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C (‰) (AMS)	δ^{13}C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-211486	①	SA01 (LL53 グリッド) F・G層 / 取上げNo.:524	炭化物	AaA	**-24.54 ± 0.20**	**2,440 ± 20**	**73.78 ± 0.22**
IAAA-211487	②	SA01 (LK52 グリッド) F・G層 / 取上げNo.:647	炭化物	AAA	**-23.12 ± 0.20**	**1,320 ± 20**	**84.89 ± 0.24**
IAAA-211488	③	SA01 (MG53・54 グリッド) p-p' 断面 G②層 / 取上げNo.:685	炭化物	AAA	**-24.16 ± 0.23**	**2,460 ± 20**	**73.64 ± 0.22**
IAAA-211489	④	SA01 (MA54 グリッド) ｷｰｷ' 断面 4層 (H層) / 取上げNo.:467	炭化物	AAA	**-23.49 ± 0.19**	**3,900 ± 30**	**61.52 ± 0.19**
IAAA-211490	⑤	SA01 (LT54 グリッド) i-i' 断面 H-i 4層 / 取上げNo.:667	炭化物	AAA	**-20.82 ± 0.22**	**1,260 ± 20**	**85.53 ± 0.24**
IAAA-211491	⑥	SA01(LL52・53 グリッド)b-b' 断面東側 柱痕跡直上 / 取上げNo.:703	炭化物	HCl	**-22.40 ± 0.23**	**2,490 ± 20**	**73.38 ± 0.21**
IAAA-211492	⑦	SA01 (LQ54・55 グリッド) E層 /取上げNo.:469	炭化物	AAA	**-25.73 ± 0.21**	**1,350 ± 20**	**84.51 ± 0.24**
IAAA-211493	⑧	SA01 (LK52 グリッド) E層 / 取上げNo.:646	炭化物	AAA	**-23.73 ± 0.19**	**4,840 ± 30**	**54.78 ± 0.18**
IAAA-211494	⑨	SD01(MB54・55・MC54・55 グリッド) A②層 / 取上げNo.:270	炭化物	AAA	**-22.94 ± 0.20**	**930 ± 20**	**89.08 ± 0.25**

[IAA 登録番号：#B026]

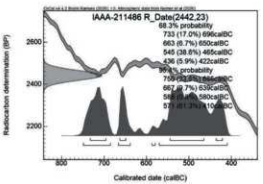
第34表　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）(1)

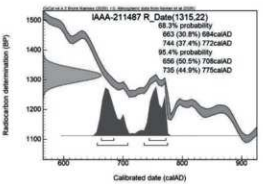
測定番号	δ^{13}C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-211486	2,430 ± 20	73.85 ± 0.22	2,442 ± 23	733calBC - 696calBC (17.0%) 663calBC - 650calBC (6.7%) 545calBC - 465calBC (38.6%) 436calBC - 422calBC (5.9%)	750calBC - 686calBC (23.6%) 667calBC - 639calBC (9.7%) 588calBC - 580calBC (0.8%) 571calBC - 410calBC (61.3%)

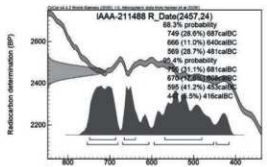
第 35 表　放射性炭素年代測定結果（$\delta^{13}C$ 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）(2)

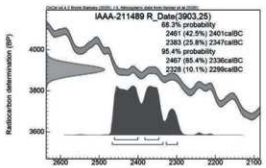
測定番号	$\delta^{13}C$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-211487	1,280 ± 20	85.22 ± 0.23	1,315 ± 22	663calAD - 684calAD (30.8%) 744calAD - 772calAD (37.4%)	656calAD - 708calAD (50.5%) 735calAD - 775calAD (44.9%)
IAAA-211488	2,440 ± 20	73.77 ± 0.22	2,457 ± 24	749calBC - 687calBC (28.6%) 666calBC - 640calBC (11.0%) 569calBC - 481calBC (28.7%)	755calBC - 681calBC (31.1%) 670calBC - 608calBC (17.6%) 595calBC - 453calBC (41.2%) 447calBC - 416calBC (5.5%)
IAAA-211489	3,880 ± 30	61.70 ± 0.19	3,903 ± 25	2461calBC - 2401calBC (42.5%) 2383calBC - 2347calBC (25.8%)	2467calBC - 2336calBC (85.4%) 2328calBC - 2299calBC (10.1%)
IAAA-211490	1,190 ± 20	86.27 ± 0.24	1,255 ± 22	684calAD - 744calAD (63.0%) 793calAD - 799calAD (3.6%) 814calAD - 817calAD (1.7%)	674calAD - 779calAD (76.2%) 787calAD - 829calAD (17.8%) 859calAD - 869calAD (1.4%)
IAAA-211491	2,440 ± 20	73.77 ± 0.21	2,486 ± 22	756calBC - 733calBC (11.0%) 697calBC - 680calBC (8.3%) 671calBC - 664calBC (3.2%) 650calBC - 607calBC (20.7%) 596calBC - 546calBC (25.1%)	770calBC - 539calBC (95.4%)
IAAA-211492	1,360 ± 20	84.38 ± 0.23	1,351 ± 22	650calAD - 675calAD (68.3%)	645calAD - 686calAD (82.9%) 743calAD - 773calAD (12.6%)
IAAA-211493	4,810 ± 30	54.92 ± 0.18	4,835 ± 26	3646calBC - 3629calBC (39.2%) 3556calBC - 3538calBC (29.1%)	3653calBC - 3618calBC (48.0%) 3587calBC - 3528calBC (47.5%)
IAAA-211494	900 ± 20	89.45 ± 0.24	928 ± 22	1046calAD - 1084calAD (33.5%) 1094calAD - 1103calAD (6.4%) 1123calAD - 1160calAD (28.4%)	1035calAD - 1170calAD (95.4%)

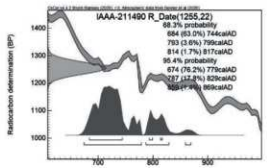
［参考値］

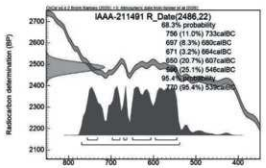


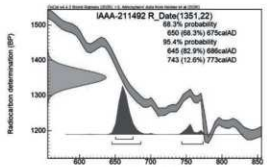


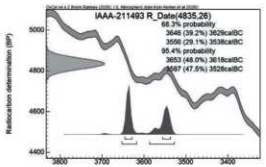


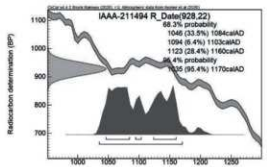












第 62 図　暦年較正年代グラフ（参考）

第２節　テフラ分析

藤根　久・鈴木正章（パレオ・ラボ）

１ はじめに

秋田市雄和田草川字大又地内に所在する大又Ⅱ遺跡の調査において、遺構の埋土からテフラが検出された。ここでは、このテフラ試料について火山ガラスと鉱物組成、火山ガラスの屈折率測定を行い、テフラの同定を行った。

２ 試料と方法

分析試料は、SD01 の埋土から採取されたテフラ試料１点である（第 36 表）。

第36表　分析試料とその特徴

分析No.	遺構名	グリッド	層位	取上げNo.	堆積物の色調	予想されるテフラ
1	ＳＤ01	LR54･55･LS54･55	Ｂ③層	552	にぶい黄褐色（10YR 5/4），砂質テフラ	To-a

試料は、以下の方法で処理した。

湿潤重量 30g 程度を秤量した後、１φ（0.5mm）、２φ（0.25mm）、３φ（0.125mm）、４φ（0.063mm）の４枚の篩を重ね、湿式篩分けをした。

４φ篩残渣について、重液（テトラブロモエタン、比重 2.96）を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。軽鉱物については、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製し、軽鉱物組成と火山ガラスの形態分類を行った。火山ガラスの形態は、町田・新井（2003）の分類基準に従って、バブル型平板状（b1）、バブル型Ｙ字状（b2）、軽石型繊維状（p1）、軽石型スポンジ状（p2）、急冷破砕型フレーク状（c1）、急冷破砕型塊状（c2）に分類した。重鉱物については、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製し、斜方輝石（Opx）、単斜輝石（Cpx）、角閃石（Ho）、磁鉄鉱（Mg）を同定・計数した。

４φ軽鉱物中の火山ガラスは、横山ほか（1986）に従い、温度変化型屈折率測定装置（株式会社古澤地質製、MAIOT）を用いて屈折率測定を行った。

３ 結果

以下に、試料の特徴、鉱物組成、火山ガラスの形態分類、屈折率の測定結果について述べる。

第37表　テフラ試料の湿式篩分け・重液分離の結果

分析No.	処理重量（g）	砂粒分の粒度組成（重量g）				軽・重鉱物組成（重量g）	
		1φ	2φ	3φ	4φ	軽鉱物	重鉱物
1	12.06	0.00	0.10	1.75	1.34	0.12	0.01

［分析 No.１（SD01）］

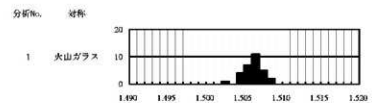
分析試料は、にぶい黄褐色（10YR 5/4）の砂質テフラである。篩分けした結果、３φ篩残渣が最も多い。４φ篩残渣の重液分離では、軽鉱物の割合が非常に高い（第 37 表）。

軽鉱物では、火山ガラスが多く含まれ、長石（Pl）や石英（Qu）、雲母（Bi）を伴う。火山ガラスは、軽石型ガラス（p1、p2）が多く、バブル型ガラス（b1、b2）を伴う。重鉱物では、斜方輝石（Opx）が多く、単斜輝石（Cpx）や磁鉄鉱（Mg）を伴う。また、角閃石（Ho）も少量含む（第 38 表）。

火山ガラスの屈折率は、範囲 1.5029-1.5083（平均値 1.5061）であった（第 63 図）。

第38表　4φ篩残渣中の鉱物組成

分析No.	石英 (Qz)	長石 (Pl)	雲母 (Bi)	不明 (Unc)	火山ガラス						ガラス合計	鉱物合計	重鉱物					重鉱物の合計
					バブル（薄）型		軽石型		塊状破砕型				斜方輝石 (Opx)	単斜輝石 (Cpx)	角閃石 (Ho)	緑簾石 (Ep)	不明 (Unc)	
					平板状 (Gl)	平行状 (Gl2)	繊維束 (pf)	スポンジ状 (pf2)	フレーク状 (cl)	塊状 (cl2)								
1	2	21	2	56	10	61	24	60			169	250	100	39	9	73	23	250



範囲(range)	平均 (mean)	個数
1.5029 - 1.5083	1.5061	30

第63図　火山ガラスの屈折率測定結果

4 考察

SD01 のテフラ試料は、軽石型の火山ガラスが特徴的に多く、バブル型ガラスを含んでいた。また、重鉱物では、斜方輝石（opx）と単斜輝石（cpx）を特徴的に含んでいた。火山ガラスの屈折率は、1.503-1.508 範囲を示した。以上の分析結果から、このテフラは十和田 a テフラ（To-a）と同定される。

十和田 a テフラ（To-a）は、AD915 年に十和田火山から噴火したテフラである。降下軽石（pfa）、降下火山灰（afa）、火砕流堆積物（pfl）からなり、南側 300km、東側 80km の、10,000km^2 の範囲に及ぶ。テフラは、斜方輝石（opx）、単斜輝石（cpx）、黒曜石（ob）を特徴的に伴う。火山ガラスは、主に軽石型ガラスで構成され、火山ガラスの屈折率は 1.500-1.508 である。また、単斜輝石の屈折率（γ）は 1.706-1.708 である（町田・新井，2003）。

引用文献

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．336p，東京大学出版会．

横山卓雄・檀原　徹・山下　透（1986）温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定．第四紀研究，25，21-30．

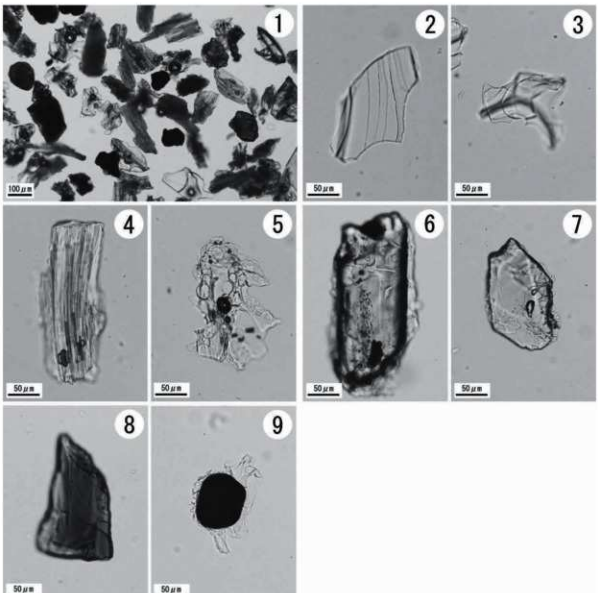


写真2　4φ残渣中のテフラ粒子の偏光顕微鏡写真

1. 分析試料（4φ残渣中の軽鉱物）　2. バブル型平板状ガラス（b1）
3. バブル型Y字状ガラス（b2）　4. 軽石型繊維状ガラス（p1）
5. 軽石型スポンジ状ガラス（p2）　6. 斜方輝石（Opx）
7. 単斜輝石（Cpx）　8. 角閃石（Ho）　9. 磁鉄鉱（Mg）

1　調査区全景（南東から）

2　調査区全景（真上から、写真上が北方向）

図版 1

3　A区　SA01・SD01　全景（西から）

4　A区　SA01・SD01 g－g' 土層断面（北東から）

5　A区　SA01・SD01　LL-LN間　柱痕跡検出（北西から）

6　SD01出土赤褐色土器　集合写真（右奥：A層、左奥：B層、手前：C・D層）

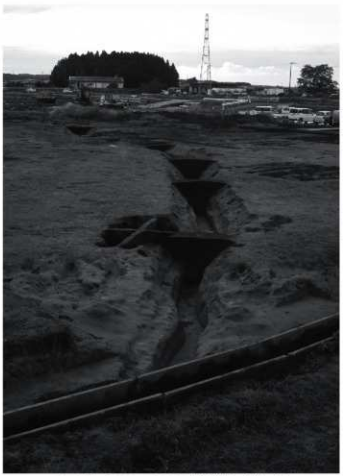
図版2

7　大又Ⅱ遺跡周辺の空中写真①　国土地理院　（平成21年（2009）撮影：CTO20094-C18-13）

8　大又Ⅱ遺跡周辺の空中写真②　国土地理院　（昭和23年（1948）撮影：USA-M1072-25）

図版3

9　A区　SD01 検出状況（東から）



10　A区　SA01・SD01 完掘状況（東から）

11　B区　SD01 検出状況（西から）

12　B区　SA01・SD01 完掘状況（西から）

図版 4

13 A区 SA01・SD01 b-b' 土層断面（西から）

14 A区 SA01・SD01 LJ-LL間 完掘状況（東から）

15 B区 SA01・SD01 完掘状況（東から）

図版5

16 A区 SD01 A層 鉄滓出土状況（西から）

17 A区 SD01 A層 フイゴ羽口（No. 21）出土状況（南から）

18 A区 SD01 LN-LP間 B層十和田a火山灰検出状況（北西から）

19 B区 SD01 ML-MN間 B層 十和田a火山灰検出状況（東から）

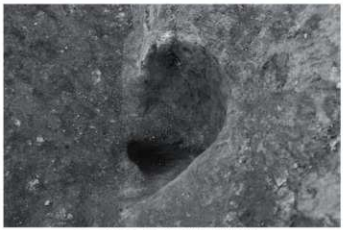
20 A区 SD01 B層 十和田a火山灰近景（北から）

21 B区 SD01 B層 十和田a火山灰近景（北から）

22 A区 SD01 o-o' ベルト 遺物（No. 43）出土状況（東から）

23 A区 SD01 LL-LN間 C・D層 検出状況（東から）

図版6



24 A区 ＳＰ065 土層断面（東から）

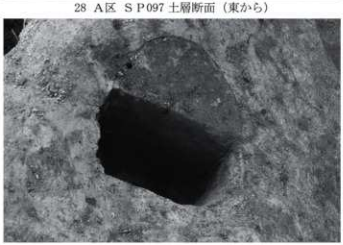
25 A区 ＳＰ074 土層断面（東から）

26 A区 ＳＰ080 土層断面（東から）

27 A区 ＳＰ094 土層断面（東から）

28 A区 ＳＰ097 土層断面（東から）

29 A区 ＳＰ098 土層断面（東から）



30 A区 ＳＰ136 土層断面（東から）

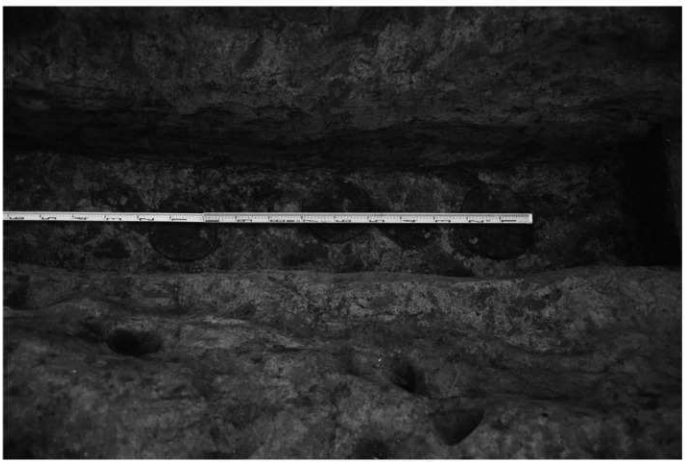
31 A区 ＳＰ137 土層断面（東から）

図版 7

32 B区 SA01・SD01 MO-MP間 G層検出（東から）

33 A区 SD01 LP-LR間 工具痕検出（南東から）

34 A区 SA01・SD01 a-a' 土層断面（西から）



35 SA01 LL-LN間 柱痕跡検出（北から）

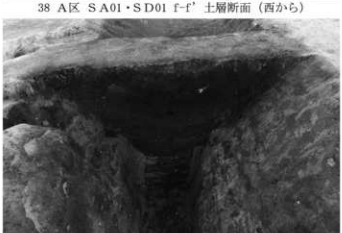
図版8

36 A区 SA01・SD01 c-c' 土層断面（西から）

37 A区 SA01・SD01 d-d' 土層断面（西から）

38 A区 SA01・SD01 f-f' 土層断面（西から）

39 A区 SA01・SD01 i-i' 土層断面（西から）



40 A区 SA01・SD01 j-j' 土層断面（西から）

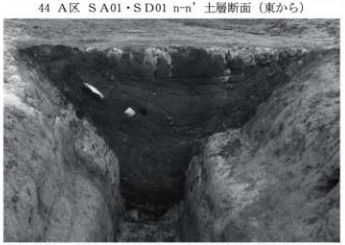
41 A区 SA01・SD01 k-k' 土層断面（東から）

42 A区 SA01・SD01 ℓ-ℓ' 土層断面（東から）

43 A区 SA01・SD01 m-m' 土層断面（西から）

図版9

44 A区 SA01・SD01 n-n' 土層断面（東から）

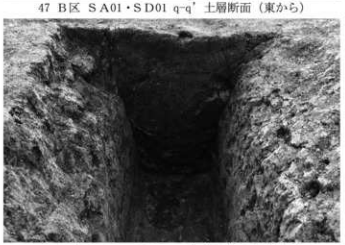


45 A区 SA01・SD01 o-o' 土層断面（西から）

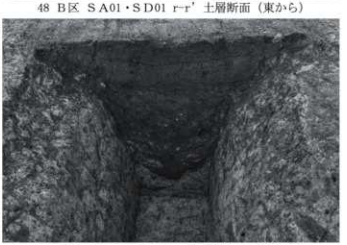
46 A区 SA01・SD01 p-p' 土層断面（西から）

47 B区 SA01・SD01 q-q' 土層断面（東から）

48 B区 SA01・SD01 r-r' 土層断面（東から）



49 B区 SA01・SD01 s-s' 土層断面（東から）

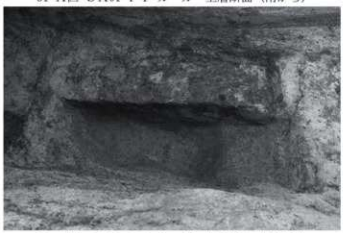


50 B区 SA01・SD01 t-t' 土層断面（東から）

図版 10

51 A区 SA01 P1 カ－カ’土層断面（南から）

52 A区 SA01 P2 キ－キ’土層断面（南から）



53 A区 SA01 P3 ク－ク’土層断面（南から）

54 A区 SA01 P4 コ－コ’土層断面（東から）

55 A区 SA01 サ－サ’土層断面（南東から）

図版 11